

栃木県埋蔵文化財調査報告第 377 集

# 鹿島前遺跡

—国指定史跡那須小川古墳群隣接地における  
栃木県重要遺跡範囲確認調査—

2015.9

栃木県教育委員会  
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

か しま まえ い せき  
鹿島前遺跡

—国指定史跡那須小川古墳群隣接地における  
栃木県重要遺跡範囲確認調査—

2015. 9

栃木県教育委員会  
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

## 序

鹿島前遺跡は、栃木県の北西部、那須郡那珂川町に位置しています。那珂川町は、豊かな自然に恵まれ、歴史と優れた文化遺産があります。鹿島前遺跡に隣接する那須小川古墳群は、前方後方墳と方墳によって構成され、全国的にも貴重であることから、平成14年に国指定史跡「那須小川古墳群 駒形大塚古墳 吉田温泉神社古墳群 那須八幡塚古墳群」として指定されました。

このたび、重要遺跡範囲確認調査の事業として、この古墳群に隣接する鹿島前遺跡の確認調査を行いました。

発掘調査では、国指定史跡古墳の溝の一部や方墳、さらには古墳時代の方形区画遺構などが発見されました。また、各地との交流を示す土器も出土しました。いずれも那須地域の歴史や文化を考える上で、貴重なものです。

本報告書は、鹿島前遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました土地所有者の方々、那珂川町教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成27年9月

栃木県教育委員会  
教育長 古澤 利通



## 例 言

1. 本書は、重要遺跡範囲確認調査として実施した那須小川古墳群隣接地（鹿島前遺跡）の発掘調査報告書である。
2. 本事業は、栃木県教育委員会から公益財団法人とちぎ未来づくり財団が委託を受けて、財団の埋蔵文化財センターが実施した。事業の実施に当たっては、県教育委員会からの指導のもとに行った。
3. 調査体制は以下のとおりである。

確認調査  
平成26年度 副所長兼整理課長 田代 隆、係長 谷中 隆、嘱託調査員 齊藤達也  
整理・報告書作成  
平成27年度 副所長兼整理課長 藤田典夫、副主任 津野 仁
4. 現地における確認調査は谷中・齊藤、本報告書の執筆・編集は津野が担当した。
5. 表土除去・埋め戻し業務については、金澤建設株式会社に委託した。
6. 土層堆積図・遺構測量図化業務・3次元写真計測及び図化等業務については、株式会社シン技術コンサル北関東支店に委託した。
7. テフラ分析業務については、株式会社火山灰考古学研究所に委託した。
8. 本遺跡の発掘調査・整理報告に当たり、下記の方々に御指導・御協力を頂いた。厚くお礼の意を表します。  
青柳三郎・川俣勇也・菊地清昇・菊地英男・菊地マサ子・高瀬洋三・塚原純子・豊田 和・星 一明・和泉洋一・文化庁・栃木県土整備部烏山土木事務所・那珂川町教育委員会・穴澤義功・川又隆一郎・今平利幸・鈴木芳英・田中 裕・橋本澄朗
9. 確認調査の参加者は次の通りである。  
青木勝一・阿久津妙子・池澤 健・宇塚悦美・宇塚ヒサ・小川征男・加藤 清・川原稔由・菊地順子・菊地健仁・小林正三・佐藤 強・田澤良明・塚原純子・長島 詮・西村順雄・吉葉 博
10. 整理作業・報告書作成の参加者は次の通りである。  
熊谷早苗・武田智子・沖田有孝
11. 本遺跡の調査概要は、埋蔵文化財センター年報・栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されているが、本書を正式報告とする。
12. 本遺跡の出土遺物・資料類は、栃木県埋蔵文化財センターで保管している。

## 凡 例

1. 遺跡の略称は、那珂川町鹿島前遺跡を略したNW-KSである。
2. 遺構の略称は、SD：溝跡、SE：井戸跡、SI：竪穴住居跡である。
3. 古墳については、現地調査時の名称を下記のように変更した。  

(報告名称)	(旧名称)
温泉神社 21号墳	SZ-18
温泉神社 22号墳	SZ-3
温泉神社 23号墳	SZ-4
4. 全体図の座標は、世界測地系に基づき、図示した方位は座標北である。
5. 遺構の縮尺は、竪穴住居跡1/80、沢などの遺構外の部分1/80であるが、遺物出土状況図1/10である。各遺構図に付した調査区と遺構位置関係図は1/2000である。このほかの図については、縮尺を変更し、スケールを示したので、参照されたい。
6. 土層図中の番号はゴシック体が基本土層の番号、明朝体は遺構内土層の番号を示す。基本土層は第3章第5節に提示した。
7. 遺物の縮尺は、土器が1/4、鉄製品・鉄滓・銅塊等は1/2である。
8. 遺物実測図中のスクリーントーンは、以下の通りである。  
 赤彩  黒色処理 
9. 土器実測図の器面調整のうち、ナデは破線、ケズリは実線で示した。

遺構別掲載一覧表

遺構名	本文 掲載頁	表裏面 掲載頁	遺物図章表 掲載頁	遺構名	本文 掲載頁	表裏面 掲載頁	遺物図章表 掲載頁
温泉神社21号墳	11	11	11	SI-29	34	33・35	36
温泉神社22号墳	9・10	8・9	10	SI-30	36	39・40	40
温泉神社23号墳	10	8・9	10	SI-31	38	39・41	42
SD-11	12	13~17	18~21	SI-32	38	43	44
SI-1	23	22・23	23	SI-33	38	39~41	42
SI-2	27	22・23	23	SI-34	38	39~41	42
SI-6	27	24・25	25	SI-35	—	43	44
SD-7	56	24・25・56・68	25・72	SI-36	44	43	—
SK-8	—	24	—	SI-38	44	45	—
SI-9	27	24	25	SI-39	49	47	47
SI-10	—	24	25	SI-41	44	45	45
SK-12	29	26	27	SI-42	44	45・46	46
SK-13	29	26	—	SI-43	49	48	49
SE-14	29	26	27	SI-44	49	48・49	49
SI-15	—	26	27	SI-45	52	50	50
SI-16	29	26	27	SI-46	52	50	50
SK-19	30	28	—	SI-47	54	52	52
SK-20	30	28	29	SI-48	54	51	51
SI-21	30	28	29	SK-49	34	31・32	32
SI-22	30	28	29	SI-50	36	37	38
SI-23	30	31・32	32	SK-51	54	53	—
SI-24	30	31・32	32	SI-52	54	53	54
SK-25	—	31	—	SI-53	54	53	54
SI-26	36	37	38	SI-54	55	55	55
SI-27	34	33・35	35	SI-55	34	33・35	36
SI-28	34	33・35	35	遺構外	58・73	59~68	69~73

# 目次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	2
第3節 調査の経過	2
第2章 遺跡の環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 発見された遺構と遺物	6
第1節 調査の概要	6
第2節 古墳	8
第3節 方形区画遺構	12
第4節 竪穴住居跡・土坑等	22
第5節 その他の遺構	56
第6節 低地	56
第4章 総括	74
第1節 土器の時期区分	74
第2節 遺物について	76
第3節 遺構の変遷と那須小川古墳群との関連	78
付編 鹿島前遺跡発掘調査に係るテフラ分析	82

## 挿 図 目 次

第1図	那須小川古墳群・鹿島前遺跡の位置と 確認調査範囲	1	第28図	S I - 30 出土遺物実測図	40
第2図	栃木県及び鹿島前遺跡周辺の地形図	3	第29図	S I - 31・33・34 出土遺物実測図	41
第3図	鹿島前遺跡全体図と付近の地形	4	第30図	S I - 32・35・36 実測図・ 出土遺物実測図	43
第4図	吉田温泉神社古墳群・ 那須八幡塚古墳群と鹿島前遺跡	5	第31図	S I - 38・41・42 実測図・ 出土遺物実測図	45
第5図	鹿島前遺跡調査地全景（上空から）	6	第32図	S I - 42 出土遺物実測図	46
第6図	鹿島前遺跡全体図	7	第33図	S I - 39 実測図・出土遺物実測図	47
第7図	温泉神社 22・23 号墳実測図（1）	8	第34図	S I - 43・44 実測図・出土遺物実測図	48
第8図	温泉神社 22・23 号墳実測図（2）・ 出土遺物実測図	9	第35図	S I - 44 出土遺物実測図	49
第9図	温泉神社 21 号墳（観音堂古墳）実測図・ 出土遺物実測図	11	第36図	S I - 45・46 実測図・出土遺物実測図	50
第10図	S D - 11 実測図（1）	13	第37図	S I - 47・48 実測図・出土遺物実測図	51
第11図	S D - 11 実測図（2）	14	第38図	S I - 47 出土遺物実測図	52
第12図	S D - 11 出土遺物実測図（1）	15	第39図	S I - 52・53・S K - 51 実測図・ 出土遺物実測図	53
第13図	S D - 11 出土遺物実測図（2）	16	第40図	S I - 54 実測図・出土遺物実測図	55
第14図	S D - 11 出土遺物実測図（3）	17	第41図	S D - 7 と周辺遺構実測図	56
第15図	S I - 1・2 実測図	22	第42図	土層図の位置と地形復元図	57
第16図	S I - 1・2 出土遺物実測図	23	第43図	低地土層図（1）	59
第17図	S I - 6・9・10・S D - 7・S K - 8 実測図・S I - 10 出土遺物実測図	24	第44図	低地土層図（2）	60
第18図	S I - 6・9・S D - 7 出土遺物実測図	25	第45図	低地土層図（3）	61
第19図	S I - 15・16・S K - 12・13・ S E - 14 実測図・出土遺物実測図	26	第46図	低地土層図（4）	62
第20図	S I - 21・22・S K - 19・20 実測図・ 出土遺物実測図	28	第47図	低地土層図（5）	63
第21図	S I - 23・24・S K - 25・49 実測図	31	第48図	低地土層図（6）	64
第22図	S I - 23・24・S K - 49 出土遺物 実測図	32	第49図	低地の高さと周辺表土厚	65
第23図	S I - 27・28・29・55 実測図	33	第50図	調査区遺構外出土遺物実測図（1）	66
第24図	S I - 27・28・29・55 出土遺物実測図	35	第51図	調査区遺構外出土遺物実測図（2）	67
第25図	S I - 26・50 実測図・出土遺物実測図	37	第52図	調査区遺構外出土遺物実測図（3）	68
第26図	S I - 30・31・33・34 実測図	39	第53図	調査区遺構外出土鉄製品等実測図	68
第27図	S I - 33 貯蔵穴・S I - 34 断面実測図	40	第54図	鹿島前遺跡における土器の変遷	75
			第55図	粘土に金色雲母のある茨城県からの 搬入土器	76
			第56図	ススが付着する土器	77
			第57図	鉄・銅関連遺物出土位置	77
			第58図	鹿島前遺跡における遺構の変遷	79

## 表 目 次

第1表	温泉神社 22 号墳出土遺物観察表	10	第16表	S I - 21 出土遺物観察表	29
第2表	温泉神社 23 号墳出土遺物観察表	10	第17表	S I - 22 出土遺物観察表	29
第3表	温泉神社 21 号墳（観音堂古墳） 出土遺物観察表	11	第18表	S I - 23 出土遺物観察表	32
第4表	S D - 11 出土遺物観察表	18～21	第19表	S I - 24 出土遺物観察表	32
第5表	S I - 1 出土遺物観察表	23	第20表	S K - 49 出土遺物観察表	32
第6表	S I - 2 出土遺物観察表	23	第21表	S I - 27 出土遺物観察表	35
第7表	S I - 6 出土遺物観察表	25	第22表	S I - 28 出土遺物観察表	35
第8表	S I - 9 出土遺物観察表	25	第23表	S I - 29 出土遺物観察表	36
第9表	S I - 10 出土遺物観察表	25	第24表	S I - 55 出土遺物観察表	36
第10表	S D - 7 出土遺物観察表	25	第25表	S I - 26 出土遺物観察表	38
第11表	S K - 12 出土遺物観察表	27	第26表	S I - 50 出土遺物観察表	38
第12表	S E - 14 出土遺物観察表	27	第27表	S I - 30 出土遺物観察表	40
第13表	S I - 15 出土遺物観察表	27	第28表	S I - 31 出土遺物観察表	42
第14表	S I - 16 出土遺物観察表	27	第29表	S I - 33 出土遺物観察表	42
第15表	S K - 20 出土遺物観察表	29	第30表	S I - 34 出土遺物観察表	42
			第31表	S I - 32 出土遺物観察表	44

第32表	S I - 35 出土遺物観察表	44	第40表	S I - 48 出土遺物観察表	51
第33表	S I - 41 出土遺物観察表	45	第41表	S I - 47 出土遺物観察表	52
第34表	S I - 42 出土遺物観察表	46	第42表	S I - 52 出土遺物観察表	54
第35表	S I - 39 出土遺物観察表	47	第43表	S I - 53 出土遺物観察表	54
第36表	S I - 43 出土遺物観察表	49	第44表	S I - 54 出土遺物観察表	55
第37表	S I - 44 出土遺物観察表	49	第45表	調査区遺構外出土遺物観察表	69 ~ 72
第38表	S I - 45 出土遺物観察表	50	第46表	調査区遺構外出土鉄製品等遺物観察表	73
第39表	S I - 46 出土遺物観察表	50			

## 図版目次

図版一	調査区全景 鹿島前遺跡全景（北西から） 1・5・8区 全景（西から）	S I - 1 全景（南から） S I - 1 A-A`土層（南西から） S I - 1 B-B`土層（南東から）
図版二	遺構 古墳 温泉神社22・23号墳 全景（西から） 温泉神社22号墳 全景（南東から） 温泉神社22号墳 全景（北西から） 温泉神社22・23号墳 土層（南東から） 温泉神社22号墳 土層（東から） 温泉神社23号墳 土層（南東から） 温泉神社23号墳 土層A（南東から） 温泉神社22号墳 南西部遺物出土状況（南西から）	S I - 2 全景（南東から） S I - 2 土層（東から） S I - 6 全景（西から）
図版三	遺構 古墳・方形区画遺構 温泉神社21号墳 周溝南辺（南から） 温泉神社21号墳 周溝南辺（南東から） 温泉神社21号墳 土層（南東から） 区画溝北辺（南西から） 5区 張り出し部（北西から） 5区 区画溝西辺（南西から） 8区 区画溝南辺（北北東から） 1区 S D - 11 トレンチ内遺物出土状況（北東から）	遺構 竪穴住居跡・溝跡等 S I - 6 土層（北西から） S I - 9 井戸・土坑土層（南東から） S I - 9 鉄鏝出土状況（西から） S I - 10 全景（北西から） S I - 10 香炉出土状況（西から） S D - 7 全景（東から） S D - 7（1区）土層（北東から） S D - 7（1区）中層礫出土状況（北東から）
図版四	遺構 方形区画遺構 S D - 11 全景（上空から） 1区 区画溝北辺（南西から） 5区 西辺から張り出し部（南西から） 8区 区画溝西コーナー（西から） 8区 区画溝西コーナー（南東から）	遺構 竪穴住居跡等 S K - 8 土層（西から） S I - 16 全景（北西から） S I - 16 土層（南西から） S K - 12 全景（西から） S K - 13 土層（北西から） 3区 東トレンチ全景（南から） S I - 21・22 全景（南から） S I - 21・22 土層（南西から）
図版五	遺構 方形区画遺構 1区 S D - 11 上層～中層遺物出土状況（南東から） 1区 S D - 11 トレンチ内遺物出土状況（北から） 5区 S D - 11 西辺含土の状況（西から） 5区 S D - 11 遺物出土状況（東から） 5区 S D - 11 南寄り遺物出土状況（西から） 5区 S D - 11 北辺窓(33)出土状況（北西から） 8区 S D - 11 土層（南東から） 8区 S D - 11 南半部土層（南東から）	遺構 竪穴住居跡等 S I - 21・22 土層重複関係（南から） S K - 19・20 全景（北東から） S K - 19 土層（東から） S K - 20 土層（北東から） S I - 23・24 全景（北東から） S I - 23 土層（北から） S I - 23 高坏出土状況（南から） S I - 24 全景（北から）
図版六	遺構 方形区画遺構・竪穴住居跡 8区 S D - 11 上層～中層遺物出土状況（東から） 8区 S D - 11 壺(47)出土状況（南東から）	遺構 竪穴住居跡等 S I - 24 土層（北東から） S I - 24 東壁際遺物出土状況（北東から） S K - 25 土層（南から） S K - 49 全景（北から） S K - 49 土層（北東から） 4区 東トレンチ遺構確認状況（北から） S I - 27 全景（東から） S I - 28 全景（東から）
		図版一〇 遺構 竪穴住居跡等 S I - 24 土層（北東から） S I - 24 東壁際遺物出土状況（北東から） S K - 25 土層（南から） S K - 49 全景（北から） S K - 49 土層（北東から） 4区 東トレンチ遺構確認状況（北から） S I - 27 全景（東から） S I - 28 全景（東から）
		図版一一 遺構 竪穴住居跡等 S I - 27・28・55 土層（南西から） S I - 27・28 土層重複関係（西から）



- S I - 28・55 土層 (南東から)  
 S I - 28・55 土層 重複関係 (東から)  
 S I - 27 北部遺物出土状況 (南西から)  
 S I - 28 遺出土状況 (東から)  
 S I - 29 全景 (東から)  
 S I - 29 土層 (南東から)
- 図版一八 遺構 竪穴住居跡等  
 4区 北トレンチ (東から)  
 S I - 26 全景 (南から)  
 S I - 26 土層 (南東から)  
 S I - 50 全景 (北から)  
 S I - 50 土層 (北東から)  
 4区 南トレンチ (東から)  
 S I - 30 土層 (西から)  
 S I - 30 遺物出土状況 (北東から)
- 図版一九 遺構 竪穴住居跡等  
 S I - 31 全景 (東から)  
 S I - 31 土層 (南東から)  
 S I - 31 糞 (6) 出土状況 (南西から)  
 S I - 33 全景 (北から)  
 S I - 33 土層 (南西から)  
 S I - 34 全景 (西から)  
 S I - 34 土層 (北東から)  
 S I - 34 北西隅遺物出土状況 (南から)
- 図版二〇 低地  
 低地土層 A - A' (北東から)  
 低地土層 B - B' (南西から)  
 低地土層 C - C' (南西から)  
 低地土層 D - D' 西部 (南東から)  
 低地土層 D - D' 中央部 (南東から)  
 低地土層 D - D' 東部 (南東から)  
 低地土層 D - D' 深掘り調査地 (南から)  
 低地土層 E - E' 西部 (南西から)  
 低地土層 E - E' 東部 (南東から)  
 低地土層 E - E' 深掘り調査地 (南から)
- 図版二一 低地  
 低地土層 F - F' (南西から)  
 低地土層 F - F' (南東から)  
 低地土層 G - G' (南東から)  
 低地土層 G - G' (北東から)  
 低地土層 H - H' (南西から)  
 低地土層 H - H' (南東から)  
 低地土層 I - I' (北東から)  
 低地土層 I - I' 南部 (東から)  
 低地土層 I - I' 中央部 (東から)  
 低地土層 I - I' 北部 (東から)
- 図版二二 低地  
 低地土層 K - K' (北東から)  
 低地土層 J - J' (南東から)  
 低地土層 M - M' (南東から)  
 低地土層 M - M' 南部 (東から)  
 低地土層 M - M' 中央部 (東から)  
 低地土層 M - M' 北部 (東から)  
 低地土層 L - L' (北東から)  
 低地土層 N - N' (北東から)  
 低地土層 O - O' (北東から)  
 低地土層 W - W' (南東から)
- 図版一四 遺構 竪穴住居跡等  
 S I - 32 全景 (西から)  
 S I - 32 全景 (南から)  
 S I - 32 土層 (東から)  
 S I - 32 遺物出土状況 (北から)  
 S I - 35・36 全景 (南から)  
 S I - 36 全景 (西から)  
 S I - 36 土層 (西から)  
 S I - 38 カマド (北から)
- 図版一五 遺構 竪穴住居跡等  
 S I - 41 全景 (東から)  
 S I - 41 土層 (北東から)  
 S I - 42 全景 (東から)  
 S I - 42 土層 (北東から)  
 S I - 42 遺物出土状況 (北東から)  
 S I - 42 確認面南半部遺物出土状況 (南西から)  
 S I - 39 土層 (北東から)  
 S I - 39 遺物出土状況 (東から)
- 図版一六 遺構 竪穴住居跡等  
 S I - 43 土層 (北東から)  
 S I - 44 全景 (南から)  
 S I - 44 土層 (南西から)  
 S I - 44 遺物出土状況 (南西から)  
 13区 全景 (北から)  
 S I - 45 全景 (南東から)  
 S I - 45 土層 (南東から)  
 S I - 46 全景 (南から)
- 図版一七 遺構 竪穴住居跡等  
 S I - 46 土層 (北西から)  
 S I - 46 北部土層 (北西から)  
 S I - 46 中央部土層 (北西から)

図版二三	低地	
	低地土層	P-P* (南東から)
	低地土層	Q-Q* (南西から)
	低地土層	R-R* (北東から)
	低地土層	T-T* (南東から)
	低地土層	U-U* (西から)
	低地土層	V-V* (南西から)
	低地土層	S-S* (北東から)
	低地土層	X-X* (北西から)
	低地土層	Y-Y* (北西から)
	低地土層	Z-Z*南部 (南東から)
	低地土層	Z-Z*中央部 (南東から)
	低地土層	Z-Z*北部 (北東から)

図版二四	古墳・方形区画遺構出土遺物	
	温泉神社22号墳5	S D-11 18
	温泉神社22号墳7	S D-11 20
	S D-11 1	S D-11 23
	S D-11 2	S D-11 25
	S D-11 8	S D-11 26
	S D-11 9	S D-11 28
	S D-11 11	S D-11 29
	S D-11 14	S D-11 33
	S D-11 15	S D-11 35
	S D-11 16	

図版二五	方形区画遺構・竪穴住居跡出土遺物	
	S D-11 46	S D-11 77
	S D-11 47	S D-11 82
	S D-11 48	S D-11 83
	S D-11 50	S D-11 90
	S D-11 56	S D-11 91
	S D-11 63	S D-11 93
	S D-11 65	S D-11 99
	S D-11 69	S D-11 102
	S D-11 70	S I-1 1
	S D-11 73	S I-1 2

図版二六	竪穴住居跡等出土遺物	
	S I-1 5	S I-27 1
	S I-6 3	S I-27 2
	S I-9 3	S I-27 3
	S I-16 2	S I-27 5
	S I-21 3	S I-28 4
	S I-21 4	S I-28 5
	S I-22 2	S I-28 6
	S I-23 1	S I-30 1
	S I-23 2	S I-30 2
	S K-49 3	

図版二七	竪穴住居跡出土遺物	
	S I-55 4	S I-33 2
	S I-31 1	S I-33 3
	S I-31 3	S I-34 1
	S I-31 4	S I-34 5
	S I-31 5	S I-34 6
	S I-31 6	S I-34 7
	S I-31 7	S I-32 1
	S I-31 8	S I-42 2
	S I-31 9	S I-42 3
	S I-31 11	S I-42 4
	S I-33 1	

図版二八	竪穴住居跡・遺構外出土遺物	
	S I-42 5	S I-44 4
	S I-42 7	S I-46 1
	S I-42 8	S I-47 1
	S I-42 9	S I-47 2
	S I-42 10	S I-47 7 副部
	S I-42 11	S I-52 1
	S I-42 12	S I-53 1
	S I-39 2	S I-54 2
	S I-39 3	遺構外 1区1
	S I-44 1	遺構外 4区8

図版二九	遺構外出土遺物	
	遺構外 1区4 上半	遺構外 5区22
	遺構外 1区4 下半	遺構外 5区23
	遺構外 5区2	遺構外 5区24
	遺構外 5区3	遺構外 9区2
	遺構外 5区4	遺構外 9区5
	遺構外 5区11	遺構外 9区6
	遺構外 5区13	遺構外 9区8
	遺構外 5区15	遺構外 9区12
	遺構外 5区17	遺構外 9区14
	遺構外 5区18	遺構外 11区1
	遺構外 5区21	

図版三〇	遺構外出土遺物	
	遺構外 11区3	遺構外 17区1
	遺構外 14区1	遺構外 20区1
	遺構外 14区2	遺構外 20区2
	遺構外 14区3	遺構外 21区1
	遺構外 14区4	遺構外 県教委調査分1
	遺構外 14区5	遺構外 県教委調査分2
	遺構外 14区6	遺構外 県教委調査分4
	遺構外 14区7	遺構外 県教委調査分7
	遺構外 14区10	遺構外 県教委調査分8
	遺構外 14区12	遺構外 10区表採3

## 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

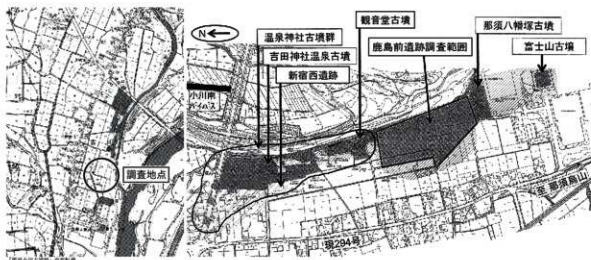
栃木県那須郡那珂川町に所在する駒形大塚古墳、吉田温泉神社古墳、那須八幡塚古墳は昭和54年3月13日に「那須小川古墳群」として国指定史跡となり、平成14年12月19日には追加指定され、那珂川町を中心として遺跡の保護が図られている。

しかしながら、近年、史跡の周辺で開発が進行しており、県土整備部において国道294号バイパス建設が計画されたことから、平成25年12月から平成26年1月にかけて、史跡に隣接するバイパス工事予定地内において埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施した。その結果、史跡地外においても古墳時代前期の遺構が存在することが事実となったため、那須小川古墳群周辺における遺構の広がりなどを確認するための調査を実施することの必要性が高まった。

特に温泉神社21号墳（観音堂古墳）と那須八幡塚古墳の間は、鹿島前遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地であることは明らかにされているものの、国史跡指定範囲の空白地が存在しているため、遺跡の性格や内容の把握が必要であり、確認調査を実施して周辺地域の遺跡を保護するための基礎材料を得ることが急務であった。

ここにおいて、文化財課において遺跡の範囲確認のための確認調査が立案されることになった。しかしながら確認調査予定地となる鹿島前遺跡の該当地は全て民有地であるため、平成26年度当初では具体的な調査の実施日程が未定であった。その後の調整の結果、平成26年11月に現地説明会を行い、地権者の同意が得られ、確認調査実施の目的がつかことから重要遺跡範囲確認の一環で鹿島前遺跡の確認調査を実施する運びとなった。

平成26年度の重要遺跡範囲確認調査については、4月1日付けで、栃木県教育委員会と公益財団法人とちぎ未来づくり財団間（以下財団）で契約締結が行われていたが、鹿島前遺跡の確認調査を実施することに伴い、調査事業を追加する変更契約が平成26年12月26日付けで交わされ、現地における作業は年明けの平成26年1月から3月まで行うこととした。



第1図 那須小川古墳群・鹿島前遺跡の位置と確認調査範囲

## 第2節 調査の方法

本遺跡の南北には、国指定史跡那須八幡塚古墳・観音堂古墳・温泉神社古墳を含めた那須小川古墳群が分布している。このため、古墳群に挟まれた鹿島前遺跡でも前期古墳群や関連する遺構が存在すると想定された。今回の調査では、遺跡の範囲を確認する目的から遺跡対象地全体について、確認調査を行うこととした。

遺跡地内には南北に農道が走っており、これと直角に水田畦畔が設定されていることから、この農道・畦畔に沿って基本となる試掘坑を設けた。さらに試掘坑で遺構が確認された場合には、一部調査地を拡張した。試掘坑は調査地北半分で、北側から1区から7区とし、南半分は東側から西側に9区から21区と呼称した。試掘坑の掘削には重機を用い、幅5mを基本として24,897㎡ある調査範囲全体に配置した。ローム層を確認面としたが、黒色土が厚く堆積する低地の部分は古墳時代包含層下面を遺構確認面として掘り下げを行った。トレンチ調査部分の総面積は6,884㎡である。

遺構確認後は、1区から通し番号で、S I・S D等と遺構の性格に関わらず順番で、遺構に番号を付した。遺構は、各遺構の時期を特定する目的で、遺構の一部に試掘坑を設け、掘り下げた。竪穴住居や溝では床面まで下げ、堆積土の状況等を確認した。遺物は遺構確認時・試掘坑掘り下げ時にも出土した。これらは平面・垂直出土位置を委託して記録した。

各試掘坑では遺構を確認するとともに、旧地形の把握のため自然堆積土層の堆積状況についても調査した。土層図も調査期間等の関係から、委託によって作成した。遺構・土層等の写真はカラーリバーサル・モノクロ35mmフィルム、デジタルカメラで記録した。

以上のような記録を終えた後に、航空写真撮影を行い、これをもとに遺構平面図を委託によって作成した。

## 第3節 調査の経過

平成27年1月5日から確認調査の諸準備に入った。現地における調査は1月13日から行い、重機による表土除去は13日から2月9日まで実施した。1月16日からは発掘作業員により1区北側から遺構確認作業を行った。5区は1月19日から、2区は1月26日から、4・5区は1月27日から、8区は2月3日から、18～22区は2月5日から、7・12・13・15・16区は2月6日から、3・6区は2月9日から、11・14・17区は16日から、10・19区は2月17日から、9区は2月20日から精査を行った。特に、2月上旬からは、竪穴住居などの遺構の平面形確定作業を実施した。

2月23日からは、竪穴住居跡の試掘を始め、2月19日からは3次元測量図化のための航空写真撮影及び基準点測量を実施した。

低地部の調査は、各調査区ともに重機でローム面遺構確認面と同じ高さまで表土除去を行い、遺構の有無と土の堆積を調査していたが、2月25日からは調査区内に試掘坑を設けて掘り下げを始めた。2月24日には航空写真撮影及び遺構測量図化作業を実施した。

3月には遺構に設定した試掘坑や低地部の掘り下げ、及びその部分の土層観察・写真や図面など記録類の作成を主に行った。遺物も出土位置などを記録して、順次取り上げた。

このような作業と測量図化の校正を行い、全体写真を撮影した後に埋め戻しをして、現地における調査を終了した。

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

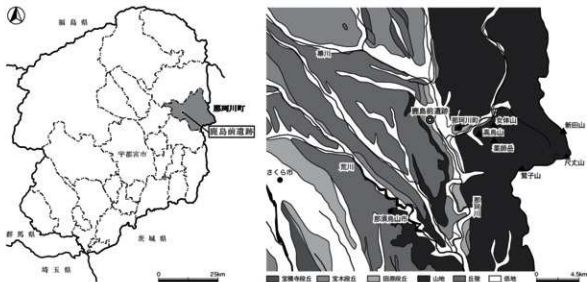
那珂川町は栃木県の南北中央部東端にある。西は喜連川丘陵で、町の中央を南北に那珂川が流れる。川の東側は八溝山地となっている。八溝山地の最高峰は八溝山の1,022 mで、八溝山地は標高600～1,000 m、鷲子山地は400～500 m、鶏足山地が300～500 mであることから、南に行くに従って山地が低くなっている。那珂川は、那須岳に源を発し、余笹川・箒川・荒川が合流して、茨城県に流れ、太平洋に注ぐ。川の左右は段丘となっている。本遺跡に接する権津川は喜連川丘陵に源流を発し、北東から南東に流れて、吉田地内で那珂川に合流している。

遺跡のある那珂川町吉田是那珂川と権津川の合流地右岸にあたる。那珂川右岸は、河岸段丘上に台地が広がっており、箒川との合流付近から那須烏山市との境付近までは幅2 km～1.5 km程の平坦地となっている。この部分は旧小川町の市街地となり、その周囲には田園が広がっている。遺跡はこの台地の縁で、川に接した部分に所在する。一方、那珂川の左岸では開析された台地部分は狭く、山地が迫る。武茂川で開析された旧馬頭町市街地周囲が段丘上の台地になっている。

### 第2節 歴史的環境

本確認調査は古墳時代の遺構・遺物について、遺跡の範囲確認を目的としている。隣接する那須小川古墳群の既往の調査や古墳時代前期の那須地域の様相については、吉田新宿古墳群や那須小川古墳群の概要書（眞保1999・2003）で詳細に述べられている。詳細はこれらの書に委ね、ここでは概要を記述する。

那珂川右岸で那須地域において確認されている古墳時代前期の古墳は、前方後方墳6基、方墳30基である。旧湯津上村では上流から下侍塚古墳、上侍塚北古墳、上侍塚古墳が前方後方墳で、隣接する侍塚8号墳が方墳である。旧小川町権津川流域では、駒形大塚古墳、吉田温泉神社古墳（温泉神社1号墳）、那須八幡塚古墳（八幡塚1号墳）が前方後方墳である。方墳は多く発見されており、三輪仲町遺跡で8基、吉田温泉神社付近



第2図 栃木県及び鹿島前遺跡周辺の地形図



第3図 鹿島前遺跡全体図と付近の地形



第4図 吉田温泉神社古墳群・那須八幡塚古墳群と鹿島前遺跡

で21基、那須八幡塚古墳周辺に1基ある。駒形大塚古墳の周辺でも方墳群が存在するといわれ、古墳時代前期の権津川流域には、駒形大塚古墳・温泉神社古墳群・八幡塚古墳群、さらには三輪仲町遺跡の方墳群があり、古墳時代前期の初期群集墳が群構成をして密集している。このうち、首長墓を含む駒形大塚古墳・温泉神社古墳群・八幡塚古墳群については、包括して那須小川古墳群と呼称し、国指定史跡になっている。さらに上流にある下侍塚古墳・侍塚8号墳、上侍塚北古墳、上侍塚古墳を加えれば、5群の初期群集墳の核的な存在となっている。

時期的には、古墳前期を3時期に区分する場合、駒形大塚古墳がⅡ期、吉田温泉神社古墳がⅢ期になり、墳丘が大型化する。この後には、前方後方墳は築かれなくなる。

さらに、三輪仲町遺跡では方墳のみで構成されており、この地域における階層的な社会関係が想定されている。

さらに、那須地域を含む栃木県域において、土器様相などから弥生時代から古墳時代への連続性は窺われず、対外的な影響が指摘されている。それは、弥生後期の二軒屋式土器と古墳前期の甕・壺など各器種にわたって形態的な相違が大きいことによる。栃木県内の古墳出現期に関しては主に県南での検討が多いが、くの字甕や複合口縁壺について、南関東からの系譜を重視する見解がある（今平 2000・石丸 2003）。

## 参考文献

- 石丸 敦史 2003 「下野地域における古墳時代前期の土器様相」『法政考古学第30集記念論文集』
- 今平 利幸 2000 「下野における古墳時代前期外來系土器の波及と定着」『栃木県考古学会誌』第21集
- 真保昌弘 1999 『那須吉田新宿古墳群発掘調査概要報告書』小川町教育委員会
- 真保昌弘 2003 『那須小川古墳群』小川町教育委員会

## 第3章 発見された遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

遺跡全体に設定した試掘調査の結果、那須八幡塚古墳の北側にあたる調査区南東部から観音堂古墳西側に至る幅30～40mの部分は、古墳時代以前に形成された細長い低地であることが判明した。低地は浅く傾斜もなだらかであるが、これにより調査地区は川沿いの東側台地面と西側台地面とに二分されている。

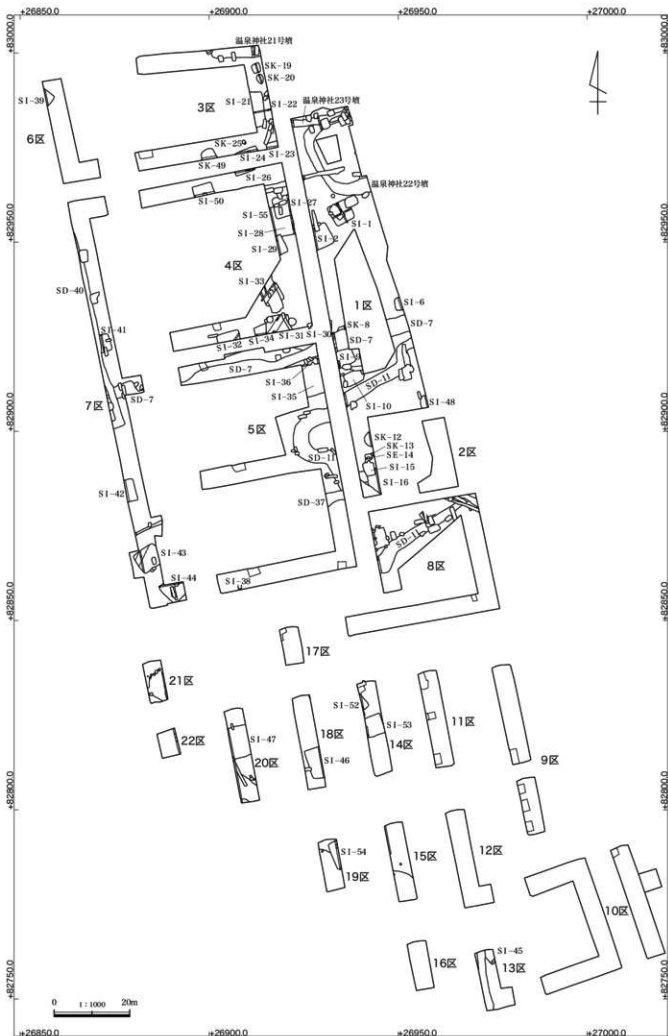
確認された遺構は、古墳時代前期の古墳3基、方形区画遺構1基、竪穴住居跡33軒、土坑4基、井戸2基、古墳時代後期の竪穴住居跡2軒、平安時代の竪穴住居跡2軒、中世とみられる多数の井戸、土坑、溝などである。各遺構は低地により二分された東西両台地面に立地しており、崖線に近い東側台地面に集中する。特に、方墳や突出部を有する方形区画遺構は権津川に面し、低地で区分された細長い台地上の先端に立地することが判明した。古墳時代前期の竪穴住居跡は、低地の東側・西側・南側にも存在し、東側では方形区画内や区画の北側で観音堂古墳との間にも確認された。区画溝の内側寄にはローム土が上層にも多量に確認されたことから、溝の掘削により出た土を区画溝の内側に土塁として盛っていたことが推定された。区画施設を覆った土からは6世紀初めの火山灰が確認されたことから、この墳には完全に区画施設も廃絶したことが確認された。

出土遺物は土師器、須恵器、土師質土器、鉄器、石器などであり、このうち古墳時代前期の遺物は、土師器（壺・甕・高坏・小型壺・鉢・器台・ミニチュア土器など）、砥石、鉄製品、鉄滓などである。土師器には東海西部、畿内、南関東など各地の土器の特徴を示すものが見られ、およそ古墳時代前期中葉、4世紀前半頃の年代を想定できる。この年代は観音堂古墳、吉田温泉神社古墳をはじめとする調査区北側の古墳群とほぼ同時期であり、今回確認した遺構はこれらの古墳と密接に関連するものと考えられる。



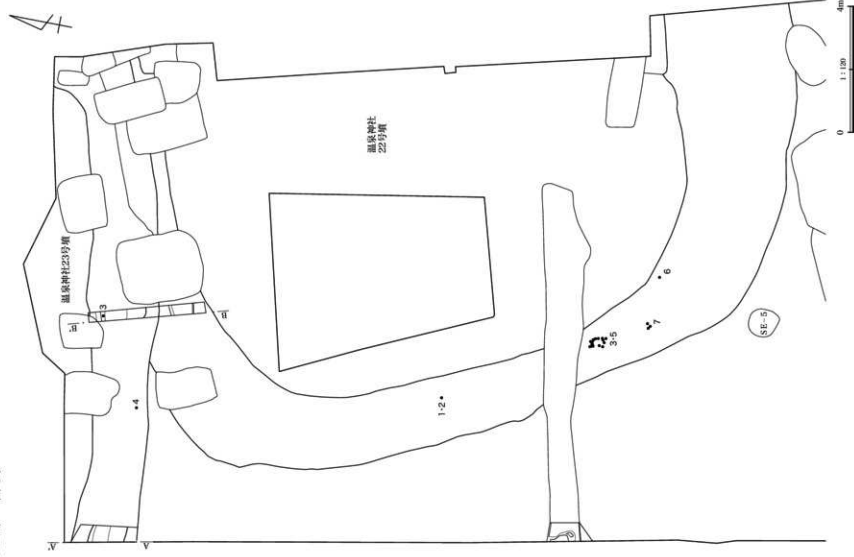
第5図 鹿島前遺跡調査地全景（上空から）



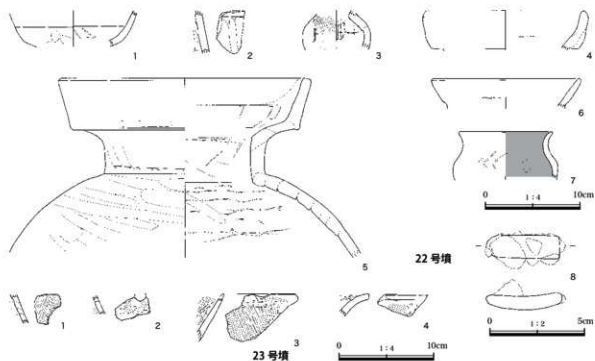
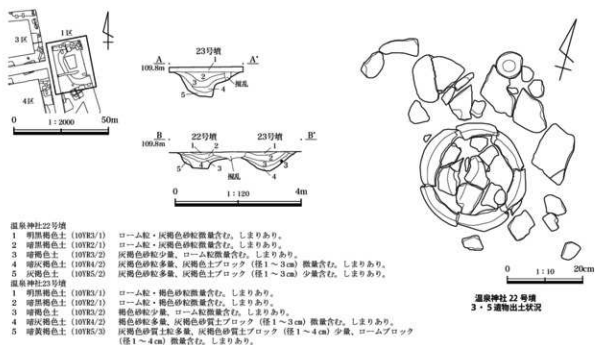


第6図 鹿島前遺跡全体図

第2節 古墳



第7図 温泉神社22・23号墳発掘図(1)



第8図 温泉神社22・23号墳実測図(2)・出土遺物実測図

温泉神社22号墳 (第7・8図、第1表、図版二・二四)

本古墳は、調査区1区の北部にあり、古墳東部が川の浸食でなくなっている。周溝外側での計測規模は南北20.5m、東西14.3m以上になる方墳で、平面形は西辺や南辺でやや胴張りになっている。墳丘・主体部は削平されて残っていない。北辺の周溝が温泉神社23号墳と重複しており、本古墳の方が古い。

周溝の幅は広狭があり、北辺は著しく狭くなって、幅45cm程である。この狭くなった部分の覆土は明褐色土であり、溝のほかの部分か明黒褐色土や暗黒褐色土であるのに比べ、溝底面の土層に類していることから、

第1表 温泉神社22号墳出土遺物観察表

(1) 調査表

No.	遺種	大きさ(cm)	技法等	胎土	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 壺		内:口縁部コナナテ、肩一筋部ヘラナテ、 外:胴部コナナテ、体部厚肉部・基脚部、底一 体部トシメナリ。	白色胎粒多量、白色・ 灰色胎粒少量	良	内:SV95/6明帯部 外:SV96/6暗帯	口縁一筋部1/8	3.16	
2	土師器 壺		内:胴部コナナテ、胎土結合部あり、 外:胴部コナナテ、下縁コナナテ。	白色胎粒多量、褐色 胎粒少量、灰色胎粒 少量	良	内:外:7.0V95/6明 帯部	口縁上部 1/6	3.16	
3	土師器 小型壺		内:体部上下部凹コナナテ、中央部平坦部、 外:体部コナナテ、下縁部コナナテ。	白色胎粒多量、灰色 胎粒少量	良	内:7.0V95/6明帯 外:7.0V96/6暗帯	体部上・中位 1/6	3.25	
4	土師器 壺	口径:18.0	内:口縁部コナナテ、 外:1)胴部平坦部・コナナテ、2)肩部下位厚肉 部、縁あり。	白色・灰色胎粒多量、 褐色・透明胎粒少量、 白色針状物少量	不良	内:7.0V95/6明帯 外:7.0V96/6暗帯	口縁部1/8	3.18	
5	土師器 壺	口径:23.6	内:1)胴部1)肩コナナテ・コナナテ、下平ヘラ ナテ、白縁・胴部2)肩黒褐色で紫色地帯の可 能性あり、胴部ヘラ・アツツ、胴部ヘラ直後 斜トシ・胎土結合部あり。 外:1)胴部上平コナナテ・ナドナドナテ、下平ヘラ ナテ、帯部コナナテ、胴部上縁部結合、胴部縁方向・ 縁ありナリ。	白色胎粒多量、灰色 胎粒少量、白色胎粒・ 褐色・透明胎粒少量	良	内:5V97/4に 外:5V94/4赤褐色	1)肩部上中位 1/3、体部上中位 2/3	3.19-20- 21-22-23- 25-27-28- 29-30-32- 33-36-37	
6	土師器 壺	口径:14.5	内:口縁部コナナテ、胎土結合部あり、口縁部下 部に陥がある。	白色胎粒多量、白色 胎粒少量	良	内:7.0V97/4 外:7.0V7/4灰白	1)肩部1/3	3.8	
7	土師器 壺	口径:19.0	内:口縁部コナナテ、胎土結合部あり、胎土結合部 外:1)胴部コナナテ、肩黒褐色、胎土結合部、 胎土結合部に陥がある。	白色胎粒多量、灰色 胎粒少量、白色針状物 少量	不良	内:1)9V7/4に 外:1)9V8/6暗帯	口縁部 1/8 一筋部中位1/6	3.10	
8	土師器 壺	口径:3.9 口径:1.2 口径:0.6 口径:0.6	1)下部に厚肉になった胎土の塊、裏面の状況 から、焼成ムラとみられ、焼成の痕跡あり。		不良				4)コナナテ 表裏

第2表 温泉神社23号墳出土遺物観察表

(1) 調査表

No.	遺種	大きさ(cm)	技法等	胎土	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 高杯		内:頸部土結合部あり、 外:頸部コナナテ。	白色胎粒・白色針状 物少量	良	内:外:10V96/4に 5V94/4暗帯	頸部一筋	内:コナナ テ	
2	土師器 壺		内:胴部コナナテ、胎土結合部あり、 外:胴部コナナテ、胎土結合部あり、 胎土結合部あり。	白色胎粒一筋粒多量 少量、灰色胎粒少量	良	内:外:7.0V95/6明 帯部	胴部一筋	内:コナナ テ	
3	土師器 小型壺		内:口縁部コナナテ、胎土結合部あり、 外:1)胴部コナナテ。	灰色胎粒・褐色胎粒少 量、黒胎粒・灰色胎 粒・口針状物少量	良	内:5V96/6 外:7.0V96/6暗帯	口縁部一筋	3.4	
4	土師器 壺		内:口縁部コナナテ・コナナテ、 外:口縁部コナナテ・胎土結合部コナナテ。	白色胎粒一筋粒多 量、白色針状物・褐色 胎粒少量	良	内:外:10V97/4に 5V94/4暗帯	1)胴部 1/8	3.2	

この部分は溝が浅くなっていた可能性がある。温泉神社23号墳と重複する部分に試掘坑を設け、周溝の底面まで掘り下げた。その結果、溝の底は平坦で、外側の壁はゆるやかに立ち上がり、内側の壁は急傾斜であった。覆土は下半で灰褐色砂質土を多く含んでいた。これは、古墳の周辺の地山が砂質土であることによる。

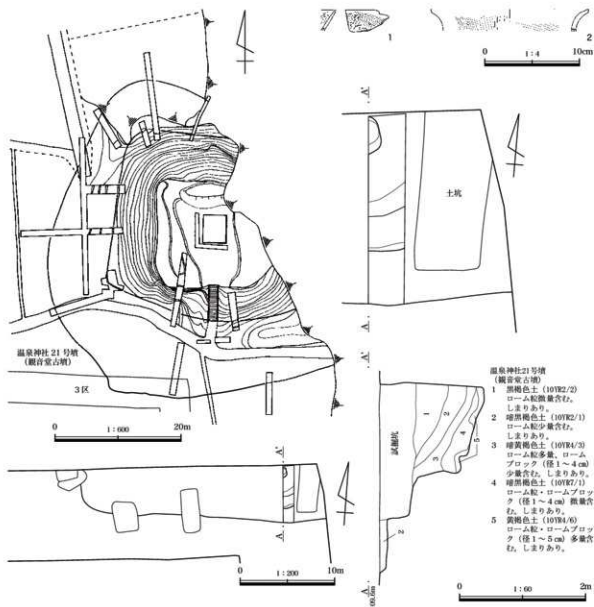
遺物のうち、南西隅付近の遺構確認面において、口縁部がほぼ完全に残る壺(5)が出土した。壺は口縁部を下にして、頸部が潰れた状態であった。体部はその周囲から破片となって出た。1・2・3・5・6・7は遺構確認面から出土した。5の壺は口縁部の平坦部が長く、口唇部が平坦なものであるが、胎土に白色針状物を含んでおり、在地産の土器である。4も口縁部に帯状の平坦面がある。7は内面黒色処理を施す裏で、胎土からも在地産になる。

#### 温泉神社23号墳(第7・8図、第2表、図版2)

調査区1区の北端に位置し、周溝の南辺を調査したのみであるが、周溝の形からみて方墳と考えられる。調査区の北東隅において溝が北側に折れている。温泉神社22号墳よりも本古墳の方が新しい。

溝は確認された東半分が幅が狭くなる。溝には2箇所の試掘を行い、土層図B-B'部分では底面が丸くなっていた。土層図A-A'では墳丘側は掘り込み傾斜が緩やかであるが、外周側は急な立ち上がりである。溝の土層は温泉神社22号墳と同じく、下層で灰褐色砂質土や褐色砂粒が多く確認された。

遺物は、4が遺構確認面、3が試掘坑の周溝際から出土した。図示した土器には胎土に白色針状物を含む在地産で、高杯や器台・小型壺や二重口縁壺の口縁部破片である。3は口径の大きなものになるであろう。



第9図 温泉神社21号墳（観音堂古墳）実測図・出土遺物実測図

第3表 温泉神社21号墳（観音堂古墳）出土遺物観察表

(3) 池田 浩

No.	部種	大きさ(cm)	技法等	胎土	胎色	色相	保存率	注記	備考
1	1部器 小型皿小		内:口縁引ハケ目縁で作り。 外:口縁引ハケ目。	黒色・白色粒粒・黒色 種微塵	良	内・外: 10YR7/4に 近い黄緑	口縁部 2/3	50C 5-18 サブレン ナ内	
2	十部器 葉	口縁:16.0	内:口縁引下ハケ目、中・上縁引ハケ目。 外:口縁部ハケ目後ハケ目ナリ。1部器平縁部。 口縁部。	褐色・褐色粒粒・種 粒少量、白色・黄色 粒・白色粒粒微塵	良	内・外: 2.5Y7/1黄赤	口縁部1/3	50C 5-18 1層	

## 温泉神社21号墳（観音堂古墳）（第9図、第3表、図版三）

調査区3区の北端にあり、調査区北側に墳丘の残る温泉神社21号墳（観音堂古墳）の周溝南辺である。墳丘は遺存する部分で、一辺約30mの方墳である。那珂川町教育委員会の周溝調査の結果、周溝は墳丘よりも不整形で、周溝が墳丘と対照にならないことが判明していた。

調査区内における周溝は、南辺外側の立ち上がりが直線状になっているが、西端で端正に折れ曲がっている。このため、周溝南西隅は墳丘南西隅よりも東に寄っており、従前理解されていたよりも不整形になった。

## 第3節 方形区画遺構

## SD-11 (第10～14図、第4表、図版三～六・二四・二五)

調査区1区・5区・8区にわたって溝で方形に区画した遺構が確認された。遺構確認面は基本土層2-1層、及び2-3層の下面である。地形は北から南に向かって低くなり、1区・2区と8区では、8区の方が水田の造成で、50～60cm低くなっている。

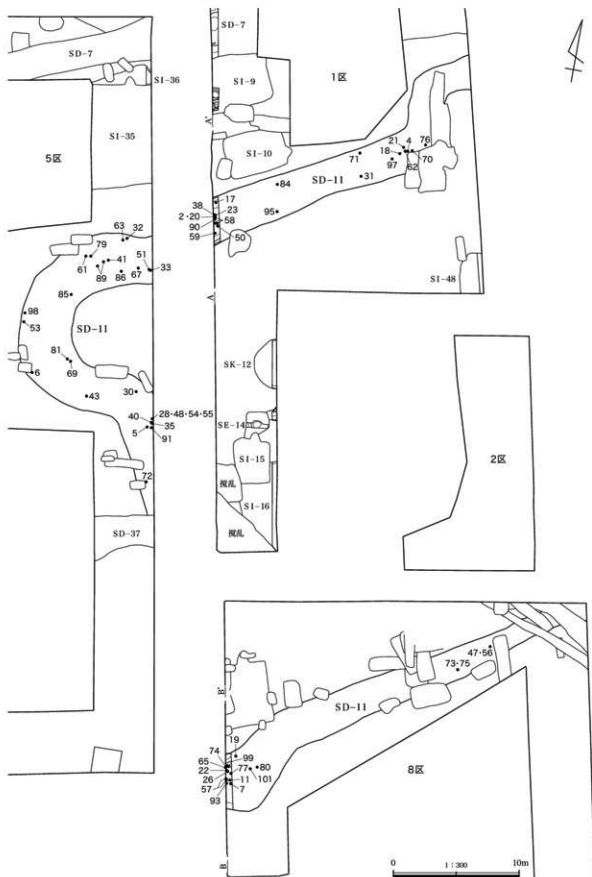
区画遺構の東側は権津川の浸食によって崩落したと推測される。区画は概ね方形であり、各隅には平面円形の張り出し部がある。北西張り出し部から南東張り出し部までの先端での規模は46.9m、東西は遺存する部分で北辺の方の残りが良くて41.4m以上になる。北辺と南辺は概ね平行している。張り出し部の規模は全容が把握できた北西部で、括れ部間の長さで14.4mになる。

溝は幅20～60cm程であるが、概して南辺は表土が水田造成で掘削されており、確認面が低いいためか、溝の幅が狭くなっている。

溝の土層と掘り方を確認するために、2箇所試掘を行った。図のA-A'では、1層はロームの多い層で、3～6層は緻密な黒褐色土などである。7層は暗黒褐色土で、6～7層で土器を最も多く含んでいた。8～10層はロームと暗黒褐色土の互層であり、これらの層に土器はほとんど含まれていなかった。B-B'では、1～3層は緻密な黒褐色土などであり、7層が最も暗い黒褐色土で、8～10層はローム土などからなっている。この試掘坑でも、7層において土器が多く認められ、8層以下では激減した。なお、遺構確認面の土をみると、区画溝の内側にはローム土による明るい土がみられるが、溝の外側は暗い色になっている。溝南辺の覆土では暗黄褐色土の区画内側に暗色帯があり、一定程度内側から溝に土が埋没した後に、ロームが内側から流入したことがわかる。この溝中のロームの帯は溝北辺でも確認できることから、溝の内側にロームの構築物、土器が巡らされていたことが考えられる。なお、両土層を対比すると、A-A'の3～6層とB-B'の1～3層が緻密な黒褐色土などで、同じ層と判断された。その下面は溝底からほぼ同じ高さである。また、両土層間の7層は土器を多く含む暗黒褐色土で、近似した時期に埋まり、土器が廃棄された可能性がある。その下面は溝底からほぼ同じ高さである。自然科学分析の結果ではA-A'からはHr-F Aは発見されなかったが、B-B'では1層・2層の境付近の高さからHr-F Aが確認された。このため、区画遺構の最終埋没は6世紀初頭ということになる。

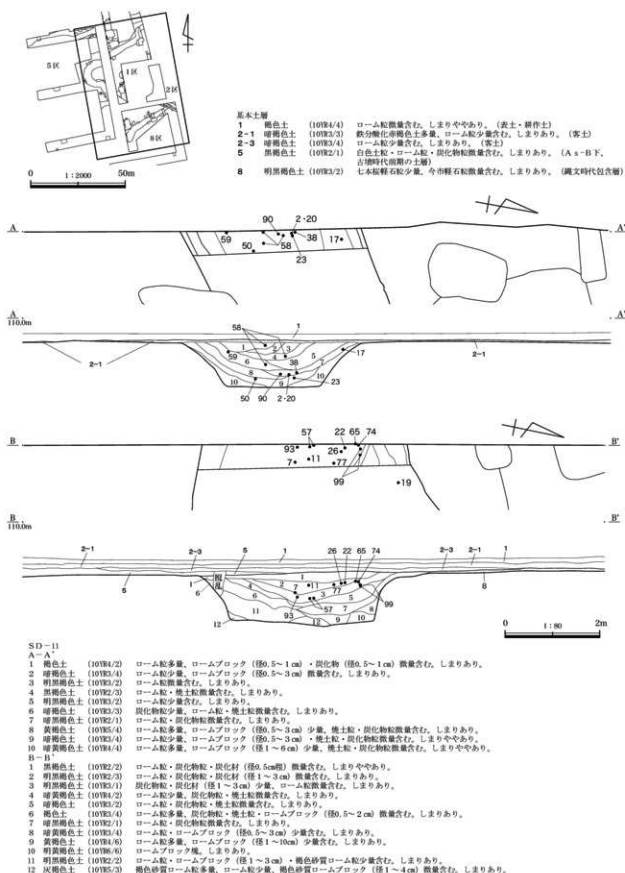
遺物は、試掘坑出土のもの他は、遺構確認面から出土したものである。試掘坑から出土した土器は、出土層位を投影したように、中層から上層まであり、前述のように7層に多い。土器が多く出た層よりも下に、溝内側の土層から流れた崩落層があることから、区画遺構の廃絶直後に、区画施設内や周辺で使用した土器などが溝内に流入・投棄されたと推測することができる。

出土遺物では、甕・小甕・壺・小型壺・器台・高坏・坏・甕・鉄洋などがある。1は口縁部が長くのびる甕で、胴部内面はナデとケズリを行い、1区のトレンチ内から出土した。2～6はくの字形外反口縁で、ハケ目調整を残す甕、7～9は外面にケズリを施す一群である。11～17はS字口縁の甕や鉢で、14は口縁部が直立気味に立つ。15・16は小型品で、胴部上位に縦方向・斜方向のハケ目の後に横方向のハケ目を2段施す。28～46は壺の口縁部で、28は二重口縁で口縁部が大きく外反する。30は粘土を貼り付けて、下方に突出し、35の口唇部には刻みを加える。55～70は小型壺で、69・70は内面黒色処理をする。82の高坏の坏部内面にも黒色処理が確認される。102の椀形鏡治洋は溝北辺の確認面から出土した。



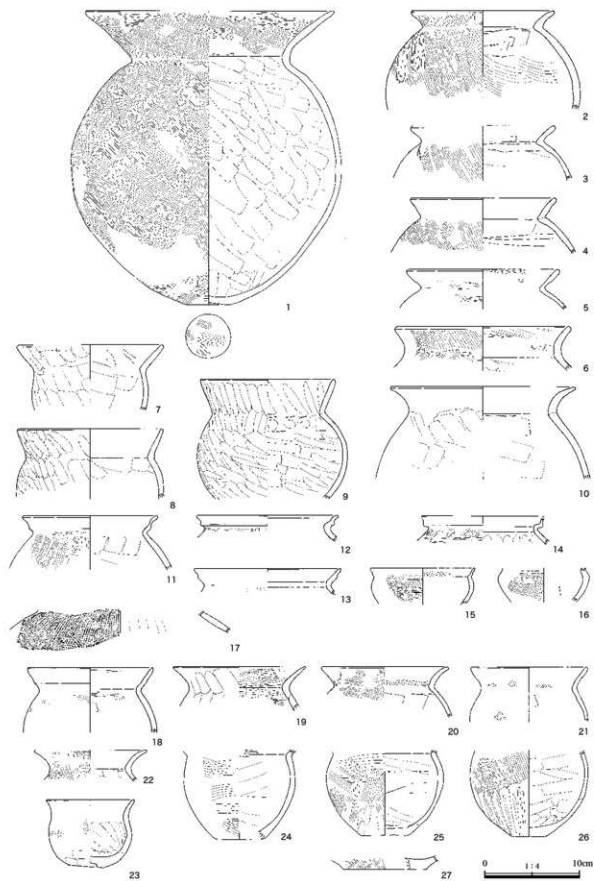
第10図 SD-11実測図(1)

第3章 発見された遺構と遺物

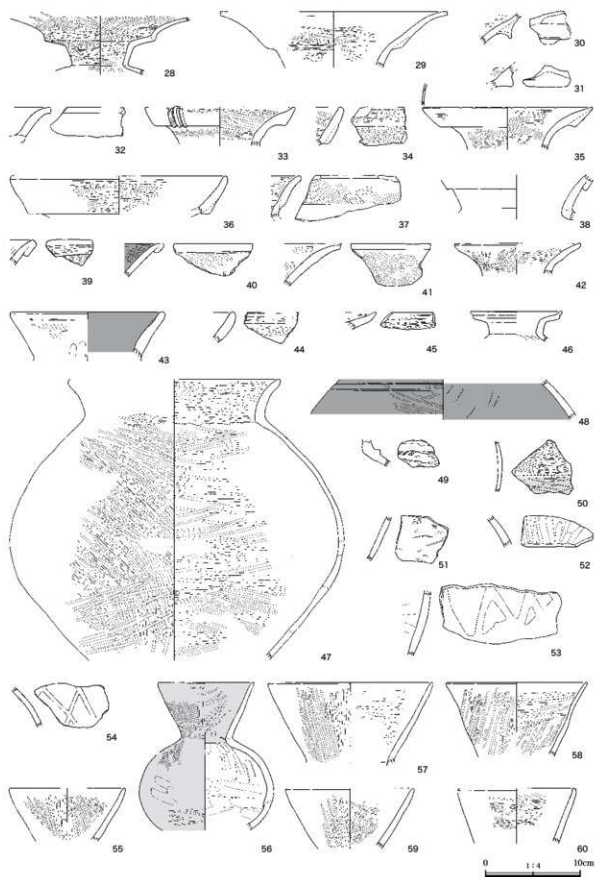


第11図 SD-11実測図(2)

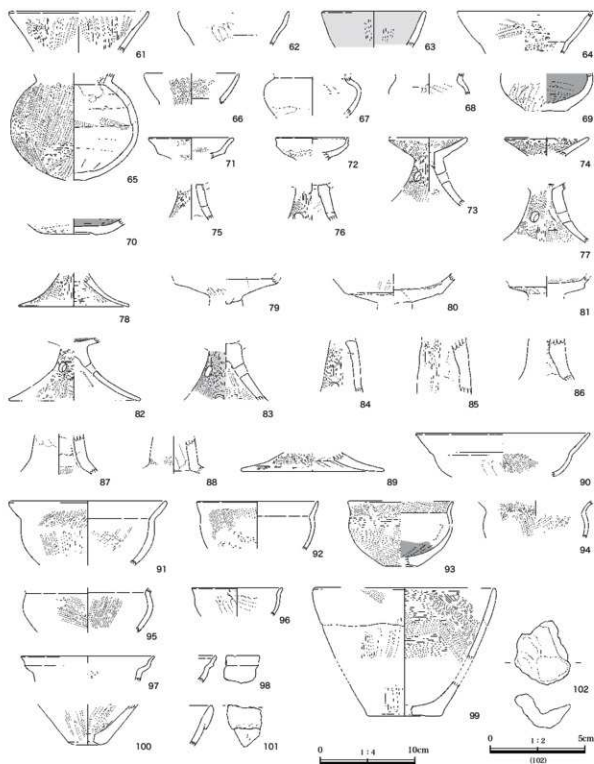




第12圖 SD-11 出土遺物実測図(1)



第13図 SD-11出土遺物実測図(2)



第14図 SD-11 出土遺物実測図(3)

第4表 SD-11 出土遺物観察表

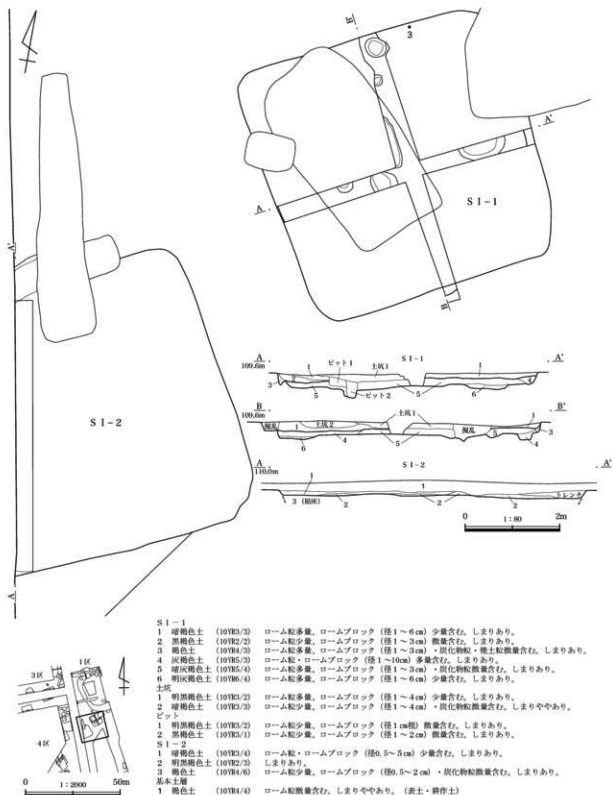
No.	遺構	大きさ(m <sup>2</sup> )	発掘層	出土	種類	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 壺	口径: 20.6 底径: 5.6 高さ: 31.0	内: コシロノケ目, 1471ナナク。一部白方向ケ目。底面ケ目。 外: 口縁一筋。ケ目付, 胴部に横線あり, スズク厚く付着。	白色陶胎少量, 灰色粘土多量, 透写的。白色針状物多量。	瓦	内・外: 39/38/42(赤黄緑) 外: 109/74/22(赤) 黄緑	胴部 器入遺存	トレンチ内 1区	
2	土師器 甕	口径: (15.0)	内: コシロノケ目ナナク, 胴部ハケ目。ナナク付, 耳: 胴部無しの。 外: 口縁一筋。ケ目付, スズク付。	灰色胎・白色・灰色・白色陶胎少量。白色針状・白色針状物多量。	瓦	内・外: 40/35/41(赤) 外: 55/36/20(赤)	口縁一筋(耳)付	Na120	1区
3	土師器 壺	口径: (13.0)	内: コシロノケ目ナナク, ナナク付, 胴部ハケ目。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目, スズク付。	白色陶胎少量多量, 白色針状物多量。	瓦	内: 23/17/20(黄) 外: 7.5/10/4(赤) 赤	口縁一筋(耳)付 胴部ハケ目	内トレンチ 骨平土層	1区
4	土師器 壺	口径: (13.2)	内: 1筋ケ目ナナク, 胴部ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目, スズク付。	白色胎やや多量, 灰色粘土少量, 白色針状物多量。	瓦	内: 39/38/42(赤) 外: 55/36/20, 5/2/1(赤)	口縁一筋(耳)付	Na120	1区
5	土師器 壺	口径: (13.0)	内: コシロノケ目, 胴部ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目, 土師器ハケ目, 胴部ハケ目。	白色陶胎多量, 白色・灰色胎・白色針状物多量。	瓦	内: 55/36/20(赤) 外: 5/5/0(赤)	口縁一筋(耳)付	Na171	5区
6	土師器 壺	口径: (18.0)	内: 1筋ケ目ナナク, 胴部ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ナナク。	白色陶胎・灰色粘土多量, 灰色胎・白色針状物多量。	瓦	内: 39/38/42(赤黄緑) 外: 55/36/20(赤)	口縁一筋(耳)付	Na101	5区
7	土師器 壺	口径: (13.0)	内: コシロノケ目ナナク, コシロノケ目。 外: 口縁ケ目ナナク, 口縁ケ目ナナク, 胴部上縁ケ目ナナク, スズク付。	白色陶胎一筋胎多量, 白色針状物・灰色胎少量。	瓦	内: 39/38/42(赤黄緑) 外: 7.5/10/4(赤)	口縁一筋(耳)付	Na36	8区
8	土師器 壺	口径: (15.0)	内: コシロノケ目ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目, 胴部ハケ目ナナク。	白色陶胎少量, 白色針状物・灰色胎少量。	瓦	内: 55/36/20(赤) 外: 23/17/20(黄)	口縁一筋(耳)付	内トレンチ 骨平土層	8区
9	土師器 壺	口径: 11.0	内: コシロノケ目ナナク, 胴部ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ナナク, 胴部ナナク, 胴部ナナク, 胴部ナナク, 胴部ナナク, 胴部ナナク。	白色陶胎多量, 灰色胎少量, 灰色胎・白色針状物多量。	瓦	内: 39/38/42(赤) 外: 109/74/22(赤) 黄緑	口縁一筋(耳)付 胴部ハケ目	Na120	8区
10	土師器 壺	口径: (18.0)	内: 1筋ケ目ナナク, 胴部上平ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部上平ナナク。	白色陶胎一筋胎・灰色胎少量, 白色針状物多量。	瓦	内: 39/38/42(赤) 外: 55/36/20(赤)	口縁一筋(耳)付	Na34	8区
11	土師器 壺	口径: (14.0)	内: コシロノケ目ナナク, 胴部ナナクナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目, 胴部ハケ目。	白色・白色陶胎多量, 透写的・白色針状物多量。	瓦	内: 39/38/42(赤) 外: 109/74/22(赤) 黄緑	口縁一筋(耳)付	Na49	8区
12	土師器 壺	口径: (14.5)	内: 1筋ケ目ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目。	白色陶胎・白色粘土多量, 白色針状物多量。	瓦	内・外: 7.5/10/4(赤) 黄緑	口縁一筋(耳)付	骨平土層	1区
13	土師器 壺	口径: (13.2)	内: コシロノケ目ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目。	白色陶胎多量, 透写的。褐色胎少量。	瓦	内・外: 55/36/20(赤) 外: 109/74/22(赤) 黄緑	口縁一筋(耳)付	骨平土層	1区
14	土師器 壺	口径: (13.0)	内: コシロノケ目ナナク, 胴部無しの。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ナナク。	白色陶胎一筋胎多量。	瓦	内: 7.5/10/4(赤) 黄緑 外: 109/74/22(赤) 黄緑	胴部ハケ目	内トレンチ 骨平土層	8区
15	土師器 甕	口径: (10.8)	内: 1筋ケ目ナナク, ハケ目付, 胴部ナナク, コシロノケ目。 外: 口縁ケ目ナナク, ハケ目付, 胴部無しの。	白色・灰色・白色陶胎少量, 白色針状物多量。	瓦	内: 39/37/42(赤) 外: 109/74/22(赤) 黄緑	口縁一筋(耳)付	内トレンチ 骨平土層	8区
16	土師器 甕	口径: (13.0)	内: 胴部ナナクナナク。 外: 胴部ナナクナナク。	白色陶胎少量, 白色胎・透明褐色胎多量。	瓦	内: 39/36/20(黄緑) 外: 7.5/10/4(赤)	胴部上平(耳)付	内トレンチ 骨平土層	8区
17	土師器 壺	口径: (13.0)	内: 胴部上縁ケ目ナナク。 外: 胴部上縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目。一部横線胎料付。	白色・灰色・白色粘土多量, 透写的。	瓦	内・外: 7.5/10/4(赤) 黄緑	胴部上平(耳)付	Na51	1区
18	土師器 壺	口径: (13.0)	内: 1筋ケ目ナナク, 胴部ハケ目。ナナクナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目ナナク。	白色陶胎多量, 灰色胎・白色針状物少量, 白色胎・白色針状物少量。	瓦	内・外: 40/35/41(赤) 外: 55/36/20(赤)	口縁一筋(耳)付	Na122	1区
19	土師器 壺	口径: (13.8)	内: コシロノケ目ナナク, 胴部上縁ケ目。 外: 口縁一筋(耳)付ナナク。	白色・灰色胎一筋胎多量, 透写的。褐色胎少量, 白色・灰色胎・白色針状物多量。	瓦	内: 39/38/42(赤) 外: 109/74/22(赤) 黄緑	口縁一筋(耳)付	Na30	8区
20	土師器 壺	口径: 13.2	内: 1筋ケ目ナナク, 胴部ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目。	白色・白色・白色胎少量多量, 白色針状物多量。	瓦	内・外: 2.5/3/6(赤) 赤	口縁一筋(耳)付	Na180	1区
21	土師器 壺	口径: (12.2)	内: コシロノケ目ナナク, ナナクナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, ナナクナナク, 胴部ハケ目ナナク, ナナクナナク。	白色・褐色胎多量, 灰色胎少量。	瓦	内: 7.5/10/4(赤) 外: 7.5/10/4(赤)	口縁一筋(耳)付	Na232	1区
22	土師器 壺	口径: (11.8)	内: 1筋ケ目ナナク, 胴部ケ目。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目, 胴部ハケ目。	灰色胎一筋胎多量, 褐色胎少量, 褐色胎・白色針状物多量, 透明・褐色胎多量。	瓦	内: 7.5/10/4(赤) 外: 109/74/22(赤) 黄緑	口縁一筋(耳)付	Na9	8区
23	土師器 壺	口径: 9.3 高さ: 3.7 底径: 7.2	内: コシロノケ目ナナク, 胴部ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ハケ目, 胴部ハケ目, 胴部ハケ目。	白色胎少量, 白色針状物多量。	瓦	内・外: 7.5/7/11(赤) 赤	口縁一筋(耳)付	Na177	1区
24	土師器 壺	口径: (13.0)	内: コシロノケ目ナナク, 胴部ナナク。 外: 口縁ケ目ナナク, 胴部ナナク。	白色陶胎少量, 白色胎・白色針状物多量。	瓦	内: 23/17/20(黄) 外: 109/74/22(赤)	口縁一筋(耳)付	骨平土層	8区





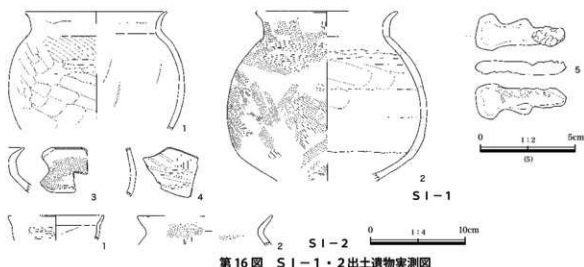


第4節 竪穴住居跡・土坑等



第15図 S1-1・2実測図





第16図 S1-1・2出土遺物実測図

第5表 S1-1出土遺物観察表

(1)海宝館

No.	遺物	大きさ(cm)	技法等	粘土	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	1区跡 礎	口径:14.80	内:口縁部コナナグ・粘土接合痕あり、胴部ヘツナグ。 外:口縁部コナナグ・粘土接合痕あり、胴部1区跡方向の縦穴ノコリ穴後、斜方穴・横方向ケズリ、全面にスリ打痕。	白色・灰色加砂多量、灰色粘土少量	中々 下良	内:109/87/40(25) 口縁一部割 外:109/84/25(厚)	口縁一部割 口2/3		
2	土坑跡	口径:14.80	内:口縁部コナナグ、胴部ナグ、粘土接合痕あり、各部下底にノコリ打痕。 外:口縁部コナナグ後、斜方穴・横方向ケズリ、全面にスリ打痕。	白色加砂多量、灰色加砂・白色粘土少量、白色・灰色加砂少量	良	内:109/85/40(25) 口縁一部割 外:109/85/30(25)	口縁一部割 位1/3	4区 54.30 S1-1	
3	土坑跡		内:口縁部コナナグ、胴部ナグ。 外:口縁部コナナグ後、斜方穴・横方向ケズリ、全面にスリ打痕。	白色加砂・白色粘土少量、白色加砂少量	良	内:109/86/30(25) 口縁一部割 外:109/85/30(25)	口縁一部割 部	No.8 高砂	
4	土坑跡 小遺物		内:体部ナグ。 外:口縁部コナナグ、スリ打痕あり。	白色加砂多量、灰色加砂少量	良	内:109/85/30(25) 体部一部割 外:109/86/40(25) 高砂		S1-1	
5	土坑跡	長さ:1.9 幅:1.9 高さ:15.55	奥面に木炭灰痕跡、内面黒色土層、黒色コナナグ。 スリ打痕あり。						

第6表 S1-2出土遺物観察表

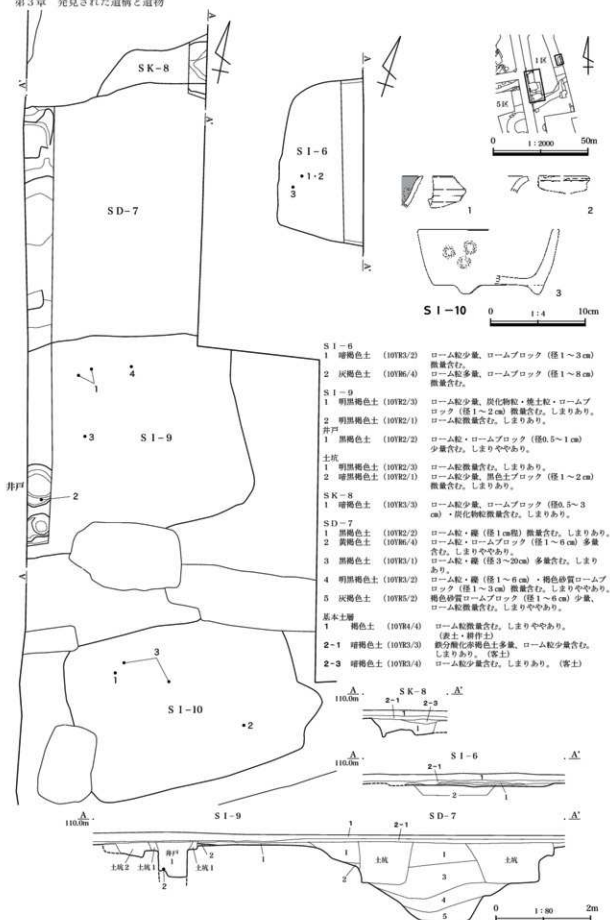
(1)海宝館

No.	遺物	大きさ(cm)	技法等	粘土	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	土坑跡 外	口径:16.00	内:口縁部コナナグ、内底へツナグあり、外:口縁部コナナグ、体部ケツリ。	白色加砂多量、活明加砂少量	良	内:7.50/85/40(25) 口縁一部割 外:8.50/4.0(厚)	口縁一部割 位1/3	西隣ナグ レンテ	
2	土坑跡	口径:14.40	内:口縁部コナナグ、胴部1区跡へツナグ。 外:口縁部コナナグ後、斜方穴・横方向ケズリ。	白色加砂多量、白色・灰色粘土・白色加砂少量	中々 下良	内:109/85/30(25) 口縁一部割 外:109/85/30(25)	口縁一部割 部	西隣ナグ レンテ	

## S1-1 (第15・16図、第5表、図版六・二五・二六)

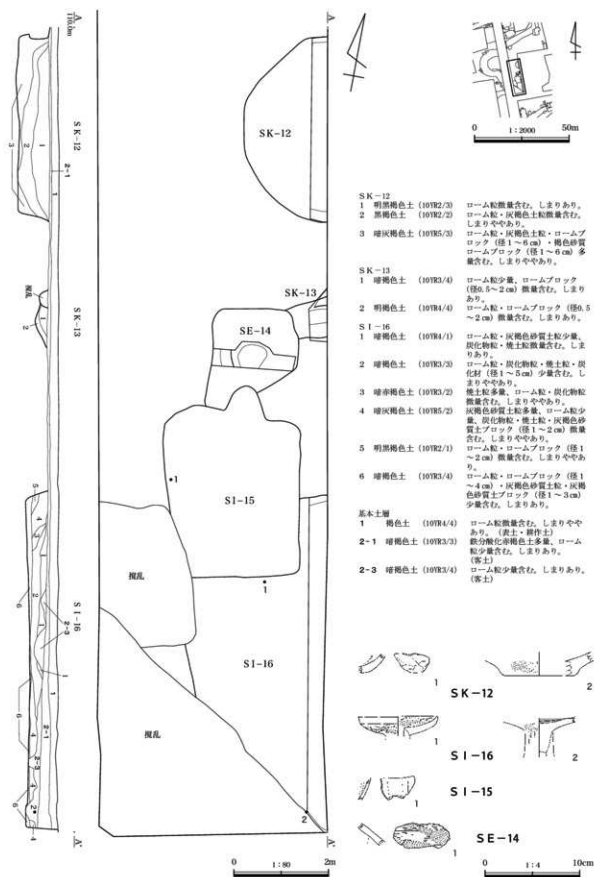
1区北部に位置し、複数の土坑と重複している。規模は5.6×5.7mで、平面方形であるが、北辺が南辺よりも少し長くなっている。十字形に試掘坑を設定して掘り下げた。その結果、貼り床を行っており、貼る範囲が西壁の範囲よりも内側になっていた。このため、当初は貼り床の範囲までの住居であったが、東西壁は外側に拡張したと判断された。図中5層は拡張後の貼り床で、6層は拡張前の貼り床とみられ、いずれも固くしまっていた。覆土はローム粒を多量含んでおり、人為的に埋め戻されたと推定される。

遺物は、3が遺構確認面から出土した。1は胴部外面下半部を横方向・斜方向ケズリ後に上半分を斜方向にケズリを行う。2はS1-33から出た破片と接合した裏で、外面ハケ目調整する。5は住居北東部確認面から出た銅塊である。



第17図 S I-6・9・10・SD-7・SK-8実測図・S I-10出土遺物実測図





第19図 S1-15・16・SK-12・13・SE-14実測図・出土遺物実測図

第11表 SK-12 出土遺物観察表

(1)指定遺

No.	跡種	大きさ(cm)	技法等	胎土	胎成	色調	残存率	注記	備考
1	1層部 土坑		内: 律部下土、ヘナナテ。 外: 土坑下部がスリ、下段斜位ナテ。	白色粉粒少量、白色 針状物・透明磁器量	良	内: 7.8/93/41(26) 浅部 外: 7.2/85/31(35) 他	4割 2割		サブ・レン ナリ
2	1層部 土坑	縦径: 0.4	内: 律部ナテ。 外: 律部ヘナナテ、磁器ナテ。	白色粉粒少量、白色 針状物少量	良	内: 6.85/6(明本) 浅部 外: 6.9/65/22(浅部)	浅部1/4		サブ・レン ナリ

第12表 SE-14 出土遺物観察表

(1)指定遺

No.	跡種	大きさ(cm)	技法等	胎土	胎成	色調	残存率	注記	備考
1	1層部 土坑		内: 律部ヘナナテ。 外: 律部ヘナナテ。	黒色粉粒多量、白色 粉粒・磁器少量、白 色針状物少量	良	内: 7.2/85/9(肥) 外: 6.8/85/6(瓦本)	4割 2割		律上

第13表 SI-15 出土遺物観察表

(1)指定遺

No.	跡種	大きさ(cm)	技法等	胎土	胎成	色調	残存率	注記	備考
1	1層部 土坑		内: 全面焼結、厚部はツギキ。 外: 滑沢ケズリナテ。	白色粗粒・細粒多 量、黒色粗粒少量	1良	内: 6.9/63/41(中) 外: 6.9/63/41(中) 浅部	4割 2割		No.1

第14表 SI-16 出土遺物観察表

(1)指定遺

No.	跡種	大きさ(cm)	技法等	胎土	胎成	色調	残存率	注記	備考
1	1層部 土坑	縦径: 0.8(2)	内: 受け部1/4ナテ。 外: 内縁部0/4ナテ、受け部1/4ナテ。 中央部深くなる。	白色粗粒・細粒多 量、黒色粗粒・白色針 状物少量、黒色厚粒 少量	良	内: 6.9/65/31(中)・ 浅部 外: 7.0/65/31(中)・ 浅部	受け部1/4		No.1
2	1層部 土坑		内: 厚部は黒色地肌。 外: 厚部4/4ナテ、薄部深に挿入工具による凹痕 あり、縁部1/4ナテ。 凹痕方向は1/4(底面)に縁部の突起を作り、これに 縁部の厚さを測っている。	白色・黒色粗粒・細 粒多量	良	内: 外: 6.8/67/41(厚部) 2割、 3割・浅部	厚部部 2割、 薄部上段1/3		No.8

## SI-2 (第15・16図、第6表、図版六)

1区北端でSI-1に隣接する。規模は南北6.0m、東西5.4m以上になる。南東隅が鋭角になっており、やや不整な方形である。北辺で土坑と重複している。調査区際を40cm幅で掘り下げた。住居は表土・耕作土下から掘り込まれ、ローム粒・ロームブロックを含み、埋め戻された可能性がある。

図化できた遺物は、試掘坑から出土した破片である。いずれもハケ目調整しており、2の裏は口縁部がくの字に折れる形態で、胎土に白色針状物を含み、在地産である。

## SI-6 (第17・18図、第7表、図版六・七・二六)

1区の南北中央付近で、調査区東際にある。南北3.5m、東西1.8m以上の規模であるが、床面の状況などから住居跡と理解した。平面形は北西隅が丸味を帯び、南西隅が鈍角に曲がっていることから不整形になっている。土層図の2層は主にローム粒からなり、ややしまりがあることから、貼り床と判断した。

図示した遺物は遺構確認面から出土したものである。3は口縁部を曲げていることから、片口土器とみられる。

## SI-9 (第17・18図、第8表、図版七・二六)

1区の南北中央付近で、調査区西際にある。東西5.1m以上の規模であるが、北側はSD-7によって壊されているため、規模は明らかでない。土層図の2層は貼り床と判断した。土層図中に示した土坑や井戸は中世の所産と考えられる。

図化した遺物のうち、2は井戸から出土した。1は二重口縁産で、口唇部を面取りするが、胎土に金色雲母を含んでおり、茨城県域からの搬入品と判断できる。なお、SI-10はカマドをもつ住居跡で、平安時代の所産と考えられる。



第15表 SK-20 出土遺物観察表

( )推定値

No.	名称 大きさ(cm)	技法等	土質	構成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 浅平	内：縦割しより残存少量。 外：北側により残存少量。	灰色粗粒・細粒・黒色 細粒多量	平丸	内：JY308/69 外：JY308/69	残存率 約1/4、体 部 2/3		
2	土師器 浅平	内：胴部へツナグ。 外：胴部下半部方向に若干、 上部に外壁接合時の痕跡がある。	黒色細粒多量、灰色 細・白色粗粒・透明 細粒少量	丸	内・外：JY308/69 外：黄地	胴部上半部 を占める		
3	土師器 小笠笠	内：体部平テリ。 外：体部縦方向のヒケテリ。	灰色細粒多量	丸	内：JY308/69 外：JY308/69	体部一部 を占める		
4	土師器 小笠笠	内：体部へツナグ。 外：体部中心テリ、土位傾斜方向のヒケテリ。	灰色粗粒・細粒少 量、白黒細粒・白黒斜 状物少量	丸	内：JY308/69 外：JY308/69	体部中心1/6		
5	縄文土器 浅平	縄文は等加厚である。	白黒細粒多量、灰黒 斜状少量、白色・灰色粗 粒少量	平丸	内・外：JY308/69 外：黄地	体部一部		

第16表 SI-21 出土遺物観察表

( )推定値

No.	名称 大きさ(cm)	技法等	土質	構成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 浅平	内：口縁でへツテリ、体部ヒケテリ。 外：白黒・体部へツテリ。	灰色・灰色細粒多量、 白色細粒少量、灰色 粗・白色粗粒・透明 細粒・黒色斜状物少量	丸	内：JY308/69 外：JY308/69	口縁部・体部一 部		
2	土師器 浅平	内：受け部ヒケテリ、灰色粗粒。 外：偏方向に若干、土位は不調物。 内：内面へツナグ。 外：その他へツナグ。	白色細粒多量、灰色粗 粒・白内結状物少量 白色粗粒・細粒・白 色斜状物多量、黒色 細粒少量	丸	内：JY308/69 外：JY308/69	口縁・受け部 1/5		
3	土師器 浅平	内：内面へツナグ。 外：その他へツナグ。	白色細粒多量、黒色 細粒少量	丸	内：JY308/69 外：JY308/69	体部中心1/4 を占める		
4	土師器 浅平	内：口縁にヒケテリ、胴部へツナグ・ヒケテリ 少量あり。 外：口縁にヒケテリ、胴部へツナグ・ヒケテリ。	白色細粒・細粒・白色 斜状物少量	丸	内：JY308/69 外：JY308/69	口縁部1/4、胴 部1/4		

第17表 SI-22 出土遺物観察表

( )推定値

No.	名称 大きさ(cm)	技法等	土質	構成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 浅平	内：口縁平テリ。 外：胴部下半部・口縁部以外、 外壁の体部・口縁部の横裂片である。	灰色粗粒多量、灰色 斜状少量	丸	内・外：JY308/69 外：黄地	口縁部一部		
2	土師器 浅平	内：胴部へツナグ。 外：胴部には最大母本単位の輪文土位で、斜状 物あり。その他は横裂片のみ。 口縁部へツナグ、加厚等平テリで内面に接がある。	白色細粒・灰色粗粒 ・細粒多量、灰色粗 粒・細粒少量、黒色 粗粒・細粒・白色斜状 物少量	丸	内・外：JY308/69 外：黄地	口縁部1/4、胴 部2/3		

## SK-12・13 (第19図、第11表、図版八)

SK-12は平面円形で南北3.9mの土坑である。底面は平坦で、南壁は直角に立ち上がり、北壁は挟かれている。土層図の3層はロームブロックが多くて、埋め戻した可能性が高い。SK-13は丸い底面で、土層では流水があったようである。SK-12からハケ目調整の土器が出ている。

## SE-14 (第19図、第12表)

1m程掘った部分の土層は上層がローム粒少量、ロームブロックを微量含む黒褐色土で、下層はローム粒多量、ロームブロックを微量含む明黒褐色土であった。ハケ目調整の裏が出土していることから、古墳時代前期になる可能性がある。

## SI-16 (第19図、第14表、図版八・二六)

1区の南端に存在し、方形区画遺構内にある。規模は南北7.1m以上で、比較的大型の遺構になる。平安時代の竪穴住居跡SI-15や攪乱により一部が残るのみである。遺構は客土の下から掘り込んでおり、確認面から40cm程残る。土層図の2層は炭化材、3層は粘土を含む層で、これらの層以外は自然堆積したと考えられる。1・4層は灰褐色砂質土を含み、地山の深い所の土とみられる。周堤などの流入土であろうか。6層は貼り床で、掘り下げたのは一部である。このため、貼り床はさらに厚くなる。

遺物は器台と高坏片であるが、これらによって本遺構は古墳時代前期の所産で、西壁が区画溝に平行していることから、溝の機能期間に存在した可能性が高い。

**SK-19・20** (第20図、第15表、図版九)

3区の東部に2基の土坑が並んでいた。SK-20は、長軸2.6mの平面楕円形をしている。底面は平坦で、最下層の5層は埋め戻して、これより上の1~4層は自然堆積したと考えられる。SK-19は2.5×2.2mの平面両方形の土坑である。確認面からの深さは55cm程である。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。土層では3層が人為的な埋め戻し、1・2層は自然堆積の可能性がある。SK-20と類似した形態・覆土である。

**S1-21** (第20図、第16表、図版八・九・二六)

3区の東部に位置し、2軒の住居跡が重複し、本住居の方が新しい。細長い調査範囲のために、遺構の東部分を調査したのみである。規模は南北9.5m、東西3.2m以上である。南北規模から判断して、比較的大型の住居跡である。重複関係を明らかにするために、東西に試掘坑を設定した。その結果、S1-21の覆土は薄く、10cm程であったが、新旧が判明した。床面は軟質で、貼り床は確認されなかった。

遺物は、遺構確認面に多く散布しており、確認面から出た4点を図化した。いずれも白色針状物を含んでおり、在地で生産された土器である。1は坯部外面に稜をもつ高環、2は受け部内面に黒色処理を施す器台である。3は本遺跡では比較的出土数の少ない台付裏である。

**S1-22** (第20図、第17表、図版八・九・二六)

S1-21と重複し、本住居の方が古い。規模は南北で5.8m、東西は4.4m以上である。土層図の5層は貼り床で、全面に土を貼るが、壁際が掘り方深く、住居中央部に向かい浅くなるとみられる。

図化した遺物では、1は坯部下端が突出する高環、2はS字裏の胴部・口縁部片である。2は胎土の特徴から在地産であるが、櫛状工具で外面に斜方向の後に横方向に施す。工具も他の裏と異なり、内面頸部下に押圧痕が顕著な点もこの裏の特徴である。

**S1-23** (第21・22図、第18表、図版九・二六)

3区の南東隅に位置し、住居の北西部を調査した。確認した範囲での規模は、南北1.7m以上、東西3.1m以上である。北西隅では土坑と重複している。調査は試掘坑の部分を床面まで掘り下げたが、貼り床としており、床面は硬くしまっていた。覆土は緻密で均質な黒褐色土・明黒褐色土であった。

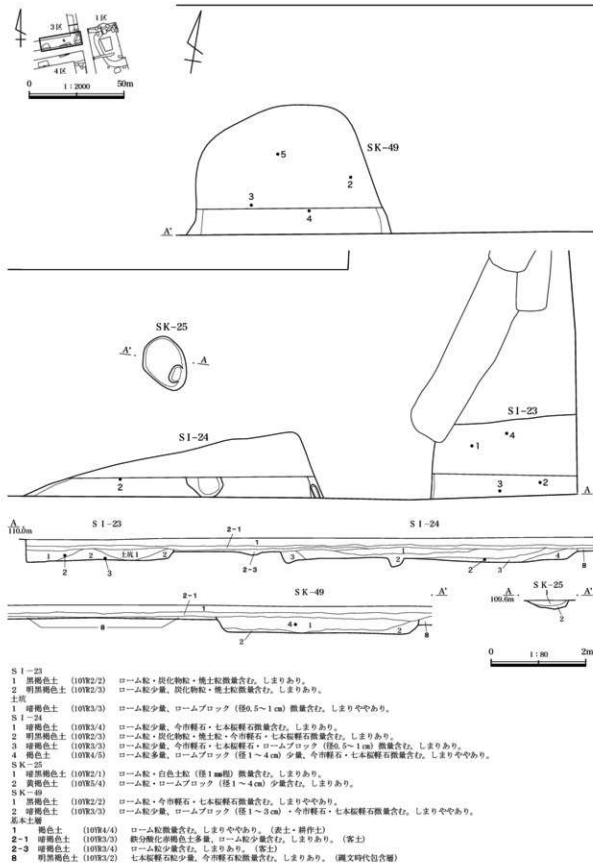
遺物は、遺構確認面から出土したものが1・4で、試掘坑の覆土中からは2、床面近い高さから3が出た。1・2は高環の脚部で、1は上半分が棒状にのびており、裾に稜をもたずに広がる形態で、2は脚部が長くのびているが、内面に稜をもたずに屈曲する点が特徴で、時期的に下ることを示すものであろう。

**S1-24** (第21・22図、第19表、図版九・一〇)

3区S1-23の西に隣接して存在し、住居の北側の一部を調査した。規模は東西6.0以上になる。調査区際を床面まで掘り下げた。床面はあまり硬くならず、部分的に薄い貼り床をしているとみられる。覆土は明黒褐色土・暗褐色土などで、壁際の4層は崩落土の可能性があり、全体に自然堆積したと判断することができる。

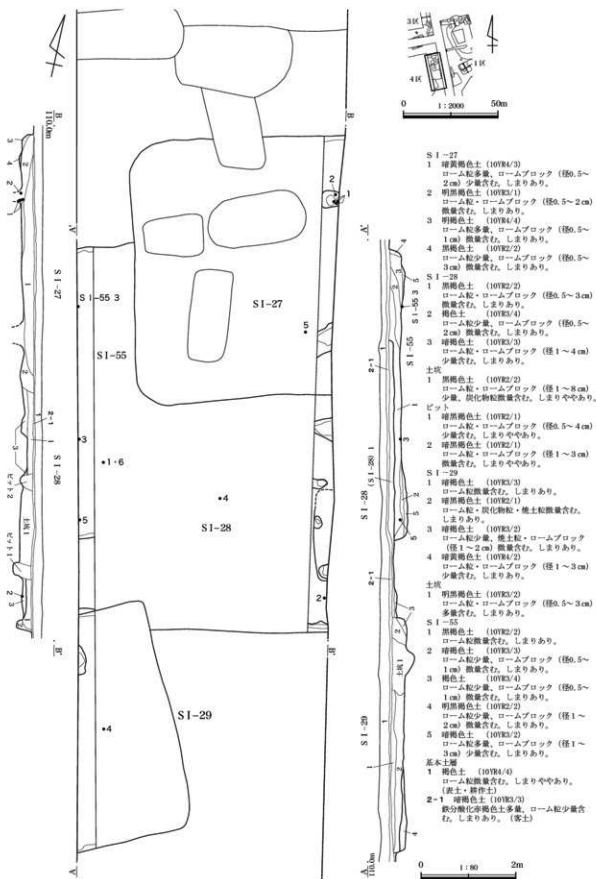
遺物は、2が試掘坑の覆土下層で、2層と3層の境の高さから出土した。この土器の胎土に白色針状物を含んでおり、在地産の土器で、口縁部外面に帯状の粘土を貼っている。





第21図 S1-23・24・SK-25・49実測図





第23図 S1-27・28・29・55実測図

SK-25・49 (第21・22図、第20表、図版一〇・二六)

3区SK-25はS1-24の北側に確認された小型の土坑で、長軸1.2m程の大きさである。底面は平坦で、壁は丸味をもって立ち上がる。覆土は上層が暗黒褐色土で、ローム粒を微量含む。下層は黄褐色土で、ローム粒とロームブロックを少量含む。

SK-49は、S1-24の西側に確認された土坑である。平面楕円形を呈しており、調査区際を掘り下げた。その結果、底面は平坦であるが、いくつかのピットが確認された。底面は基本土層8層の明黒褐色土層中である。

遺物は、4が覆土中層から出土した。3の埴は大型で、口頸部が大きく開く形態である。

S1-27 (第23・24図、第21表、図版一〇・一一・二六)

4区北東部にあり、3軒の住居跡が重複し、本住居はS1-28よりも新しい。南北5.5m、東西4.5m以上の規模で、平面隅丸方形をしている。調査区際の試掘坑を掘り下げた。床面はやや硬化しており、土層図中4層の部分が貼り床で、壁際を薄く貼る傾向があると判断した。浅い窪みは柱穴の可能性もある。覆土は、1層でロームが多く、人為的な埋め戻し、2・3層は自然堆積したと考えられる。

遺物は、1が試掘坑の底面と下層の破片が接合し、5は遺構確認面から出土した。1は脚部が長くのび、口縁部が大きく外反する形態になるか。3・4は体部に櫛歯状の工具で横位・鋸歯文を施すが、胎土から在地産の土器である。2の小型壺は、外面下半分にススが付き、加熱して使用していたことがわかる。

S1-28 (第23・24図、第22表、図版一〇・一一・二六)

本住居はS1-27・29よりも古い。南北8.2m程の大型の住居跡である。床面はあまり硬化していないが、ほぼ全面に貼り床を行っている。土層図の3層が貼り床である。

遺物では、4は口縁部に帯状粘土を貼り、口唇部に刻みを付ける複合口縁壺で、5は口縁部先端に帯状粘土を貼り、平坦面を作って、棒状の粘土3本を貼る。6の二重口縁壺は内側の段がわずかに残る程度である。

S1-29 (第23・24図、第23表、図版一一)

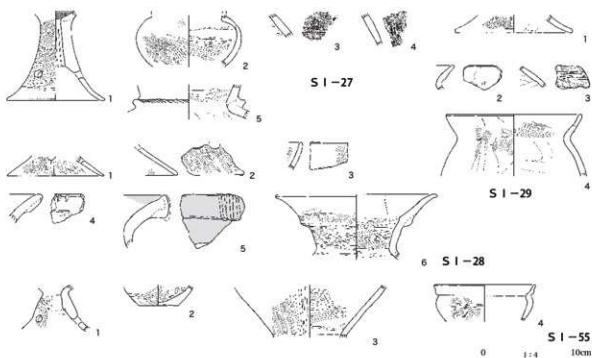
本住居はS1-28よりも新しい。調査区際を掘り下げた結果、床面はやや硬化しており、ほぼ全面に貼り床していた。掘り方は、壁際が深くなり、中央部が浅い。住居の覆土は自然堆積であると判断した。

遺物では、3はS字囊の胴部で、4の囊は口縁部が内彎している。

S1-55 (第23・24図、第24表、図版一一・二七)

本住居跡は、重複する住居群を掘り下げた際に発見され、S1-28よりも古い。北辺は遺構確認面の外縁であるが、南辺は試掘坑の立ち上がりで、南北長6.2mであった。床面はやや硬化しており、ほぼ全面貼り床をする。掘り方は壁際が深くなっている。覆土は、自然堆積と考えられる。

遺物は、掘り下げ中に出土したものである。4は小型の鉢であるが、遺存部分の立ち上がりを見ると、胴部が張らない形態になるであろう。口縁部は少し外反し、胴部上位に横方向ハケ目を施す。



第24図 S I - 27・28・29・55 出土遺物実測図

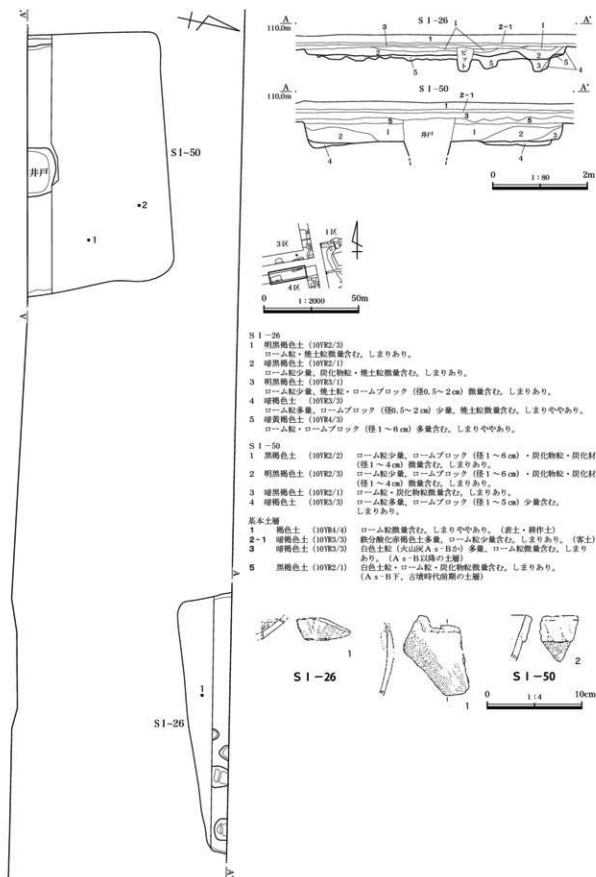
第21表 S I - 27 出土遺物観察表

No.	器種	大きさ(cm)	特徴等	胎土	施成	色調	残存率	(1)推定値	
								注記	備考
1	土師器 碗	楕円(10.0)	内:受け部黒色地焼・ガキ、脚部:中・外ノナツテ、 下ノ一帯白コナツテ。 外:脚部斜方向にガキ、 脚部4孔穿つ。	白色細粒多量、黒色 焼粒少量、白色粒・白 色針状物微量	良	内・外:5YR5-6明黄 赤	脚部上帯一帯 欠完存、脚部 1/5	Ns1-2-36	
2	土師器 小碗		内:体部上縁上縁合輪、中位ハケ目長シガキ、 外:体部上縁ハケ目長シテ、中位ハケ目短シ、 下半に4孔穿。	白色赤粒・白色針状 物少量、赤色・透明状 物微量	良	内:0YR5/4(赤い) 赤	体部上・中位 欠損 外:7.5YR7/6R	Ns3	
3	土師器 盆		内:体部ハケ目。 外:体部斜方向ハケ目長シ中位部単位ノ下ノ赤 粒ノ凝集部長条状文を施す。	白色赤少量、白色針 状物微量	良	内:7.5YR5/7(赤い) 赤	体部一帯 欠損 外:7.5YR5/4(赤い) 赤		
4	土師器 蓋		内:体部ガキ。 外:体部ハケ目長シ中位部単位ノ上ノ白粒に凝 集文を施す。	白色粒多量、白色針 状物微量	良	内・外:10YR5/7(赤い) 赤	体部一帯 欠損		
5	土師器 盆		内:4孔穿シガキ、体部斜方向ハケ目、コナツテ。 外:脚部内帯斜方向ハケ目ガキ、中位ノ赤粒に 凝集文を施す。	白色細粒多量、白色 焼粒・白色粒少量、白 色針状物微量	良	内:0YR5/4(赤い) 赤	脚部1/5	Ns12	

第22表 S I - 28 出土遺物観察表

No.	器種	大きさ(cm)	特徴等	胎土	施成	色調	残存率	(1)推定値	
								注記	備考
1	土師器 碗	楕円(10.0)	内:脚部斜方向ハケ目・平定方向にガキ、 外:脚部斜方向にガキ、 脚部に4孔穿。	白色細粒・白色針状 物少量、白色細粒微 量	良	内・外:5YR5-6明黄 赤	脚一帯部1/5	Ns7	
2	土師器 部世		内:脚部ノナツテ、中・外ハケ目、 外:脚部斜方向にガキ、 脚部に4孔穿。	灰色赤粒多量、透明 粒・黒色針状物微量	良	内:10YR5/4(赤い) 赤	脚一帯部 部 外:10YR7/4(赤い) 黄緑	Ns7	
3	土師器 小皿		内:口縁一帯脚部斜方向にガキ、 外:口縁一帯脚部斜方向にガキ、	白色赤粒一帯粒・黒 色細粒多量、黒色細 粒微量	中 不良	内・外:10YR7/6明 黄赤	口縁部 部	Ns9	
4	土師器 蓋		内:口縁部コナツテ、脚部ガキ。 外:11(脚部)上縁付ハケ目コナツテ、11(脚部)上 ノ下ノ赤目長シテ、脚部ガキ。	白色細粒少量	良	内・外:10YR5/4(赤い) 赤	口縁部一帯 1/5(赤)	Ns18	
5	土師器 盆		内:11(脚部)赤粒、 外:口縁部斜方向ハケ目ノコナツテガキ、脚部赤 粒付リ、赤粒。	白色細粒多量、灰色・ 透明状物微量	中 不良	内:10YR5/4(赤い) 赤	11(脚部)部	Ns11	
6	土師器 盆	口長(10.0)	内:口縁部ハケ目ガキ、脚部斜方向、 外:11(脚部)赤粒付リ付リ、上・中・下ノ赤 目長シテ、脚部ハケ目長シテガキ。	白色・黒色細粒多量、 白色・黒色細粒・透明 粒・白色針状物微量	良	内:2.5YR5/4(赤い) 赤	口縁部一帯、 脚部1/3	Ns7	





S1-26

- 1 明褐色土 (10YR2/3)  
ローム粒・焼土粒微量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 (10YR2/1)  
ローム粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。しまりあり。
- 3 明褐色土 (10YR3/1)  
ローム粒少量、焼土粒・ロームブロック (径0.5~2cm) 微量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3)  
ローム粒多量、ロームブロック (径0.5~2cm) 少量、焼土粒微量含む。しまりややあり。
- 5 暗黄褐色土 (10YR4/3)  
ローム粒・ロームブロック (径1~6cm) 多量含む。しまりややあり。

S1-50

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、ロームブロック (径1~6cm)・炭化物粒・炭化材 (径1~4cm) 微量含む。しまりあり。
- 2 明褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、ロームブロック (径1~6cm)・炭化物粒・炭化材 (径1~4cm) 微量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR2/1) ローム粒・炭化物粒微量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒多量、ロームブロック (径1~5cm) 少量含む。しまりあり。

基本土層

- 1 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量含む。しまりややあり。(遊土・耕作土)
- 2-1 暗褐色土 (10YR3/3) 鉄分酸化赤褐色土多量、ローム粒少量含む。しまりあり。(客土)
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 白色土粒 (火山灰As-Bか) 多量、ローム粒微量含む。しまりあり。(As-B以降の土層)
- 5 黒褐色土 (10YR2/1) 白色土粒・ローム粒・炭化物粒微量含む。しまりあり。(As-B下、古墳時代前期の土層)



第25図 S1-26・50 実測図・出土遺物実測図

第25表 S I - 26 出土遺物観察表

No.	器種	大きさ(cm)	技法等	胎土	胎成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 高杯		内: 横筋ハツアノゾ、 外: 割部ハケ目、脚部あり、スズ付足。 片割の底筋・縁部筋、外面に横筋あり。	白色・黒色針状少量、 白色針状物微量	良	内: 5.0R10.0 外: 5.0R5.0黄赤褐色	断面中位一部	No.2	

(1)推定図

第26表 S I - 50 出土遺物観察表

No.	器種	大きさ(cm)	技法等	胎土	胎成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 壺		内: 横筋ハツアノゾ、 外: 割部ハケ目、脚部あり、スズ付足。	白色・黒色少量、白色 ・赤褐色少量、白色針状 物微量	良	内: 7.3VR11.0赤褐色 外: 7.4VR11.0赤	断面中位一部	No.77	
2	土師器 瓶		内: 1段ハツアノゾ、 外: 11段赤黒土筋ハケ目・割部赤土筋ハケ目、 割部赤土筋ハケ目。	白色・黒色少量、灰色・ 赤褐色・白色・赤褐色・白 色針状物微量	良	内: 5.0R10.0赤褐色 外: 5.0R10.0赤	11段部一部	No.23	

(1)推定図

## S I - 31 (第26・29図、第28表、図版一三・二七)

4区南東隅で、S I - 30の西側に所在する。南北4.5 m以上、東西7 m程の規模で、住居南側が広がっている。県教育委員会の確認調査が北東隅から南西方向に行われた。土層は、調査で掘削された南面で確認し、覆土は自然堆積したと判断した。床面は硬く、掘り方・貼り床は壁際が深くて厚く、中央付近ではわずかに貼る程度であった。

遺物は、主に遺構確認面から出土したものである。高坏では坏部の体部・底部境に稜があり、脚部が長くのびる特徴がある。また、小型壺は体部径に比べて口縁部径が大きい。10は胎土に白色針状物を含む在地産のS字糞である。

## S I - 33 (第26・27・29図、第29表、図版一三・二七)

4区南東隅で、S I - 31の北側に所在する。県教育委員会の確認調査が北東隅から南西方向に行われた。また、遺構の北側と南側は大きく攪乱が及んでいる。このため、遺存状況は良好ではない。規模は南北5.0 m程、東西5.1 mで、平面隅丸方形である。掘り込みが浅く、覆土の下層と貼り床を確認した。床面は硬くしまっていた。貯蔵穴は住居北東隅にあり、平面楕円形で断面皿形であった。

遺物では、3は貯蔵穴で割れた状態で出土し、台部が欠けた甕を貯蔵穴に置いていたとみられる。この土器は胎土によって在地産のS字糞と判断され、胴部外面上位で斜方向にハケ目を施し、下半とは方向を変えて羽状にしている。

## S I - 34 (第26・27・29図、第30表、図版一三・二七)

S I - 31と重複し、本住居跡の方が古い。北西隅は角をもって折れているが、鈍角になっている。調査区際に試掘坑を設けて掘り下げた結果、貼り床が厚く施されていた。覆土はローム粒や炭化物・焼土が含まれており、埋められた土と判断される。

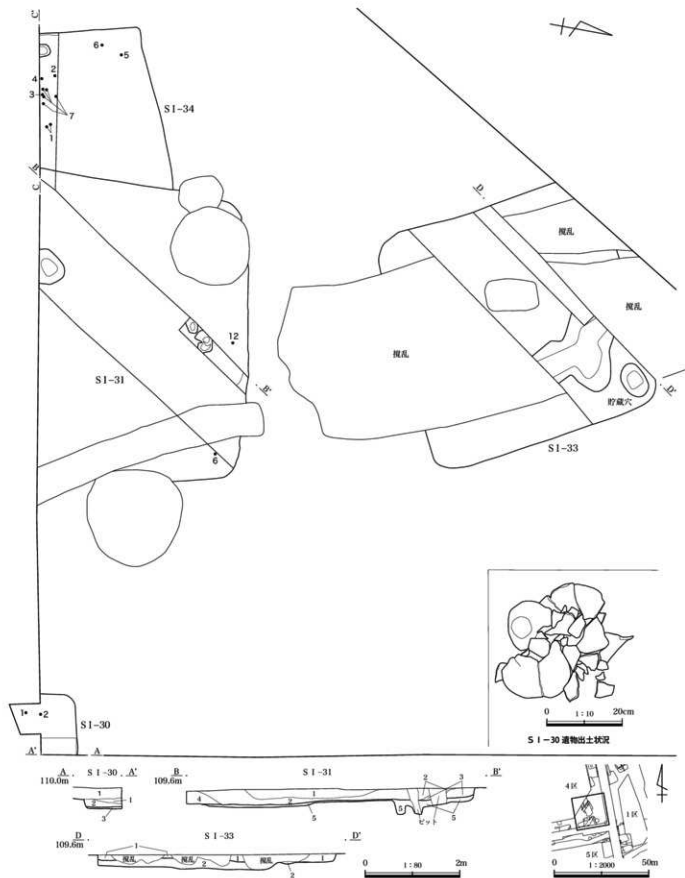
遺物は、器台・甕・壺で、5の胴部外面下位は斜方向にケズリが行われていた。

## S I - 32 (第30図、第31表、図版一四・二七)

4区南トレンチの中央部に位置する。県教育委員会の確認調査で住居跡の東壁が確認されていた。住居の規模は東西6.0 m、南北2.5 m以上である。床面はしまっており、掘り方は壁際を深く掘り、土を厚く貼るが、中央部はロームの地山を直接床面とするとみられる。覆土は自然堆積と思われる。東壁際に周溝が発見された。覆土は自然堆積と思われる。

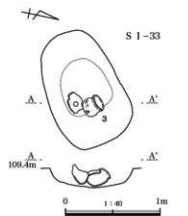
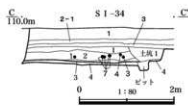
遺物は、遺構確認面から出土したものを図化した。2は帯状粘土を貼った壺である。





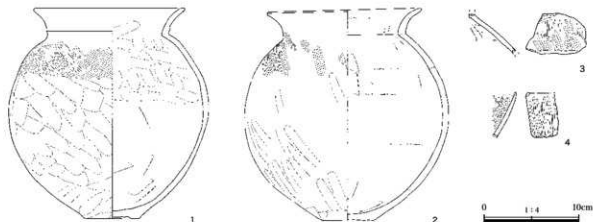
第26圖 S1-30・31・33・34実測図

第3章 発見された遺構と遺物



第27図 SI-33貯蔵穴・SI-34断面実測図

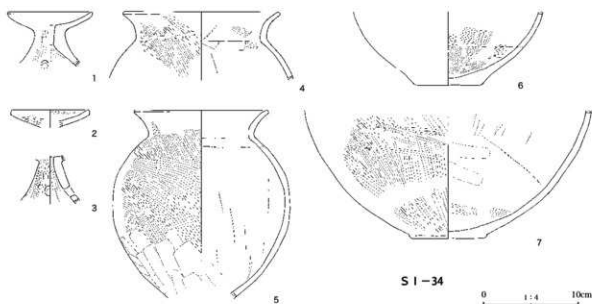
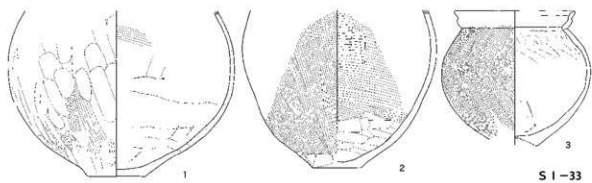
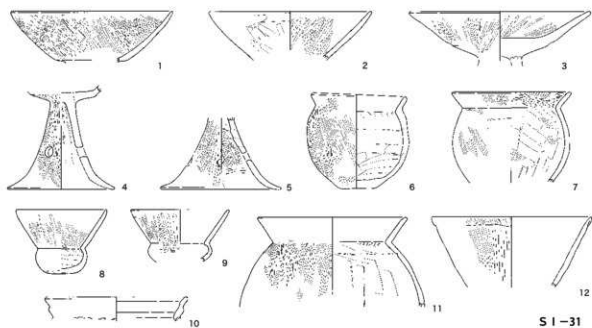
- SI-30
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・今市軽石少量含む。しまりあり。
  - 2 明黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・今市軽石少量含む。しまりあり。
  - 3 暗黄褐色土 (10YR4/2) ローム粒・ロームブロック (径1~3cm) 少量。今市軽石微量含む。しまりあり。
- SI-31
- 1 暗褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量。炭化物粒・焼土粒微量含む。しまりあり。
  - 2 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・焼土粒少量。炭化物粒・炭化材 (径0.5~1cm) 微量含む。しまりあり。
  - 3 褐色土 (10YR4/2) ローム粒多量。焼土粒少量。炭化物粒・ロームブロック (径1~2cm) 微量含む。しまりあり。
  - 4 明黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒多量。炭化物粒・焼土粒少量。ロームブロック (径1~4cm)・炭化材 (径0.5~1cm) 微量含む。しまりあり。
  - 5 暗黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒・ロームブロック (径1~3cm) 多量。炭化物粒微量含む。しまりあり。
- SI-33
- 1 明黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒少量含む。しまりあり。
  - 2 暗黄褐色土 (10YR4/4) ローム粒・ロームブロック (径1~4cm) 少量含む。しまりあり。
- SI-34
- 1 明黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・ロームブロック (径0.5~1cm)・焼土粒・焼土ブロック (径0.5~1cm)・炭化物粒・炭化材 (径1~3cm) 微量含む。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒多量。ロームブロック (径0.5~5cm)・焼土粒・焼土ブロック (径0.5~3cm)・炭化物粒・炭化材 (径1~6cm) 少量含む。
  - 3 黒褐色土 (10YR2/1) ローム粒・炭化物粒少量。焼土粒・ロームブロック (径0.5~1cm)・炭化材 (径0.5~1cm) 微量含む。
  - 4 暗黒褐色土 (10YR1.7/1) ローム粒・ロームブロック (径1~6cm) 微量含む。
- 土質
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・ロームブロック (径0.5cm程度) 少量含む。
- 基本土層
- 1 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量含む。しまりややあり。(表土・耕作土)
  - 2-1 暗褐色土 (10YR3/3) 鉄分酸化暗褐色土多量。ローム粒少量含む。しまりあり。(寄土)
  - 3 暗褐色土 (10YR3/3) 白色土粒 (火山灰A s-Bカ) 多量。ローム粒微量含む。しまりあり。(A s-B以降の土層)



第28図 SI-30出土遺物実測図

第27表 SI-30 出土遺物観察表

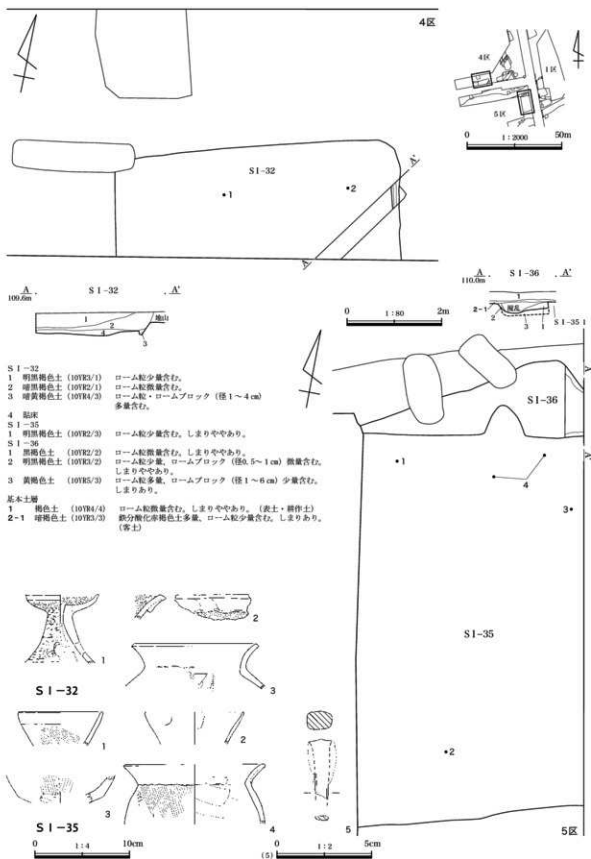
No.	遺物種	大きさ(cm)	特徴等	胎土	胎色	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 壺	口径: 15.8 底径: 8.7 高径: 22.2	内: 口縁部ハナナダ。胴部上半部L&S50。斜方 筒・横方筒ナダ。下平ヘナダナ。 外: 口縁部ハナナダ。胴部上段斜方筒・平 中・下段斜方筒ナダ。一部ナダ。底部中央上段 底ナダ。スス付。	白色・帯色砂粒多量。 白色・灰色・透明粒 多量	黄	内: 7.5Y17/3L50。口縁部・胴部 外: 7.5Y8/1L50 黄	口縁部・胴部 一部欠損	Nc2	
2	土師器 壺	口径: 16.2 底径: 8.5 高径: 22.2	内: 口縁部ハナナダ。胎土縁部多量。胴部ハ ナナダ。胎土縁部多量。 外: 口縁部ハナナダ。胴部上段ハナ ナダ。中・下段ナダ。上段斜方筒ナダ。底部ス ス。スス等付。	白色陶粒多量。灰白 透明粒多量	黄	内: 外: 10Y8/1L1 50・黄	口縁部3/4。胴 部一部欠損	Nc1	
3	土師器 小型壺		内: 口縁部ハナナダ。 外: 体部スス付。斜方筒・平方筒のヒナナ。	褐色砂粒一部粒多 量。白色砂粒・白色斜 方筒多量	黄	内: 2.5Y12/2L50 外: 10Y8/1L50 黄	口縁部・胴 部		
4	土師器 小型壺		内: 口縁部ハナナダ。胴部縦段・斜方筒・平方筒 外: 口縁部ハナナダ。胴部縦段・斜方筒・平方筒	白色陶粒・黒粒少量 量。白色片状物多量	黄	内: 外: 5Y8/3L50 黄	口縁部一部 欠損		



0 1:4 10cm

第29圖 S I-31・33・34出土遺物実測圖





- S1-32
- 1 明黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒少量含む。  
 2 暗黒褐色土 (10YR2/1) ローム粒微量含む。  
 3 暗黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒・ロームブロック (径1~4cm) 多量含む。

## 4 竪穴

## S1-35

- 1 明黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量含む。しまりややあり。

## S1-36

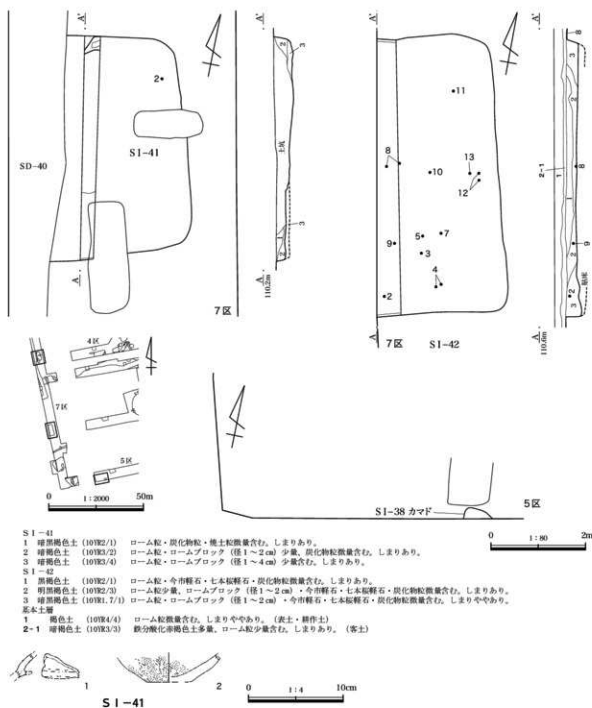
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒微量含む。しまりややあり。  
 2 明黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量。ロームブロック (径0.5~1cm) 微量含む。しまりややあり。  
 3 黄褐色土 (10YR5/3) ローム粒多量。ロームブロック (径1~6cm) 少量含む。しまりあり。

## 基本土層

- 1 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量含む。しまりややあり。(黄土・耕作土)  
 2-1 暗褐色土 (10YR3/2) 脱硫酸化学褐色土多量。ローム粒少量含む。しまりあり。(客土)

第30図 S1-32・35・36実測図・出土遺物実測図





- S I-41
- 1 暗黒褐色土 (10YR2/1) ローム粒・炭化物粒・堆土粒微量含む。しまりあり。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/2) ローム粒・ロームブロック (径1~2cm) 少量、炭化物粒微量含む。しまりあり。
  - 3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・ロームブロック (径1~4cm) 少量含む。しまりあり。
- S I-42
- 1 黒褐色土 (10YR2/1) ローム粒・今市軽石・七本松軽石・炭化物粒微量含む。しまりあり。
  - 2 明黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒少量、ロームブロック (径1~2cm)・今市軽石・七本松軽石・炭化物粒微量含む。しまりあり。
  - 3 暗黒褐色土 (10YR1.7/1) ローム粒・ロームブロック (径1~2cm)・今市軽石・七本松軽石・炭化物粒微量含む。しまりややあり。
- 基本土層
- 1 褐色土 (10YR4/4) ローム粒微量含む。しまりややあり。(表土・耕作土)
  - 2-1 暗褐色土 (10YR3/3) 鉄分酸化帯褐色土多量。ローム粒少量含む。しまりあり。(客土)

第31図 S I-38・41・42実測図・出土遺物実測図

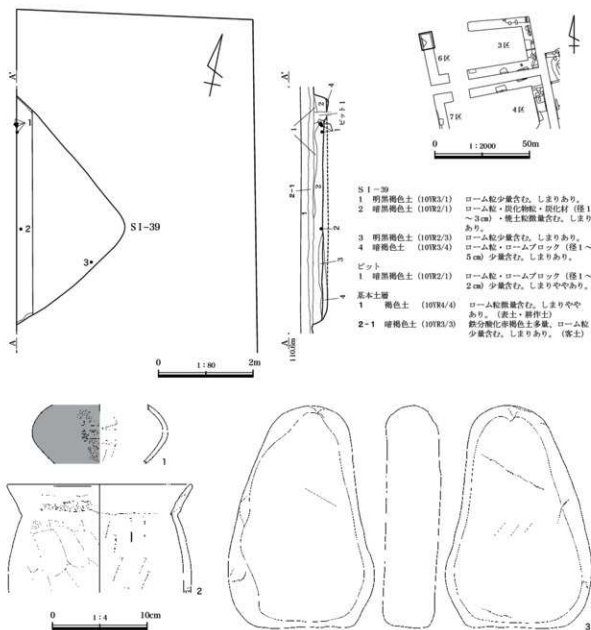
第33表 S I-41 出土遺物観察表

No	種類	大きさ(cm)	技術等	胎土	胎成	色調	残存率	注記	備考
1	土加型 瓦片		内: 表面厚化粧より技法不詳。 外: 表面厚化粧に於て技法不詳。トコ部が外方に突出。曲線	泡瀬/細砂・白化粧 曲線	胎成	内・外: 10YR3/6明 炭物	残存率 半	注記	
2	土加型 塊	縦径: (4.6)	内: 底面・少口。胴部下溝ノズ。 外: 側一筋溝→少口。	白色細砂一細砂多 量。白色河砂物少量	胎成	内: 7.2Y4.6暗 外: 10YR1/3白・ 黄緑	残存率 8	N411	

(1)指定品





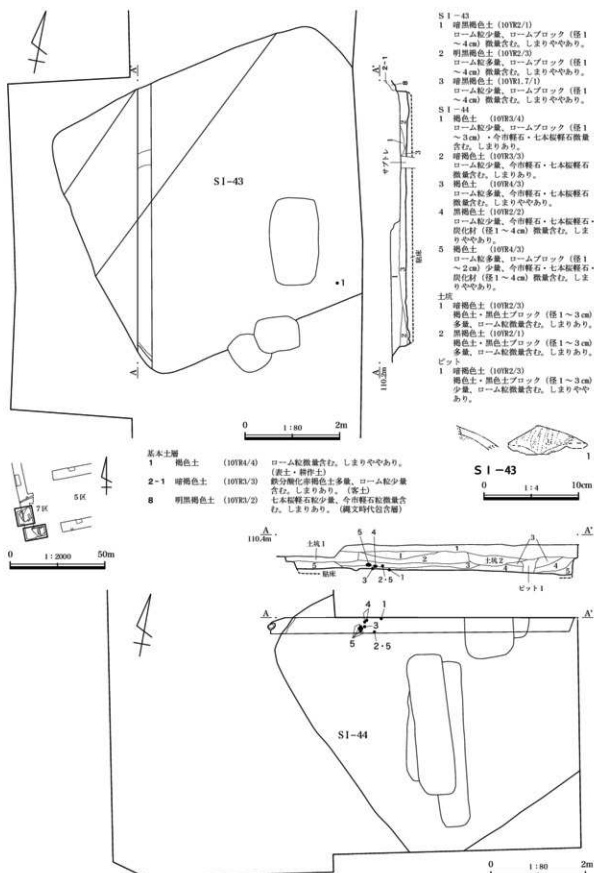


第33図 S1-39実測図・出土遺物実測図

第35表 S1-39出土遺物観察表

No.	器種	大きさ(mm)	特徴等	胎土	胎成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 小豆壺		内・外底上平ヘナダグナフ、下平縁方面への折 内・外底ヘナダグナフ発色色地埋込みガキ	白色陶胎少量、白色 胎土	胎成に内 7.2YR4/3に近 瓦 胎	赤褐色	5% 5/27/1/1	休部中底1/5	No.3-4-5-6
2	土師器 壺	口径:100 全高:100	内・外底ヘナダグナフ、頸部ヘナダグナフ、 外・内底上平ヘナダグナフ、上平コ コナフ、胴部上平縁埋込み、底ヘナダグナフ、上平コ コナフ方向にクワリ、スス付着	白色陶胎一微粒少量	胎成に内 7.2YR4/3に近 瓦 胎	赤褐色	11% 11/4	休部中底1/5 胴部1/4	No.1
3	石製品 磁石	長さ:20.5 幅:15.5 厚さ:5.8	表面の平造り立部を斜面とする。長軸に対して、 斜めに研ぎ削がれた。重さ3692.1g。				未存		No.7

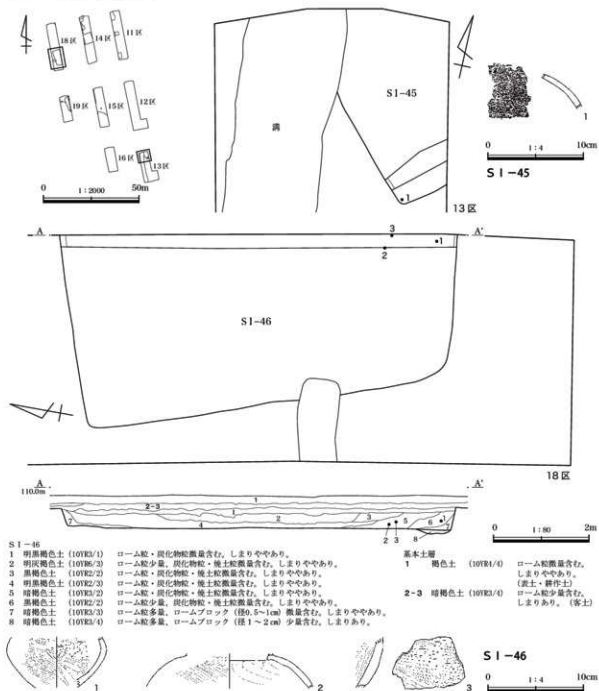
( ) 推定値



第34図 S1-43・44 実測図・出土遺物実測図



第3章 発見された遺構と遺物



第36図 S1-45・46 実測図・出土遺物実測図

第38表 S1-45 出土遺物観察表

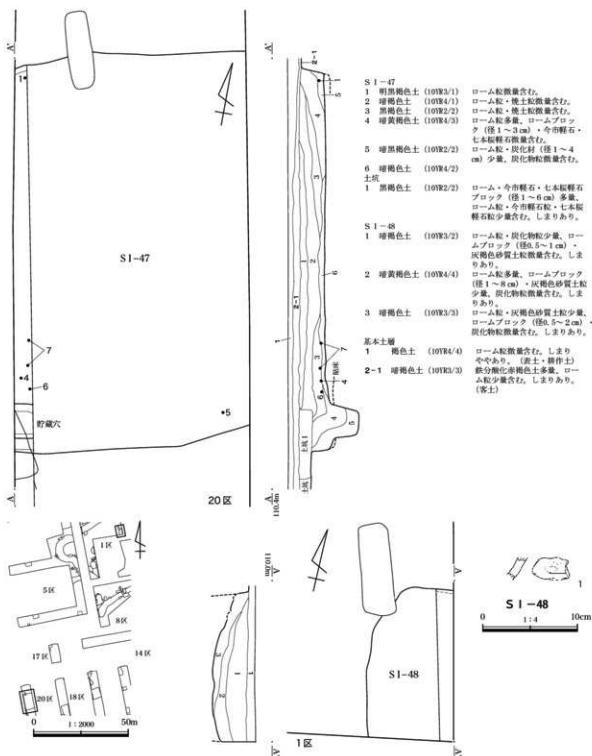
( ) 推定値

No.	遺構	大きさ(m)	特徴等	粘土(石材)	構成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 小壺		内・胴部ナデ。 外・胴部ハケ目。	白色・透明粒多量。灰色粒少量。白色粒状物微量	黄 や 赤 土 外:10YR7/4~5V、 黄緑	内:7.5YR7/6黄 赤 外:10YR7/4~5V、 黄緑	約部 2%	No.1	

第39表 S1-46 出土遺物観察表

( ) 推定値

No.	遺構	大きさ(m)	特徴等	粘土(石材)	構成	色調	残存率	注記	備考
1	土師器 小壺		内・胴部ナデ・下部ナデ。中位ハケ目。 外・胴部ハケ目。中位上縁ハケ目。スリ付。	白色粒粒一細粒多量。白色細粒・黒色微細粒	黄	内:10Y7/3C黄 赤 外:10YR3/2R黄 赤	内:約部1/6 外:約部1/6	No.1	
2	土師器 小壺		内・体部斜方向ナデ。 外・体部上縁ハケ目。上縁斜方向ハケ目。基部あり。	白色粒粒一細粒多量。白色微・白色粒状物・透明粒一細粒多量	や 赤 土 外:17.5YR6/6R	内:2.5Y8/6黄 赤 外:17.5YR6/6R	約部 1度1/6	No.2	
3	土師器 壺		内・胴部ハケ目。夕夕式口縁守る。 外・胴部ハケ目。スリ付。	白色粒粒一細粒。灰色細粒多量。白色粒状物少量。出色口微少	黄	内:10YR6/2R黄 赤 外:7.5YR6/6R	約部 1/6 約部 1/6	No.4	



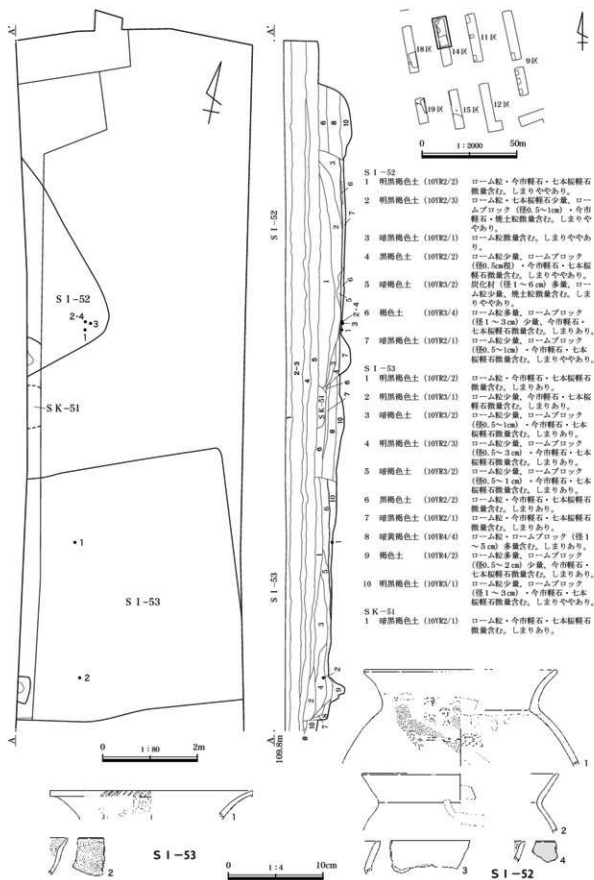
第37図 SI-47・48 実測図・出土遺物実測図

第40表 SI-48 出土遺物観察表

No	品種	大きさ(cm)	投擲等	胎土	胎成	色調	残存率	注記	備考
1	土加蓋 瓦片		内・外2面ナシ。 外・内面ハコ目・押厚底、押造り模方周ナシ。 内面に凹造り模方あり。	褐色・灰白色粒多量、 褐色面一粒粒少量、 白色陶粒微量	内・外:7.5YR5/0 押造り	茶色	2部	サブレン ナ内	

( ) 推定値





第39図 S I-52・53・S K-51 実測図・出土遺物実測図

## S I - 47 (第37・38図、第41表、図版一七・一八・二八)

調査地南西部の20区に存在する。住居の規模は南北8.4mで、比較的大型の住居跡である。調査区西際を掘り下げた結果、床面が軟質で、ほぼ全体に貼り床を行っていると考えられた。南端の壁際には深さ60cm程の貯蔵穴があった。覆土は緻密で、自然堆積したものである。

遺物は、1・4・6・7が覆土下層から、5は遺構確認面から出土した。6の甕は、胴部内面にケズリを行っている。

## S I - 48 (第37図、第40表、図版一八)

1区の南東隅に存在する。住居跡の北西隅を確認し、東端を試掘したが、掘り下げ調査は床面までに及ばなかった。覆土は比較的緻密な土で、埋め戻したものとみられる。

遺物は、腰部・底部境に緩やかな稜がある高坏片を図化した。

## S K - 51 (第39図、図版一八)

調査地南部の14区に存在する。土層図によれば、本土坑は基本土層5層(A s - B下、古墳時代前期の層)の下から掘り込む。幅90cm、深さ15cm程で、暗黒褐色土の覆土であった。自然堆積したと考えられる。

## S I - 52 (第39図、第42表、図版一八・二八)

14区の北端に位置する。S K - 51よりも古いが、基本土層5層から掘り込む。南東隅付近を確認し、隅丸方形であった。貼り床が確認された。覆土は自然堆積であると判断した。

遺物は、遺構確認面から出土した4点を図化した。4は在地産で、内外面赤彩の甕である。

## S I - 53 (第39図、第43表、図版一八・二八)

14区にあり、規模は南北5.3mになる。覆土のうちロームは南側から流入しており、自然に堆積したと思われる。

遺物は、確認面から出土した2点を図化し、1は口唇部に刻みを施す二重口縁甕で、在地産である。

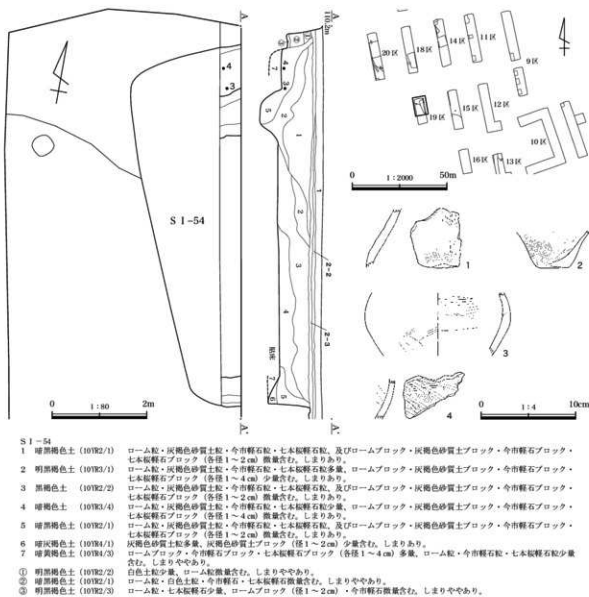
第42表 S I - 52 出土遺物観察表

							( ) : 推定値		
No	遺構	大きさ(cm)	検体等	粘土	組成	色調	残存率	注記	備考
1	上部貯蔵	口径:20.4	内:口縁部30cmナブ、下段へラナブ、胴部土留層 外:口縁部10cmナブ、粘土層色紙あり。 外:口縁部20cmナブ、ト下ハケ目、胴部縦・斜・横 方向へケ目。	白色焼酎多量、黒色 焼酎・白色針状物少 量、白色焼・黒色灰付 片あり。	良	内:赤・10YR5/4弱 外: 赤・黄褐色	口縁部・内、胴 1/2、胴部土留 一部	14区20区	
2	上部貯蔵	口径:20.0	内:口縁部30cmナブ、へラナブ、胴部ナブ。 外:口縁部10cmナブ、胴部縦方向へケ目、スス層 付あり。	白色焼酎多量、白色 焼酎・白色針状物少 量。	やや 不良	内:赤・10YR5/3弱 外: 赤・黄褐色	口縁部・内、胴 部1/2	No.5	
3	土留貯蔵		内:口縁部30cmナブ、 外:口縁部10cmナブ、下段へラナブ、ススが層付 あり。	白色焼酎・焼酎・黒 色焼酎多量、口縁部 付あり・白色針状物 多量、白色焼酎多量、 白色焼酎多量、黒色 土留・白色針状物少 量。	良	内:赤・10YR5/4弱 外: 赤・黄褐色	口縁部1/2	No.6	
4	土留貯蔵		内:口縁部30cmナブ、ミガク、赤彩。 外:口縁部30cmナブ、赤彩。	白色焼酎・焼酎多 量、白色焼酎多 量。	良	内:赤・10YR5/4弱 外: 赤・黄褐色	口縁部・内 部	No.5	

第43表 S I - 53 出土遺物観察表

							( ) : 推定値		
No	遺構	大きさ(cm)	検体等	粘土	組成	色調	残存率	注記	備考
1	上部貯蔵	口径:21.4	内:口縁部一部30cmナブ。 外:胴部縦方向ミガク、口唇部に赤口による刻み あり。	白色焼酎・焼酎多量、 白色焼・白色針状物 多量。	やや 不良	内:赤・10YR5/4弱 外: 赤・黄褐色	口縁部1/2	No.9	
2	土留貯蔵		内:口縁部30cmナブ、ミガクナブ。 外:口縁部一部30cmナブ、ミガクナブ。	白色焼酎・焼酎多 量、白色焼酎多 量。	良	内:赤・10YR5/4弱 外: 赤・黄褐色	口縁部・内 部	No.5	





第40図 S I-54実測図・出土遺物実測図

第44表 S I-54出土遺物観察表

No.	図種	大きさ(cm)	捺線等	胎土	胎色	色調	残存率	注記	備考
1	土胎面 小形鉢		内: 胎面直線のみ。胎面観察なし(技術不明瞭)。 外: 胎面ハケ目後斜方向にハケ目。	黒胎土-黒砂多量。 白色砂少砂。彩色粒 灰粉微量	黒	内: 2.318/100% 外: 10195/100% 黄粉	胎面一部	層上一括	
2	1区跡 鉢小	直径: 3.2	内: 胎面直線ナシ 外: 胎面ハケ目後斜方向にハケ目。胎面直線のみ。	白色胎-黒砂多量。 黒色土粒少量。白色 砂粒少量	黒	内: 0930/41% 外: 2.322/100%	胎面残存。胎面 F141/2	層上一括	
3	土胎面 鉢		内: 胎面直線ハケ目。胎面直線のみ。 外: 胎面直線ハケ目。胎面直線のみ。	白色胎-黒砂多量。 白色胎-白色砂粒 微量	黒	内: 7.576/94% 外: 10193/100% 黄粉	胎面中1/5	Nc2	
4	土胎面 鉢		内: 胎面直線ナシ。 外: 胎面ハケ目後斜方向にハケ目。胎面直線のみ。	白色胎-黒砂多量。白色 胎-白色砂粒多量。 胎面直線のみ	黒	内: 2.316/93% 外: 2.322/100%	胎面一部	Nc1	

S I-54 (第40図、第44表、図版一八・一九・二八)

調査地の南端19区に存在する。土層図の地山①層は基本土層4層に類似する。住居跡の規模は南北7.5mで、床面はしまっており、貼り床を行い、周溝を作る。覆土はロームの多い部分もあり、人為的な埋め土とみられる。

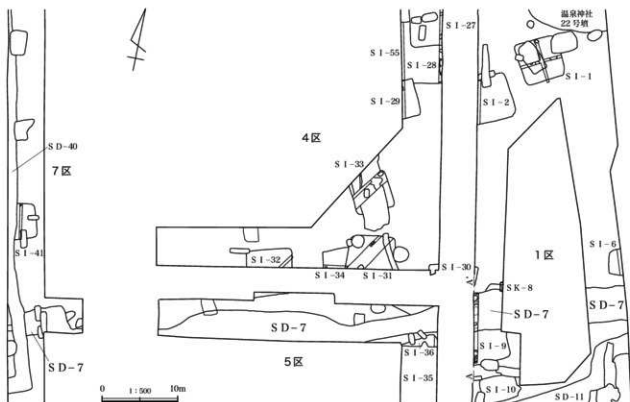
図化した遺物は、床面直上から覆土下層で出土した。2は底径が小さくて、小型の鉢であろうか。

## 第5節 その他の遺構

各調査区で、住居跡に近い位置にある土坑・井戸については、それぞれ報告してきた。ここでは、それ以外の溝について報告する。

**SD-7** (第17・18・41・52図、第10・45表、図版七・一九・三〇)

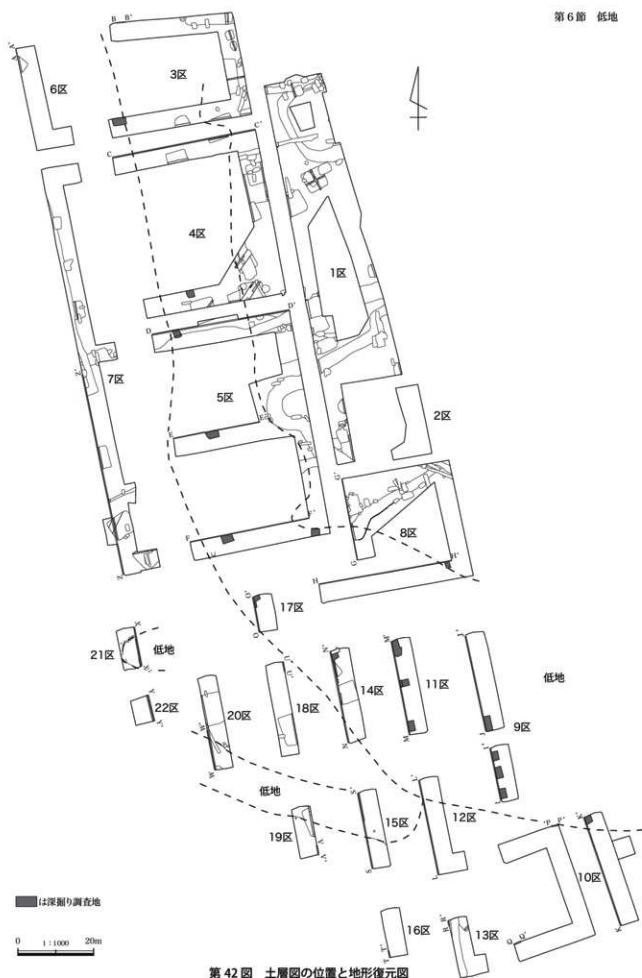
この溝は調査区1区・5区北側トレンチ・7区を東西に蛇行して走る。1区の西壁際で覆土を試掘して、土層図を作成した。断面形は底面が平坦な逆台形になっており、掘り込みは灰褐色砂質土に及ぶ。覆土の3層に礫を含み、全体には自然堆積であろう。かわらけが出土しており、中世の溝であろう。



第41図 SD-7と周辺遺構実測図

## 第6節 低地 (第42～53図、第45・46表、図版二〇～二三・二九・三〇)

現在の水田・畑の区画の部分に試掘坑を設けて、重機で掘削し、1区・2区・6区・7区などでは暗黄褐色土のローム面で遺構確認を行った。しかし、調査地南部の9区～22区では、竪穴住居跡などの遺構は希薄であった。この部分では表土を除去すると黒褐色土などであり、低地が入り組んでいるとみられた。この低地からは古墳時代前期の遺物も出土し、方形区画遺構や住居跡群と地形との関係を明らかにすることが必要になった。そこで、低地の調査課題として、部分的に低地の掘り下げを行い、層序と各層の時期を明らかにすることを第一の課題とした。また、黒褐色土などの分布域から低地の範囲を明らかにすることを第二の課題とした。さらに、方形区画遺構や古墳・竪穴住居の構築・居営時期の景観復元を第三の課題とし、周辺の古墳を含めた遺構群に対する低地の意義を明らかにすることを最終的な第四の課題とした。



第42図 土層図の位置と地形復元図

### (1) 土層の時期

第一の課題で鍵になるのは、8区の西端トレンチにおいて、方形区画遺構と低地の土層との関係が把握でき、S D-11の上層に基本土層5層が堆積していたことである。つまり、方形区画遺構の営まれた時期は6層上面、5層下面ということが判明した。14区において高環などがまとまって出土した土坑は、5・6層を掘り込んでいる。高環などは5世紀代のものであることから、5層の下限は5世紀以前となる。

6層の上面は、古墳時代前期の方形区画遺構の時期で、概ね6層は古墳時代前期の包含層と考えておきたい。低地下層では火山灰テフラ分析によって、最下層の基底付近から今市軽石・七本桜軽石が確認された。両軽石は1.4～1.5万年前の噴火とされている。このため、低地の最下層がこの頃とすると、縄文時代以降に低地下層の土が堆積したと判断できる。

3層には白色土粒が含まれており、火山灰A s-Bの可能性もある。このため、3層は平安時代末1108年以降の層と判断した。4層は、3層と5層の年代によって、5世紀から11世紀までの間になるであろう。

### (2) 低地の範囲 (第42～49図)

方形区画遺構に併行する6層上面は、9区(土層図I・J)・10区(土層図K)・11区(土層図M)・14区(土層図N)・17区(土層図O)に限られた。5層下面は広く3区～5区にも認められるが、5層の下には6層がなくて、8層が堆積する場所もある。そこで、各調査区の土層図から5層下面の範囲を明らかにし、方形区画遺構の営まれた時期、及び廃棄直後の地形を復元することとした。

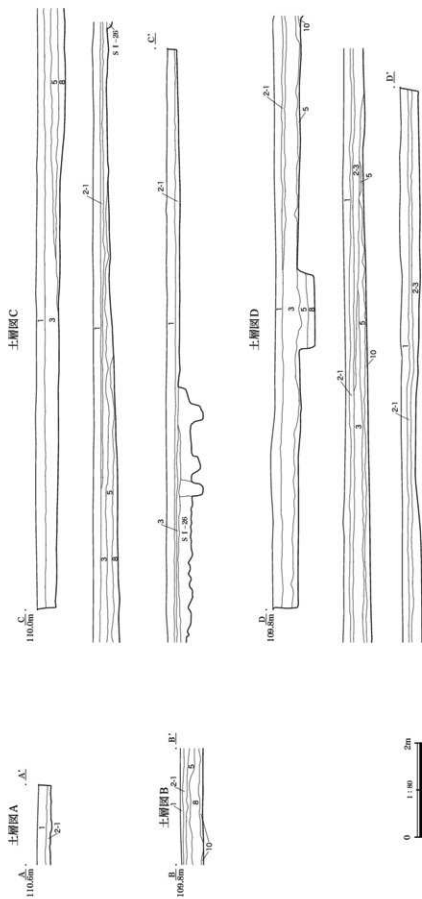
A～Zの土層図で5層が確認できるものについて、層の端の位置を全体図に点で示した。その位置を繋ぐことで、5層下面、方形区画遺構の営まれた時期、及び廃棄直後の地形をみていく。3区北側トレンチの土層図Bでは5層が確認できることから、低地の始まりは3区より北側までのびていることになり、観音堂古墳の西側になるであろう。南に向かって、その幅は土層図Cで幅約27m、5区北側トレンチの土層図Dで幅約21m、中央の土層図Eでは西端までと深掘りの位置まで5層があるが、東端は掘り下げ調査していない。5区のS1-35の西壁には5層は確認できず、5区南北トレンチのセクションポイントF'から北4mの位置から北側で5層が確認されている。このため、5層の東ラインは方形区画遺構の北西張り出し部を囲むような形になっていたと復元できる。土層図Fでは方形区画遺構寄りの位置で深掘りを行っていないが、トレンチ西側で5層の立ち上がりがある。土層図Gで、5層は方形区画遺構S D-11を平面で1.8m覆っている。土層図Hでも東端まで5層が確認できることから、土層図G・Hで5層立ち上がりを結んだ線が方形区画遺構の載る台地の南限となる。

5層の西側は土層図N・L・Kで立ち上がりが確認され、これによって低地の西辺が復元できる。これらによって、低地は3区から5区まではほぼまっすぐに南下し、方形区画遺構の南西で東に曲がり、権津川に流れていったと復元することができる。

### (3) 方形区画遺構や古墳・竪穴住居と低地との景観復元 (第49図)

低地の範囲が明らかになったので、その深さを求めてみる。主な低地5層下面と両側の台地上の高さを測ると、北側の7区北端(1-1)遺構確認面・土層図Cの5層下面(1-2)・1区北端(1-3)遺構確認面では、方墳付近の確認面と低地部5層下面で、方墳付近確認面が10cm高いのみである。この付近は表土が50cm程である。当時の地表面が不明であるが、最大でも低地の深さ60cm程であり、低地が比較的浅いことが推測される。

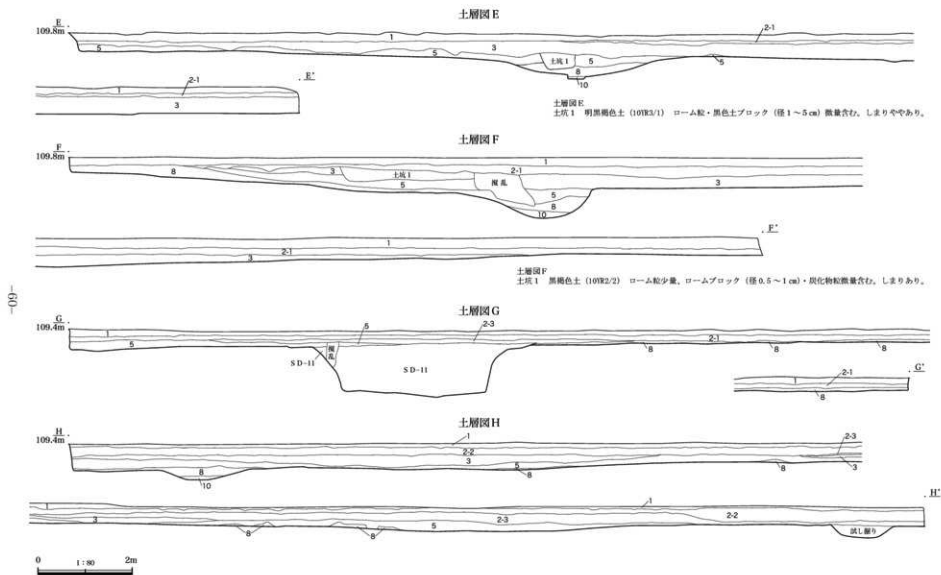
方形区画遺構の付近では、7区S1-42付近(2-1)の遺構確認面と土層図Eの5層下面(2-2)・方形区画内(2-3)の遺構確認面と、区画内の確認面と低地5層下面の比高差35cm程になる。区画付近の表



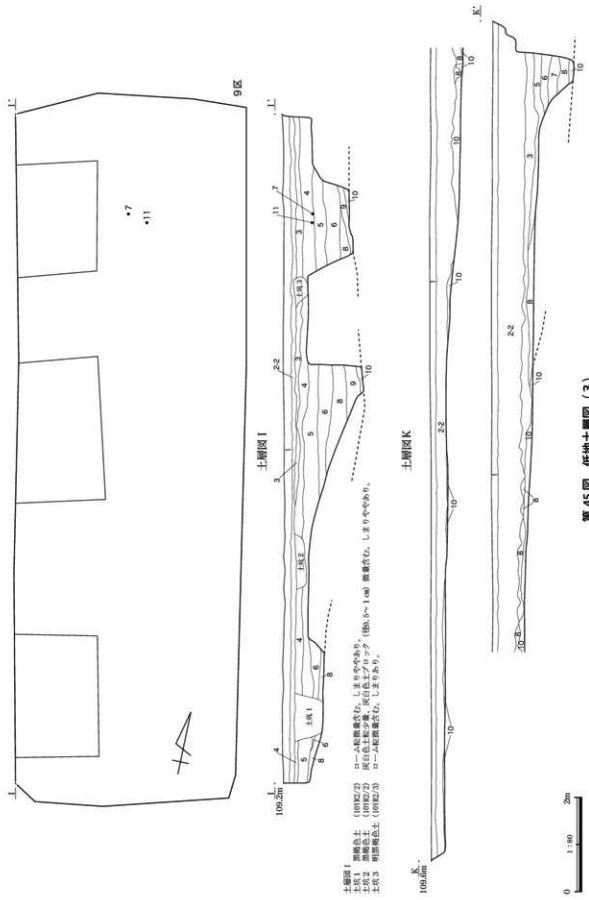
基本土層（本図断線で採掘）

- 1 褐色土 (10084/4) ローム状腐葉土含む。しまりやみあり。(客土・耕作土)
- 2 1 褐色土 (10085/0) ローム状・ローム土ブロック。しまりやみあり。(客土)
- 2-2 腐葉土 (10085/0) ローム状・ローム土ブロック (厚0.5~10cm)・砂質ローム土・砂質ローム土。多量含む。しまりあり。(客土)
- 2-3 暗褐色土 (10085/4) 白色土肥 (山吹灰・S・B) 多量。ローム状腐葉土。しまりあり。(A・B)以下、古墳時代後期の土層
- 3 暗褐色土 (10085/3) 白色土肥・ローム土・腐化腐葉土含む。しまりあり。(A・B)下、古墳時代後期の土層
- 4 暗褐色土 (10085/2) 白色土肥・ローム土・腐化腐葉土含む。しまりあり。(A・B)下、古墳時代後期の土層
- 5 暗褐色土 (10085/1) 白色土肥・ローム土・腐化腐葉土含む。しまりあり。(古墳時代前期の土層)
- 6 暗褐色土 (10085/2) ローム土・七本松様石炭腐葉土。しまりあり。(縄文時代後葉)
- 7 暗褐色土 (10085/1) ローム土・七本松様石炭腐葉土。しまりあり。(縄文時代後葉)
- 8 暗褐色土 (10085/1) 七本松様石炭腐葉土。しまりあり。(縄文時代後葉)
- 9 暗褐色土 (10085/2) 七本松様石炭腐葉土。しまりあり。(縄文時代後葉)
- 10 暗褐色土 (10085/3) 七本松様石炭腐葉土。しまりあり。(ローム腐葉土)

第43図 低地土層図(1)



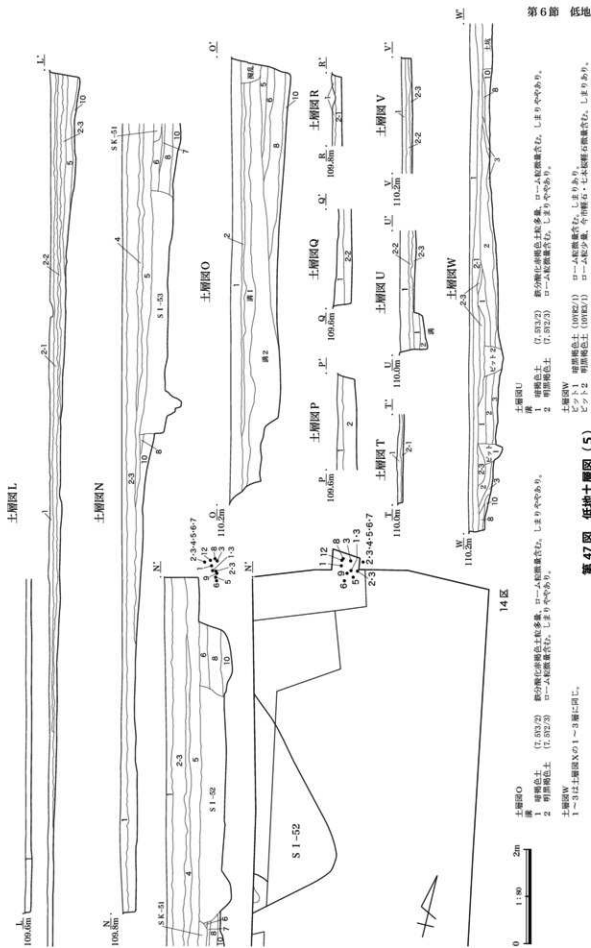
第44図 低地土層図(2)



第45図 低地土層図(3)

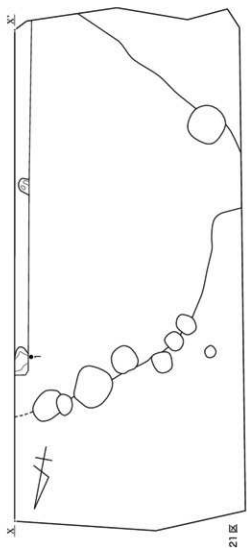






第6節 筑港

第47図 低地土層図(5)



土層図X

- 1 明褐色土 (10182/2) 白色土砂少量、ローA砂礫層含む、しまり中〜あり。
- 2 暗褐色土 (10182/1) ローA砂、白色土肥、今市軽石、七本松軽石層を含む、しまり中〜あり。
- 3 明褐色土 (10182/3) ローA砂、七本松軽石少量、ローAプロック (図1~2cm)、今市軽石層を含む、しまり中〜あり。

土質

- 1 明褐色土 (10181, 7/1) ローA砂少量、今市軽石、七本松軽石層を含む、しまり中〜あり。

ピット

- ピット1 (10183/2) ローA砂、今市軽石、七本松軽石層を含む、しまりあり。
- ピット2 (10182/3) ローA砂、今市軽石、七本松軽石層を含む、しまりあり。
- ピット3 (10183/1) ローA砂、今市軽石、七本松軽石層を含む、しまり中〜あり。

土層図Z

- 1 明褐色土 (10182/1) ローA砂、今市軽石、七本松軽石層を含む、しまり中〜あり。
- 2 暗褐色土 (10183/3) ローA砂少量、ローAプロック (図1~4cm)、今市軽石、七本松軽石層を含む、しまり中〜あり。

溝

- 1 溝 (図1~10cm) 多量、ローA砂少量を含む、しまりあり。

土層図X



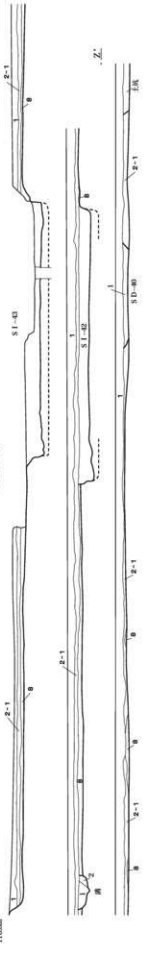
土層図Y



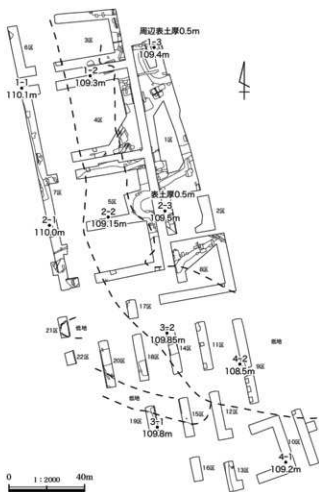
土層図S



土層図Z



第48図 低地土層図(6)



第49図 低地の高さ及周边表土厚

低地の北辺とみると、北辺は18区・19区の間において、低地の幅は10～20m前後で、北西から南東に向かい、3区から南流する基幹低地に注ぐと考えられる。このため、幅や長さからみても、この低地は枝谷といえる。

この低地の土は土層図Sをみると、5・10層が堆積している。このため、5層下面が方形区画遺構を含めた集落の居営時期であることから、集落の時期に基幹低地とともに枝谷が存在していたとみられる。

21区でも遺構確認面で、半円形の明・暗黒褐色土部分があった。この部分の土は基本土層8・10層などであった。古墳時代前期に低地になっていたか明らかでないが、提示しておく。

#### (5) 14区の土坑 (第47・51・52図、第45表、図版一八・三〇)

14区の北端において高環などがまとまって出土した。これについて、現地調査で遺構番号を付さなかったが、土坑の可能性があると記録があり、ここで報告する。土坑はトレンチ掘り下げ時の土層断面で幅約120cm、深さ約40cm、椀形の断面をしている。3層下面から5・6層を掘り込む。遺物の出土したレベルを土層図Nに投影すると、8層下面まで及んでいる。覆土はローム粒を微量含む黒褐色土で、しまりがあり、自然堆積であろう。

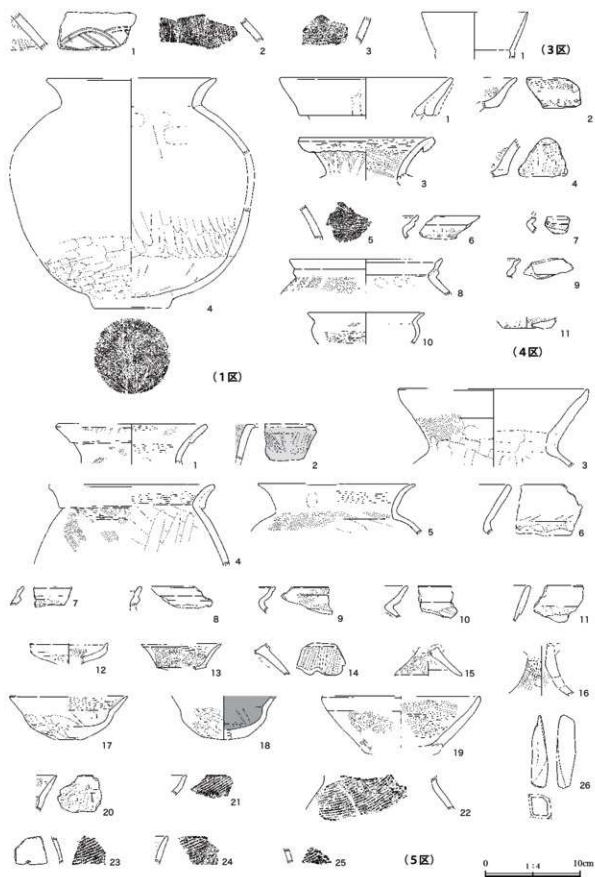
完形の高環や甕、外面にススの付いた小型壺などが出土した。

土厚が50cm程であることから、最大でも低地の深さ85cm程であったと考えられる。

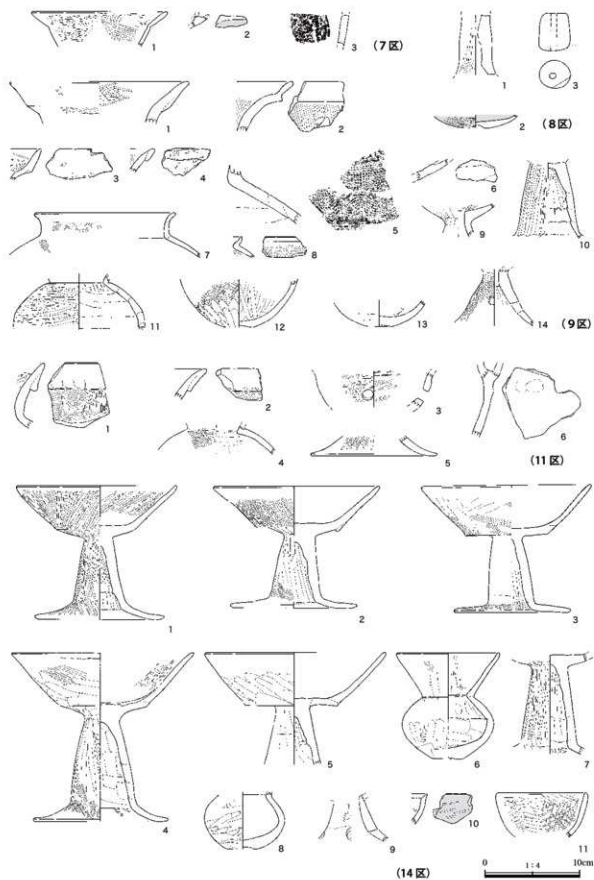
8区は圃場整備で表土・地山が削平されているので、図中2・3地点と3・2地点と比較しても低地5層下面が、方形区画遺構確認面よりも高くなっている。9区の4・2地点の低地5層下面と2・3地点遺構確認面では、5層下面の方が1m低くなっている。これらの点から、方形区画遺構西側の低地は浅くて、1mにも及ばなかったが、南側に至って1m以上の深さになっていたことが明らかになった。そして、方形区画遺構は権津川と浅い低地(沢)で区画された舌状台地の先端に占地し、この中にさらに溝で方形区画を作り、その掘削土を溝内側に盛って土塁としていたのである。

#### (4) 枝谷

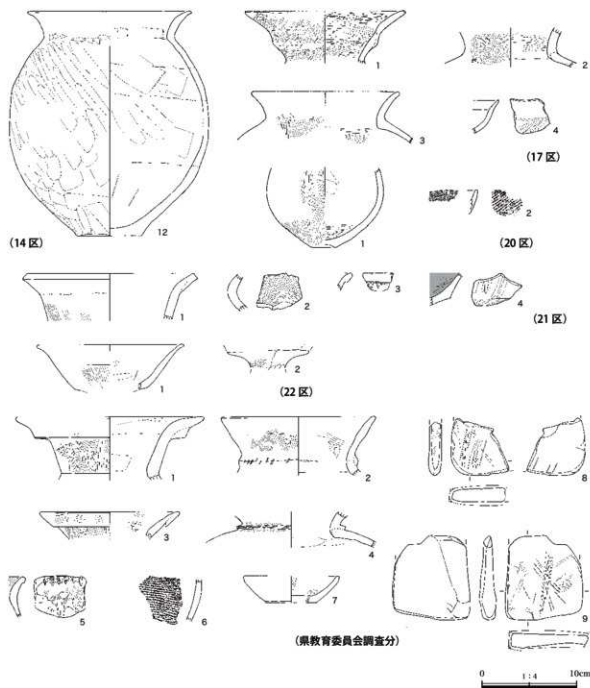
調査地南部のトレンチで遺構確認を行った結果、15区・19区・20区において、黒褐色土の部分を確認された。15区・19区トレンチでは北部に落ち込みがあったことから、これらを結ぶ線は低地の南辺となると判断した。低地北辺は18区で確認できず、20区ではトレンチの南部が黒褐色になっていたことから、この部分を



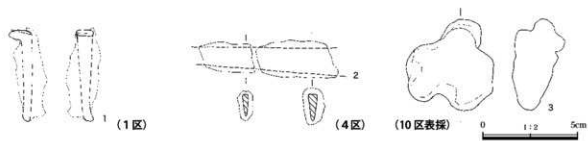
第50図 調査区遺構外出土遺物実測図(1)



第51图 調査区遺構外出土遺物実測図(2)



第52図 調査区遺構外出土遺物実測図(3)



第53図 調査区遺構外出土鉄製品等実測図









## 第3章 発見された遺構と遺物

No.	遺構 小分類	大きさ(m <sup>2</sup> )	後法等	物十	組成	色調	保存率	埋没	備考
8	土師器 小皿型	直径: 3.2	内: 内へ支線ナシナリ。 外: 全体上平ナリ。下半平方向へ横方向ナリ。 蓋部: 1面流ナリ。底部中央ナリ。底心。外周ハケ 目ナリ。	白色陶磁一類少量、 黒色瓦片一類少量、 黒色漆器少量	瓦	内: 赤・5176/38 外: 5176/38	一部残存	北陽No.2	1416
9	土師器 器台		内: 1面下平。表面磨光ナリ。 外: 縦線ナリ。底上段合板ナリ。 胴部は4孔ナリ。	褐色陶磁一類少量、 白色陶磁少量、 白色漆器少量	不瓦	内: 赤・7.2139/68 外: 7.2139/68	埋没1面残存	北陽No.5	1402
10	土師器 短		内: 口縁直ナリナリ。底部ナリ。後縁ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ 目ナリ。 1面磨光ナリ。	白色・褐色陶磁少量	瓦	内: 赤・98/35/25 外: 98/35/25	口縁一部残存	埋土中	1474
11	土師器 短	口径: (9.2)	内: 口縁直ナリナリ。底部直ナリ。外周ハケ目 ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底部直ナリ。外周ハケ目 ナリ。	白色・褐色陶磁少量	瓦	内: 赤・98/35/25 外: 98/35/25	口縁直1/1	一部	1416
12	土師器 短	口径: 17.0 底径: 6.8 底厚: 23.7	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。胴部直上段 合板ナリ。ヘリナリナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。胴部直上平方向ナ リ。下半平方向ナリ。下半平方向ナリ。下半平 方向ナリ。底心ナリ。外周全面にスズメ目ナリ。 付着。	白色陶磁少量、白色 ・褐色陶磁少量、 白色針状物少量	瓦	内: 赤・7.2139/41 外: 7.2139/41	一部残存	北陽No.1	1402
1	土師器 蓋	口径: (6.8)	内: 口縁直ナリナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。底上段合板ナリ。外周ハケ目ナリ。 外周ハケ目ナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁・白色針状 物少量、 白色陶磁・褐色 陶磁少量	瓦	内: 赤・5176/38 外: 5176/38	口縁直1/1	176号、 1474埋土 中	1766
2	土師器 蓋		内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	白色陶磁一類少量、 白色・褐色陶磁・ 褐色針状物少量	瓦	内: 5176/38 外: 5176/38	埋没1/6	埋土中	1702
3	土師器 短	口径: (14.6)	内: 口縁直ナリナリ。胴部直ナリナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	白色・褐色陶磁・白色 針状物少量、 褐色陶磁・褐色 針状物少量	瓦	内: 赤・98/35/25 外: 98/35/25	口縁直・一部、 埋土中	埋土中	1774
4	土師器 蓋		内: 口縁直ナリナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量、 褐色陶磁少量	不瓦	内: 2.5176/38 外: 2.5176/38	口縁直一部	埋土中	1766
1	土師器 短	直径: 2.4	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁一類少量、 褐色陶磁・褐色 針状物少量	瓦	内: 赤・98/35/25 外: 98/35/25	埋没1面、 埋土中	北陽No.1 埋土中	2016
2	土師器 小皿型		内: 口縁直ナリナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	白色陶磁・白色針状 物少量	瓦	内: 赤・7.2139/38 外: 7.2139/38	口縁直一部	一部	2016
1	土師器 短	口径: (17.1)	内: 口縁直ナリナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。口縁直ナリナリ。 口縁直ナリナリ。	褐色陶磁一類少量、 白色陶磁一類少 量、 褐色針状物少量、 褐色陶磁少量	瓦	内: 7.2139/41 外: 7.2139/41	口縁直1/1	No.2, 202 1474埋土 中	2.02
1	土師器 短		内: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量、 褐色陶磁少量	瓦	内: 98/35/25 外: 98/35/25	埋没一部	埋土中	2.02
3	土師器 短		内: 口縁直ナリナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。スズメ目ナリ。	白色陶磁少量、 褐色針状物少量	瓦	内: 赤・109/33/31 外: 109/33/31	口縁直一部	埋土中	2.16
4	土師器 短		内: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量	瓦	内: 2.5176/38 外: 2.5176/38	口縁直一部	埋土中	2.02
1	土師器 蓋	口径: (13.2)	内: 口縁直ナリナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。下半平方向ナリ。 外周全面に褐色色のスズメ目ナリ。	白色陶磁一類少量	不瓦	内: 赤・109/33/31 外: 109/33/31	埋没1面、 埋土中	北陽中央 付近	2216
2	土師器 短		内: 口縁直ナリナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量	不瓦	内: 赤・7.2139/68 外: 7.2139/68	埋没1/6	北陽中央 付近	2202
1	土師器 蓋	口径: (9.1)	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	白色陶磁少量、 褐色針状物少量、 褐色陶磁少量	瓦	内: 7.2139/38 外: 7.2139/38	口縁直一部、 埋土中	埋土中	北陽中央 付近
2	土師器 蓋	口径: (14.8)	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量、 褐色陶磁少量	瓦	内: 98/35/25 外: 98/35/25	埋没一部、 埋土中	北陽中央 付近	北陽中央 付近
3	土師器 短	口径: (14.6)	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量	瓦	内: 赤・7.2139/68 外: 7.2139/68	口縁直1/6	北陽中央 付近	北陽中央 付近
4	土師器 蓋		内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量、 褐色陶磁少量	瓦	内: 98/35/25 外: 98/35/25	埋没1/1	埋土中	北陽中央 付近
5	土師器 蓋	口径: (14.6)	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量	瓦	内: 赤・7.2139/68 外: 7.2139/68	口縁直一部	埋土中	北陽中央 付近
6	土師器 蓋	口径: (14.6)	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量	瓦	内: 赤・7.2139/68 外: 7.2139/68	口縁直一部	埋土中	北陽中央 付近
7	土師器 蓋	口径: (14.6)	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量	瓦	内: 赤・7.2139/68 外: 7.2139/68	口縁直一部	埋土中	北陽中央 付近
8	土師器 蓋	口径: (14.6)	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量	瓦	内: 赤・7.2139/68 外: 7.2139/68	口縁直一部	埋土中	北陽中央 付近
9	土師器 蓋	口径: (14.6)	内: 口縁直ナリナリ。口縁直ナリ。底心ナリ。外周 ハケ目ナリ。 外: 口縁直ナリナリ。底心ナリ。外周ハケ目 ナリ。	褐色陶磁少量、 褐色針状物少量	瓦	内: 赤・7.2139/68 外: 7.2139/68	口縁直一部	埋土中	北陽中央 付近

第46表 調査区遺構外出土鉄製品等遺物観察表

(1) 遺物誌

No.	図版	大きさ(cm-g)	調査号	粘土	産地	色調	残存率	位置	備考
1	鉄製品 釘	長さ: 4.8 幅: 14.23	断面をいへて首に折れ曲げた釘。上部が厚く削けて 1.5が、先端が少し曲がっている。光澤あり。					遺構1号	4区
2	鉄製刀子	長さ: 13.99	両面三角目。平造り平造り。刃部が鋭く、折角 しないが、背中直元。					遺構1号 西5号 東1号	4区 遺構1号
3	縄形断片	長さ: 39.57	上面は平造り。下面縄形の小形断片。重量感 あり。断面。下面に小さな断面の痕跡あり。			303/1(エリープ型)	下部一部欠損	表層	10区

## (6) 低地出土遺物 (第50～53図、第45・46表、図版二九・三〇)

確実に低地における古墳時代前期の層から出たのは、5区の深掘り内のものなどである。また、出土位置を記録した9区の4・8～10・13・14も古墳時代前期の5層内から出た。10は脚が長くなっており、5層の下限を示す資料となる。

外面に縄文を施文する土器が散見し、5区や20区で出ている。20区の2の口縁部には内面にハケ目がある。文様のある古墳時代前期の土器は1区1・4区5・9区5で、後2者は波状文と横位の文様を描く。

## 第4章 総括

## 第1節 土器の時期区分

ここでは、遺跡内での重複関係とこれまでの編年研究成果により、時期区分を行う。栃木県における古墳時代前期の時期区分は、小森紀男氏（小森 1980）・橋本澄朗氏（橋本 1981）の3期区分が1980年代初めに出来て以来、細分が進み、仲山英樹氏（仲山 2003）による佐野市松山遺跡・エグロ遺跡の4期編年、片根義幸・藤田直也氏の4期編年（片根・藤田 2000）、今平氏の0～5期編年（今平 2001）、鈴木芳英氏の1期2小期、3期編年（鈴木 2002）が提出されている。そこで、今回の出土土器を近年の各氏の編年と対照しながら、本遺跡の時期区分を行っていきたい。

## 1 遺構の重複関係と時期区分

## (1) 遺構の重複関係

本遺跡の確認調査でも遺構の重複関係があった。主なものを列挙すると、以下の通りである。

S I-22→S I-21, S I-55→S I-28→S I-27・29, S I-34→S I-31

このうち、S I-31では高坏の長脚化など、従来の編年研究からも新しい要素があることから住居跡出土土器も2時期に区分できる。

## (2) 時期区分（第54図）

## 1期

口縁部が緩やかに屈曲し、口唇部に刻みを施す襷や縄文を施文する襷や鉢などである。刻み口縁は今平0～1段階、藤田・片根Ⅱ・Ⅲ期に少数、鈴木1期になる。縄文施文の襷は今平1段階になり、吉ヶ谷式系の土器である。これらは、広域編年である新潟シンポジウムの6～7期に相当する。

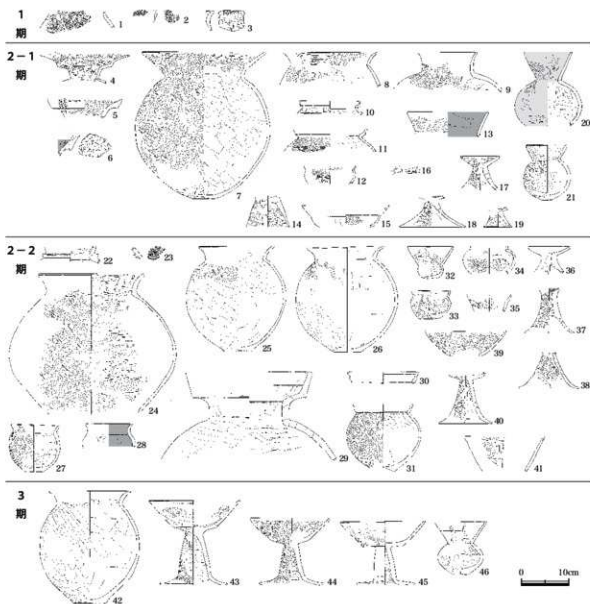
## 2-1期

S I-22・28・34・42などに代表される土器群である。襷はくの子に頸部が屈曲し、刻みがない。S字口縁襷は肩部に横ハケをするものである。口縁部が直立気味のものが僅かに存在するが、器壁が厚く、当該期に位置付ける。小型のS字口縁鉢があり、羽根状と横ハケを施し、今平2・3段階に相当する。S D-11底面近くから出た襷は丸底に近い形態であり、今平2段階に出現する。この襷やS I-42では内面黒色処理した襷のように口縁部が長いものが確認される。台付襷は数少ないが、確認できる。

壺は二重口縁壺や複合口縁壺がある。二重口縁壺は、頸部が直立から逆ハの字状に開くようになる。口縁部内面に平坦面をもつものから段がなくなり、今平4段階には頸部が丸く屈曲し、外反する口縁部形態が出現するという。本遺跡では頸部の搾りが強く、直立に近い逆ハの字形の二重口縁壺があり、今平3期になるであろう。S I-28では、今平Ⅲ2類の二重口縁壺があり、少し上る可能性がある。

高坏は、本遺跡では脚部が内彎するものはなく、外反する形態が主体であり、今平3・4段階、鈴木Ⅱ期になる。

器台は鈴木編年で、坏部・脚部が直線状に開くものは1-2期からⅢ期までであるが、坏部口唇部が外傾するのは1-2期、坏部が椀状・外面下端に稜があるもの、S字状はⅡ期になり、X字状はⅢ期、窪部のある器台は1-2期・Ⅱ期までになる。ここでは1-2期・Ⅱ期の器台が確認できる。小型壺は口縁部径が体部径よりも小さいものである。鈴木氏の鉢・椀B類はⅡ期になり、口縁部内面に稜をもち、大きく開く形態である。器台には受け部内面を黒色処理したものがS D-11で出土している。



1 : 5 区遺構外 2 : 20 区遺構外 3 : 県教育委員会調査分遺構外 4・5・7・10・12・15・17・18・20・24 : S D-11  
 6・9・13・19・21 : S I-42 8・14 : S I-21 11・16 : S I-22 22・23・34・37 : S I-27 25・26 : S I-30  
 27・30・32・38・39・40・41 : S I-31 28・29 : 温泉神社 22号墳 31 : S I-33 33・35 : S I-47 36 : S I-34  
 42~46 : 14 区遺構外

第54図 鹿島前遺跡における土器の変遷

全体的には今平氏の2・3段階で、特に3段階、鈴木氏のI-2期・II期に相当するであろう。また、広域編年の新潟シンポジウム8期に相当すると考える。

### 2-2期

くの字襷は胴部外面にケズリが多くなる。外面ケズリは今平4段階、片根・藤田IV期に出現し、鈴木II期に多用するという。S字襷は横ハケが消えるが、羽根状ハケ目である。横ハケは鈴木II期、今平3段階に消える。

壺では、古墳(22号墳)で、脚が長くのびる高杯とともに口縁部の長い壺が確認された。頸部が直立し、内面に段をもつが、伴する他の器種により、本期に位置付ける。このほかの二重口縁壺は、頸部が外反し、

内面の段が狭く、今平氏のⅢ2類が多くて、4段階が主体になっている。単口緑で、頸部が搾られない壺は、新しい要素と考える。体部に櫛描きの縦歯文や横位文を施す壺もある。

高環や器台は脚部が長くなるが、脚部の孔は残っている。小型壺は頸部が大きく開き、体部径よりも口径が大きい。S D-11の遺構確認面では脚部内面に稜のある高環が少数確認され、少し降る可能性もある。

全体的には、今平氏の3・4段階、鈴木氏のⅡ期が主体になっている。新潟シンポジウム9期に相当すると思われる。

### 3期

14区の土坑一括品が本期になる。高環の脚部は直線状や丸味をもって開き、脚部・裾部境内面に明瞭な稜がある。坯部外面には稜があり、中期でも前半のものであろう。裏は頸部に搾りが少なく、胴部外面にナデ・ケズリを施す。

なお、3期と2-2期の間には、前期末に当たる今平5段階、鈴木Ⅲ期があるが、今回の調査した範囲では確認できず、空白の時期となっている。

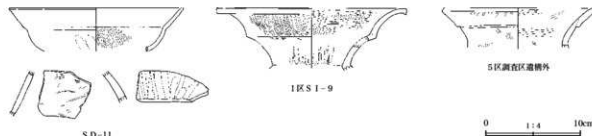
## 第2節 遺物について

ここでは、本遺跡出土遺物のうち、特徴的な遺物に関して概略を提示しておきたい。

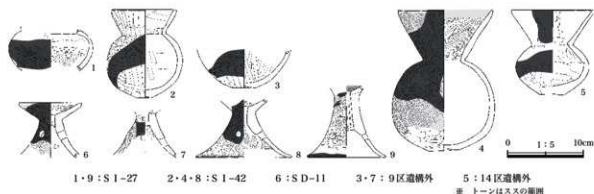
### (1) 搬入土器 (第55図)

八満山系の那須地域の土器には、白色針状物を含む特徴がある。これと異なり、金色雲母を含む土器が確認された。近県で金色雲母を含むのは茨城県南部である。この地域から土器が持ち込まれたことになる。本遺跡における茨城県南部産は、壺の体部がS D-11の51・52、調査区遺構外で5区の1は複合口緑壺である。S 1-9の1は二重口緑壺で、金色雲母を微量含むであろう。埴ではS D-11の90がある。

埴は、前期中頃に出現する小型精製土器群（器台・鉢・小型壺）の一器種である。壺は二重口緑壺で、吉田温泉神社古墳でも供献されたものが発見されている。このような土器群が方形区画の造られる遺跡に持ち込まれる要因が問題となる。一案として、本遺跡では台付袋が少なく、房総半島で多いという平底袋が多い傾向があることから、房総方面・筑波山周辺の地域から器物の移動を含めた交流・ルートがあったと考えられることができる。従来、那須地域への古墳文化の波及は那珂川を遡及するルートが指摘されているが（今平2000）、別な交流・ルートのあったことを示唆する遺物となる。これが壺などの内容物と係るのか、祭儀などの移入ルートと係るのかを考察する一助となると思う。



第55図 胎土に金色雲母のある茨城県からの搬入土器



第56図 ススが付着する土器

このほかにも、S I-28の5の赤彩の壺は、胎土の粒子が細かくて、白色針状物を含んでいないことから、他地域から持ち込まれたとみられ、S D-11の50の壺も胎土の特徴から搬入品であろう。

#### (2) ススが付着する小型精製土器 (第56図)

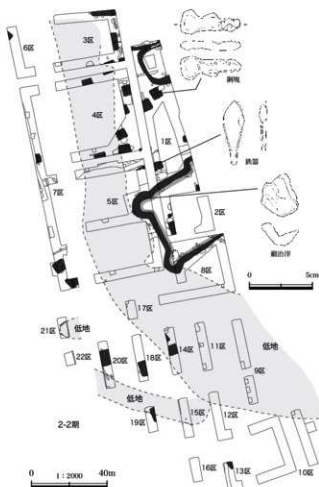
器台・小型壺の外表面に被熱によるススが付着するものが散見した。小型壺は、体部下位にススが付かず、体部中位から頸部・口縁部にある。器台は裾部に付くものも1点あるが、他は脚部上半から受け部外面であった。体部下位にススがいない理由は、器台の上に乗せた時には受け部と重なっており、表面に現れないためと考えられる。また、器台の脚部下位にススがいないことは裏や台付裏の下位にスガ少ない点と共通し、炭や灰の中にあったことが推測される。

スス付着土器の時期は方形区画の存続期間である2-1期・2-2期、古墳中期の3期になる。3期は1点のみで、他は2期の中に位置付けられる。

これらの土器の出土位置は、2期では方形区画溝(S D-11)、区画溝の北方(S I-27)、低地を挟んで西側(S I-42)、区画溝南側の低地(9区)であり、3期は14区の土坑である。

器台や小型壺の小型精製土器を用いて煮炊きしたものの内容物が問題となるが、S I-42出土の小型壺は赤彩を施したものである。赤彩土器を用いて火中で煮沸するものは、器形から液体と推測される。

県内では、古墳前期の四斗蒔遺跡の2号遺構壕内からススの付いた片口土器が出土し、使用方法などが注目されている(小池2000)。本遺跡でも区画溝の北に隣接するS I-6から片口土



第57図 鉄・銅関連遺物出土位置

器が出ている。

小型精製土器による煮沸行為について、他の集落遺跡と比較して、その多寡などを検討し、方形区画遺構の性格を解明する一助になることが期待される。

### (3) 鉄・銅器生産 (第57図)

調査区から鉄製品や生産に係る遺物が出土した。古墳前期の関連遺物ではS I-9から柳葉形の鉄鏃と棒状鉄製品、S D-11の5区北辺から小型の椀形鍛冶滓、S I-1の遺構確認面から出土した銅塊を挙げることができる。これらは、方形区画遺構の存続期間である2期の遺物である。このことは、方形区画周辺で鉄生産や銅生産を行っていたことを示す。現地調査では、遺構の一部を試掘したのみであり、工房は明らかでない。

古墳時代の鍛冶遺構を扱った内山敏行氏によると、古墳前期では鍛冶に関わる住居兼工房は居館に付属しなかったが、中期に居館関連の工房・専用工房が出現するという(内山2012)。橋本博文氏は古墳時代居館と手工業生産集団の関係として、居館内部に取り込むもの、隣接地に置くもの、離れて存在するものの3類型を設定した(橋本2008)。

本遺跡では、鉄滓等は方形区画の溝覆土中や区画から北へ40 m程離れた位置から出土している。ここが隔絶した舌状台地になることから、方形区画内部が、一体となった位置で鉄・銅生産を行っていたといえる。ところで、橋本氏も述べるように銅製品は生活物資というよりも威信財であったと考えられる。本遺跡の銅塊は銅鏃などに相当する大きさであり、銅素材を入手して、小型銅製品を溶解・生産していたと考えられる。その管掌者は後述のように吉田温泉神社古墳の被葬者であろう。

## 第3節 遺構の変遷と那須小川古墳群との関連

本節では、第1節でみた出土土器の変遷を基にして、遺構の変遷をみていく。(第58図)

### 1期

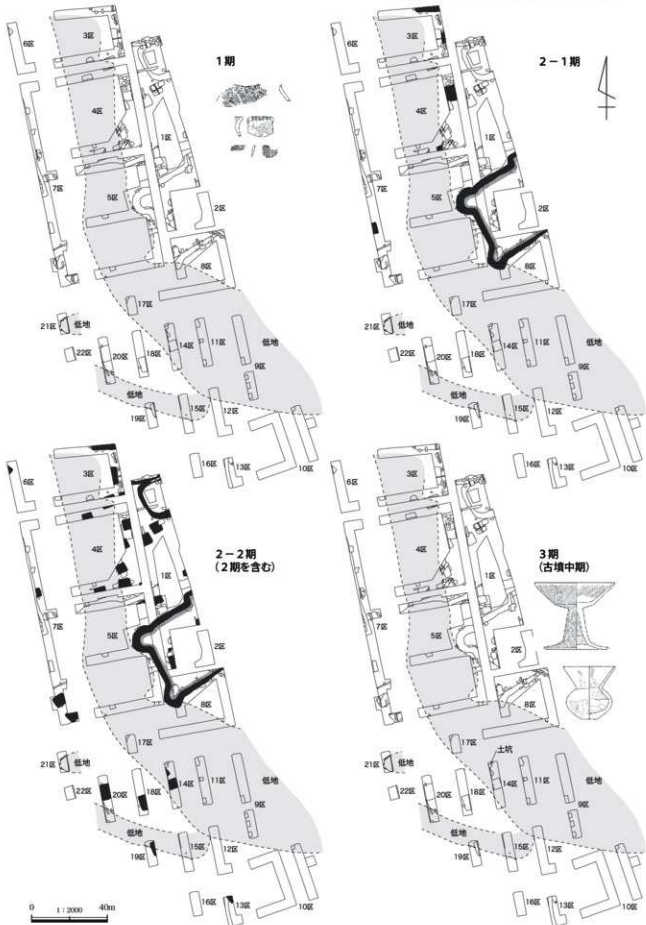
県内の古墳前期の土器編年によれば、体部外面に縄文を施す吉ヶ谷系の土器や口縁部に刻みのある南関東系甕は前期の初期に位置付けられている。この時期の明瞭な遺構は確認できないが、今回発見された方形区画遺構や古墳・住居群に先行するものとみておきたい。吉田温泉神社古墳北側に隣接して発見された竪穴状遺構からも縄文を施す甕が確認されており、これらに併行するものと考えられる。この時期は北西約2 km隔ててある駒形大塚古墳に併行すると考える。

### 2-1期

古墳前期のうち、初期に位置付けられる土器を除き、2期とする。このうち、前段階に当たるものを2-1期として区分し、方形区画遺構や数軒の竪穴住居群がこの時期に相当する。方形区画周辺の地形は、西側から南側に低地がのびており、東側は現在よりも権津川の段丘が東にあったとみられるが、段丘と浅い低地によって区画された舌状先端地に連地している。区画溝の西辺は、張り出し部に沿って低地ラインとなっており、張り出し部の位置も低地の際一渚線によって決められた可能性がある。

方形区画遺構は、北西張り出し部から南東張り出し部までの規模46.9 mで、概ね方形を呈する。溝の覆土の状況から溝の内側に掘削土を盛って土塁を作っていた可能性がある。このため、外側を低地と川の崖で囲まれ、この中に溝と土塁の二重区画をしていたことになる。また、西辺やその張り出し部は低地に接しており、低地から区画溝へ導水していた可能性もある。





第58図 鹿島前遺跡における遺構の変遷

方形区画の時期の古墳は、北側 350 m 程の位置にある全長 47 m の吉田温泉神社古墳（温泉神社 1 号墳、）とそれを盟主とする方墳群である。吉田温泉神社古墳と方形区画遺構からは畿内系二重口縁壺が出土している。畿内系二重口縁壺は地域の「代表的首長」に認められるといわれる（比田井 1995）。吉田温泉神社古墳は、那珂川流域小川地区の第二代の首長墳であり、この前方後方墳と方形区画遺構が密接に関連した遺構であると理解できる。観音堂古墳からは S 字口縁の鉢が出ており、2 期になるであろう。

後述のように、本調査区の方墳は 2-2 期になることから、少なくとも方形区画から観音堂古墳まで約 90 m の間は幕域でなかったことになる。竪穴住居は、調査した部分が限定されるため、不明瞭な点もあるが、方形区画の北側に S 1-22・34、低地を挟んで西側に S 1-42 が建てられる。南側は那須八幡塚古墳墳丘下の住居跡から小型 S 字裏が出土しており、本期に位置付けられる。方形区画の近傍や低地を挟んだ周囲にも竪穴住居の集落が散在して展開し始める点特徴であるが、方形区画とは最も近い住居でも約 25 m 離れた位置にあり、方形区画の隔絶性が窺える。また、方形区画北側の竪穴住居は低地との際に選地しており、区画のある舌状部は空白地となっている可能性が高い。

方形区画と周辺集落、及び古墳について、このような景観に復元できたが、解明すべき課題が浮上する。第一に、方形区画が舌状に低地で区画された場所に選地された理由である。第二に、吉田温泉神社古墳と方形区画が約 350 m も離れた位置に造られているが、幕域と離れた位置にある理由である。第三に、周囲に展開した集落と方形区画との関係は何か、方形区画と集落の機能・性格に関わる問題である。

ところで、県内において古墳前期で、方形区画（居館）と古墳の関係が指摘されているのは、さくら市四斗蒔遺跡とお旗塚古墳がある。四斗蒔遺跡は 2 基の区画遺構が発見され、1 号遺構は南北の張り出し部間で約 47 m、東西約 40 m の規模で、鹿島前遺跡の規模に類する。一方、四斗蒔遺跡から約 400 m 離れた位置にあるお旗塚古墳は円形の内堀、方形の外堀をもつ古墳で、内堀の外径約 33 m、外堀の外側一辺約 40 m である。ここでは、古墳と居館の規模が比較的近似している点が特徴であり、鹿島前遺跡の方形区画と吉田温泉神社古墳の規模も近似している。お旗塚古墳とは円墳、前方後方墳という違いがあるが、居館と対応する古墳の規模が近似しているという共通点があることは指摘できる。居館・古墳築造に係る労働量、及び地域内における階層関係、墳形にみる対外関係など、地域の支配層を立体的にみていく上で重要な課題である。

## 2-2 期

観音堂古墳と方形区画の間に古墳が築かれる。温泉神社 22 号墳では脚部の長くのびた高環が出土しており、築造時期が想定でき、これよりも温泉神社 23 号墳が新しいことから、本期に位置付けた。このように方形区画の北側近傍にまで方墳群が築かれるようになる。

方形区画遺構は覆土中から出土した土器により、この時期にも区画は機能していたと考えられる。さらに、区画溝の覆土中からは鉄滓が出土し、その周辺で鉄器生産を行っていたと考えられる。また、区画の周囲から銅塊も出ている。威信財となる銅製品を生産していた可能性も指摘しておきたい。

区画内の当該期の遺構は S 1-16 や井戸 S E-14 も古墳前期になる可能性がある。S 1-16 は中央西寄りに位置し、脚部がやや長くなる高環が出土しており、本期に相当し、一辺 7 m 以上の比較的大型の遺構である。

方形区画周囲の竪穴住居は、2 期に属するものを含めても数が多くなる。特に、方形区画と方墳の間や低地の南西部で、竪穴住居が多く築かれるようになる。しかし、S 1-27・28・29・55 の重複が示すように、同時期の住居はさらに少なくなるであろう。

低地は、土層図による 5 層底面が方形区画遺構の溝を覆っていることから、図示した低地のラインは 2-

2期直後の状況となる。しかし、土器による時期区分に対応した低地の変化は把握できなかったことから、同一図で示した。

遺跡の南側に接する那須八幡塚古墳は、孔のない長くのびる脚部をもった高坏がある。SD-11でも脚部の長い屈曲高坏が遺構確認面から出ている。このため、方形区画で土壘が崩落し、溝が一定程度埋まった後に、那須八幡塚古墳が築造された可能性もあるが、脚部に孔もなくて、方形区画崩壊後に古墳が築かれた可能性もある。いずれにしても、低地を隔てていることから、直接の関係は薄いと推測される。また、那須八幡塚古墳の時期の竪穴住居は、今回の調査では確認されず、集落終焉後に第三代首長の古墳が築造されたことになる。

### 3期

古墳時代中期の土坑が低地内において確認されたが、低地内に住居群はなくて、完形の土器などが土坑内にある理由は判然としない。この時期の竪穴住居は、吉田温泉神社古墳周堀北東部や観音堂古墳の南西160m程の位置に散在している。調査地内で発見された土坑は、散在する住居群と関連するであろう。

#### 参考文献

- 内山敏行 2012「豪族居館・首長居宅と関わる鉄器生産—北関東地域の古墳時代鍛冶—」『たたら研究』第51号
- 片根義幸・藤田直也 2001「古墳時代前期の埴形土器について—栃木県における埴形土器の形態と消長—」『研究紀要』第9号（財）とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
- 小池勝典 2000「片口土器」「古墳時代における首長層の居館と奥津城の関連性に関する研究」（科学研究費補助金研究成果報告書）
- 小森紀男 1980「栃木県における五箇式土器の研究」『宇大史学』2
- 今平利幸 2000「下野における古墳時代前期外系土器の波及と定着」『栃木県考古学会誌』第21集
- 真保昌弘 1999『那須吉田新宿古墳群 発掘調査概要報告書』小川町教育委員会
- 真保昌弘 2003『那須小川古墳群』小川町教育委員会
- 鈴木芳英 2002「古墳出土土器編年のための集落出土土器編年」『栃木県考古学会誌』第23集
- 仲山英樹 2003「栃木県佐野市松山・エグロ遺跡の検討」『研究紀要』11（財）とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
- 橋本澄則 1981「栃木県」「古墳出現期の諸問題」日本考古学協会
- 橋本博文 2000「古墳時代における首長層の居館と奥津城の関連性に関する研究」（科学研究費補助金研究成果報告書）
- 橋本博文 2008「古墳時代の豪族居館と生産組織」『國學院雑誌』第109巻第11号
- 比田井克仁 1995「二重口縁壺の東国波及」『古代』第100号（『古墳出現期の土器交流とその原理』雄山閣2004年に再録）

## 鹿島前遺跡発掘調査に係るテフラ分析

(株) 火山灰考古学研究所

## 1. はじめに

関東地方北部に位置する栃木県域とその周辺には、男体山をはじめとする日光火山群、那須、赤城、浅間、榛名など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層位や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（町田・新井, 1992, 2003, 2011）などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代、さらには考古遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

那珂川町鹿島前遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な土層や遺構が認められたことから、現地で地質調査を行って、土層やテフラの層序記載を行うとともに、高純度の試料採取を実施した。その後、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析および火山ガラスの屈折率測定）を行って、すでに年代が明らかにされている指標テフラの検出同定を実施した。

調査分析の対象は、埋没谷部、温泉神社 22 号墳覆土断面（方墳周溝）、温泉神社 23 号墳覆土断面（方墳周溝）、1 区 S D -11 覆土断面（方形区画溝）、8 区 S D -11 覆土断面（方形区画溝）、S I -44 覆土断面（竪穴式建物）、S I -47（竪穴式建物）、S K -12（方形区画内円形土坑）、そして温泉神社 21 号墳（観音堂古墳周溝）の 9 地点である。

## 2. 調査地点の土層層序

## (1) 埋没谷部

埋没谷部では、発掘調査区南部に位置する段丘面を刻む谷の横断面を観察できた（図 1）。ここでは、腐植に富む非常に暗色のいわゆる黒ボク土の良好な断面を観察できた。ほぼ中位に認められるとくに暗い黒色土とその上位の黒灰褐色土中には、白色の粗粒火山灰が含まれている。

溝の最下部の土層中には、赤褐色のスコリア（最大径 19mm）や黄色の軽石（最大径 12mm）が多く含まれている。これらのテフラ粒子は、岩相からそれぞれ約 1.4 ~ 1.5 万年前に男体火山から噴出した男体今市スコリア（Nt-I）と、その直後の男体七本松軽石（Nt-S, 原田, 1943, 山崎, 1957, 町田・新井, 1992, 2003 など）に、それぞれ同定される。埋没谷以外の段丘面上では、段丘面を覆う砂質の赤土の最上部付近にそれらの層位がある。埋没谷部において谷の基底付近にあることは、この谷の埋没が少なくとも Nt-I 降灰前に始まったことを示唆している。なお、Nt-I と Nt-S の噴火については、最近では約 1.48 万年前とも考えられている（中村ほか, 2011）。

## (2) 温泉神社 22 号墳覆土断面（方墳周溝）

温泉神社 22 号墳の覆土は、下位より褐色土ブロック混じり灰褐色土（層厚 7cm）、灰褐色ブロック混じりでやや暗い灰褐色土（層厚 21cm）、暗灰褐色土（層厚 9cm）、黒灰褐色土（層厚 15cm）、色調がとくに暗い暗灰褐色土（層厚 7cm）からなる（図 2）。

## (3) 温泉神社 23 号墳覆土断面（方墳周溝）

温泉神社 23 号墳の覆土は、下位より灰褐色土（層厚 12cm）、暗灰褐色土（層厚 20cm）、黒灰褐色土（層

厚 18cm)、色調がとくに暗い暗灰褐色土(層厚 10cm)からなる(図 3)。

(4) 1区SD-11 覆土断面(方形区画溝)

1区におけるSD-11の覆土も、埋没谷部の覆土ほどではないものの、かなり腐植に富む特徴がある(図 4)。そのうち、下部には南方からのローム層の流入が認められる。

(5) 8区SD-11 覆土断面(方形区画溝)

8区におけるSD-11の覆土も、1区におけるSD-11の覆土と同様に、埋没谷部の覆土ほどではないものの、かなり腐植に富む特徴がある(図 5)。やはり、下部にはローム層の流入が認められ、ここではさらにその直下に褐色砂質土ブロック混じり灰褐色土(層厚 8cm)と非常に腐植に富む黒色土(層厚 22cm)があって、周囲からの地すべりなどによる土壌の流入の可能性が考えられる(図 5)。

(6) SI-44 覆土断面(竪穴式建物)

SI-44 覆土断面では、下位より暗灰褐色土(層厚 5cm)、灰褐色土(層厚 10cm)、暗灰褐色土(層厚 10cm)、黄色土ブロック混じり灰褐色土(層厚 16cm)、灰褐色土(層厚 14cm、水田作土)が認められる。

(7) SI-47 覆土断面(竪穴式建物)

SI-47 覆土断面では、下位より暗灰褐色土(層厚 7cm)、黒灰褐色土(層厚 13cm)、黒灰褐色土(層厚 10cm)、白色粗粒火山灰混じり黒灰褐色土(層厚 10cm)、白色粗粒火山灰混じり黒灰褐色土(層厚 15cm)、鉄分をやや多く含む灰褐色土(層厚 7cm)、暗灰色土(層厚 8cm)、やや褐色がかかった灰色土(層厚 13cm)が認められる(図 7)。

(8) SK-12 覆土断面(方形区画内円形土坑)

方形区画内円形土坑であるSK-12の覆土断面では、下位より黄褐色土ブロック混じり灰色土(層厚 10cm)、黒灰褐色土(層厚 24cm)、暗灰褐色土(層厚 35cm)、鉄分をやや多く含む灰褐色土(層厚 4cm)、暗灰色土(層厚 6cm)、灰色土(層厚 11cm、水田作土)が認められる(図 8)。

(9) 温泉神社 21 号墳(観音堂古墳周溝)

観音堂古墳の周溝である温泉神社 21 号墳の覆土は、下位より黄色土ブロック混じり黒色土(層厚 11cm)、黄色土ブロックを多く含む暗灰色土(層厚 13cm)、黄色土粒子混じり黒灰褐色土(層厚 11cm)、黒灰褐色土(層厚 26cm)、黒灰褐色土(層厚 46cm)、黄色土ブロックを少し含む暗灰褐色土(層厚 52cm)が認められる(図 9)。このうち、最上位の土層は試掘坑の覆土と推定されている。

### 3. テフラ検出分析

#### (1) 分析試料と分析方法

上述 9 地点において、層界にかからないように基本的に 5cm ごとに設定し、採取された試料のうちの 59 点について、含まれるテフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、テフラの降灰層準とその特徴を明らかにした。テフラ検出分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料 8g を秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴の概要を把握。

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表 1～3 に示す。比較的多くの試料において、おもに 4 種類の火山ガラスを検出

できた。それらは、全体的にほかの火山ガラスより粗粒で、さほど発泡が良くない白色、灰白色、灰色のスポンジ状軽石型ガラスで、班晶に斜方輝石および角閃石が認められるもの（タイプ1）、無色透明や淡灰色の分厚い中間型ガラス（タイプ2）、濃褐色のバブル型や繊維束状軽石型の火山ガラス（タイプ3）、淡褐～褐色で光沢のあるスポンジ状軽石型ガラス（タイプ4）である。タイプ1のうち、より下位の比較的細粒の火山ガラス（最大径1mm程度）をタイプ1a、より上位の比較的粗粒の火山ガラスをタイプ1bと呼ぶ。また、タイプ4のうち、発泡が良いものをタイプ4a、比較的良いものをタイプ4bとする。

磁鉄鉱など不透明鉱物以外の重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石、角閃石、黒雲母などが認められる。そのうち、多くの試料で認められる重鉱物は、斜方輝石と単斜輝石で、タイプ1の火山ガラスが出現する層準では、角閃石の割合が比較的高い特徴がある。黒雲母はかざられた試料で、ごくわずかに産出する。

#### 1) 埋没谷部

埋没谷において認められた土層断面の上半部からは、タイプ1の火山ガラスが検出された。ここでは、下位（試料12～試料6）で細粒のタイプ1aの火山ガラス（最大径1.1mm）が少量、そして上位（試料4）でより粗粒のタイプ1bの火山ガラス（最大径1.9mm）が比較的多く認められた。タイプ1aの火山ガラスは、試料8で増加することから、この火山ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準は試料8付近と考えられる。また、タイプ1bで特徴づけられるテフラの降灰層準は、試料4付近と推定される。

#### 2) 温泉神社22号墳覆土断面（方形区画溝）

温泉神社22号墳覆土断面（方形区画溝）では、試料3と試料1で、タイプ1aの火山ガラス（最大径1.2mm）を検出した。比較的下位の試料では、タイプ2やタイプ3の火山ガラスが少量認められる。

#### 3) 温泉神社23号墳覆土断面（方形区画溝）

温泉神社23号墳覆土断面（方形区画溝）では、試料8、試料4、試料2で、タイプ1a（最大径1.1mm）の火山ガラスを検出した。試料2では、ほかにタイプ4bの火山ガラスもごく少量ながら認められた。さらに、この地点の比較的下位の試料には、タイプ2やタイプ3の火山ガラスが少量含まれている。

#### 4) 1区S D-11 覆土断面（方形区画溝）

1区S D-11 覆土断面（方形区画溝）では、ほかの地点のようにタイプ1の火山ガラスが検出されることはなかった。この地点の試料14にはタイプ2、試料6にはタイプ3の火山ガラスが少量含まれている。

#### 5) 8区S D-11 覆土断面（方形区画溝）

8区S D-11 覆土断面（方形区画溝）では、試料5、試料3、試料1で、タイプ1aの火山ガラス（最大径1.2mm）が少量ずつ認められた。試料31や試料27にはタイプ3、また、試料11にはタイプ2の火山ガラスが少量含まれている。このほか、試料9ではタイプ4aの火山ガラスを比較的多く認めることができた。さらに、試料4には、黄色に風化した黄色軽石型ガラスがわずかに含まれている。

#### 6) S I-44 覆土断面（竪穴式建物）

S I-44 覆土断面（竪穴式建物）では、試料2にタイプ1aの火山ガラス（最大径1.2mm）がごく少量ながら含まれている。また、試料8では、タイプ2やタイプ3の火山ガラスがごく少量認められる。

#### 7) S I-47（竪穴式建物）

S I-47（竪穴式建物）では、試料5にタイプ1の火山ガラス（最大径1.4mm）が比較的多く含まれている。粒径が比較的微妙な大きさではあるが、より下位の試料でこのタイプの火山ガラスが認められなかったことから、より下位に層位があるタイプ1aと考えておく。

#### 8) S K-12（方形区画内円形土坑）

S K -12 (方形区画内円形土坑) では、試料 10 でタイプ 1a (最大径 1.0mm)、試料 6 でタイプ 1b (最大径 1.6mm) の火山ガラスが少量ずつ認められた。また、試料 14 には、タイプ 3 の火山ガラスがごくわずかに含まれている。

#### 9) 温泉神社 21 号墳 (観音堂古墳周溝)

温泉神社 21 号墳 (観音堂古墳周溝) では、試料 6 および試料 2 にタイプ 1a の火山ガラス (最大径 1.0mm) が少量含まれている。また、試料 18 や試料 18' にタイプ 2 の火山ガラスが少し含まれている。

### 4. 屈折率測定 (火山ガラス)

#### (1) 測定試料と測定方法

テフラ検出分析により特徴的な火山ガラスが検出された試料のうち、埋没谷部の試料 8 と試料 4、さらに S D -11 (8 区方形区画溝) の試料 9 に含まれる火山ガラスの屈折率測定を行い、指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定対象は、テフラ検出分析後に、分析館による篩別で得られた  $>1/4\text{mm}$  粒子から、実体顕微鏡下でピックアップした火山ガラスを軽く粉砕したものの中の火山ガラスである。

#### (2) 測定結果

屈折率の測定結果を表 4 に示す。この表には、関東地方北西部の後期旧石器時代以降の代表的な指標テフラの火山ガラスの屈折率特性も示した。

埋没谷部の試料 8 に含まれる火山ガラス (32 粒子) の屈折率 (n) は 1.496-1.503 である。また、埋没谷部の試料 4 に含まれる火山ガラス (30 粒子) の屈折率 (n) は、1.497-1.502 である。さらに、S D -11 (8 区方形区画溝) の試料 9 に含まれる火山ガラス (30 粒子) の屈折率 (n) は、1.516-1.520 である。

### 5. 考察

#### (1) 指標テフラとの同定

屈折率測定の対象にもなったタイプ 1 の、さほど発泡が良くない白色、灰白色、灰色のスポンジ状軽石型ガラスのうち、より下位にある比較的細粒のタイプ 1a は、岩相や珪晶鉱物の組み合わせ、さらに火山ガラスの屈折率特性から、6 世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋谷テフラ (Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992 など) に由来すると考えられる。また、それより上位のより粗粒のタイプ 1b の火山ガラスは、岩相や珪晶鉱物の組み合わせ、さらに火山ガラスの屈折率特性から、6 世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ (Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992 など) に由来すると考えられる。

本地域では、これまで、Hr-FP の降灰は比較的良好に知られていたものの、Hr-FA に関しては広い範囲に降灰したにもかかわらず (新井, 1979 など)、Hr-FP との明確な識別が困難な状況にある。そのおもな要因は、両者の岩石記載の特徴がよく似ていることによる。そこで、2 層の一次堆積層を同一断面で確認し、詳細な分析を行うことが期待されている。今回は、いずれも一次堆積ではないものの、埋没谷部の土層の状況が良いことから、2 層の存在を確認できた可能性が高い。Hr-FA は、東北地方南部でも良好な時空軸として利用できる可能性が高いことから、引き続き、2 層のテフラの一次堆積層の同時確認を行う必要がある。

タイプ 2 の無色透明や淡灰色の分厚い中間型ガラスや、タイプ 3 の濃褐色のバブル型や繊維束状軽石型の火山ガラスで特徴づけられるテフラの層位は、本遺跡で検出された遺構より下位の基盤の土層に由来する可能性が高い。前者は、岩相から約 1.5 ~ 1.65 万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 新井,

1962, 町田・新井, 1992, 2003) に由来する可能性を指摘できる。一方、タイプ3の火山ガラスに関しては、その形態から大規模噴火に由来する可能性が高いが、少なくとも、このタイプの火山ガラスを含む約5,000年前以降のテフラは知られていない。そこで、このタイプ3の火山ガラスは、那須地域に多く分布する中期更新世以前の火砕流堆積物に由来すると思われる。

タイプ4aの褐色の軽石型ガラスに関しては、Hr-FPより上位にあることや、その岩相から、1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(荒牧, 1968, 新井, 1979)あるいは1128(大治3)年に浅間火山から噴出したと考えられている浅間粕川テフラ(As-Kk, 早田, 1991, 1996など)に由来すると考えられる。

Hr-FAのすぐ下位に降灰層準がある可能性が高いタイプ4bの火山ガラスの起源については、現在のところ不明な点が多い。過去2,000年間の火山噴火史と本遺跡の位置から考えると、那須火山、日光白根火山、燧ヶ岳火山あたりを起源とするテフラかも知れない。ここでは、このテフラを「鹿島前テフラ(Ksm)」と呼ぶことにする。

なお、那須地域では、まだ3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)の検出例が知られていない。As-CやKsmも、今後この地域の古墳時代前期編年の鍵になる可能性がある。

なお、I区SD-11覆土断面(方形区画溝)の試料4で認められた黄色に風化した軽石型ガラスについては、岩相から、NtSに由来する可能性が高い。

## (2) 遺構と指標テフラとの層位関係

### 1) 温泉神社22号墳覆土断面(方形区画溝)

覆土中にHr-FAの降灰層準(試料3付近)が検出されたことから、その層位はHr-FAより下位と考えられる。

### 2) 温泉神社23号墳覆土断面(方形区画溝)

覆土中にHr-FAの降灰層準(試料8付近)が検出されたことから、その層位はHr-FAより下位と考えられる。

### 3) I区SD-11覆土断面(方形区画溝)

覆土中にHr-FAやHr-FPに由来する火山ガラスが認められない。このことは、これらのテフラの降灰以前に方形区画溝が埋まっていたことを示唆している。したがって、I区においてSD-11はHr-FAより下位の可能性が高い。

### 4) 8区SD-11覆土断面(方形区画溝)

覆土中にHr-FAの降灰層準(試料5付近)が認められたことから、8区においてもSD-11の層位はHr-FAより下位と考えられる。なお、覆土中のHr-FAすぐ下位(試料9)付近に、特徴的なタイプ4aの火山ガラスが検出された。この火山ガラスの岩相は、今回検出が期待されたAs-Cの岩相とは明らかに異なる。今後、このテフラに注意して、その層位や年代、さらに給源などを明らかにする必要がある。

### 5) SI-44覆土断面(竅穴式建物)

覆土中にHr-FAの降灰層準(試料2付近)が認められたことから、その層位はHr-FAより下位と考えられる。

### 6) SI-47(竅穴式建物)

覆土中にHr-FAの降灰層準(試料5付近)が認められたことから、その層位はHr-FAより下位と考えられる。

### 7) SK-12(方形区画内円形土坑)

覆土中にHr-FAの降灰層準(試料10付近)が認められたことから、その層位はHr-FAより下位と考えられる。

### 8) 温泉神社21号墳(観音堂古墳区画溝)

覆土中にHr-FAの降灰層準(試料6付近)が認められたことから、その層位はHr-FAより下位と考えられる。



以上のように、1区SD-11覆土断面をのぞく7地点の遺構覆土で、Hr-FAの降灰層準が認められた。また、1区SD-11覆土断面では、Hr-FAは検出されなかったものの、遺構の層位はHr-FAより下位の可能性が高く、8区のSD-11もHr-FA降灰層準より下位であることがわかった。つまり、今回の分析対象遺構は、いずれもHr-FAより下位、つまり6世紀初頭以前と考えられる。この層位と年代観は、考古学的に推定されている4世紀代を支持するものである。

## 6. まとめ

那珂川町鹿島前遺跡において、地質調査を行って土層層序やテフラの産状の観察記載を行うとともに、高純度で分析試料を採取した。その後、室内でテフラ分析（テフラ検出分析・火山ガラスの屈折率測定）を実施した結果、下位より榛名ニッ岳渋谷テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）、榛名ニッ岳伊香保テフラ（Hr-FP、6世紀中葉）、浅間Bテフラ（As-B、1108年）あるいは浅間柏川テフラ（As-Kk、1128年）などに由来するテフラ粒子を検出することができた。とくに、土層の状況が良好な埋没谷部において、Hr-FAとHr-FPの2層のテフラの降灰層準を把握できた可能性が高いことは、本遺跡を含め、今後那須地域における古墳時代の編年研究に役立つ。今回の分析対象の7遺構については、いずれもHr-FAより下位と考えられる。また、遺構との層位関係は不明であるが、Hr-FAより下位に新たに鹿島前テフラ（Ksm）を認めることができた。

## 文献

- 新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79。  
 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル，no.53，p.41-52。  
 荒牧重雄（1968）浅間火山の地質。地質研専報，10，45p。  
 増原 徹（1993）温度変化型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」，東京大学出版会，p.149-158。  
 原田正夫（1943）関東ロームの生成に就いて。東大土壌肥科学室報告，3，p.3-140。  
 町田 洋・新井房夫（1992）「火山灰アトラス」。東京大学出版会，276p。  
 町田 洋・新井房夫（2003）「新編火山灰アトラス」。東京大学出版会，336p。  
 町田 洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス（第2刷）」，東京大学出版会，336p。  
 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学—考古学研究に關係するテフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」。p.865-928。  
 中村洋一・松井誠一郎・布川嘉英（2011）男体今市層（Nt-I）および男体七本榎層（Nt-S）の噴出年代。日本火山学会2011年度秋季大会講演予稿集，p.73。  
 坂口 一（1986）榛名ニッ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」。p.103-119。  
 坂口 一（2010）高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係—。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」。p.17-22。  
 早田 勉（1989）6世紀における榛名山の2回の噴火とその災害。第四紀研究，27，p.297-312。  
 早田 勉（1991）浅間火山の生い立ち。佐久考古通信，No.53，p.2-7。  
 早田 勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，7，p.256-267。  
 早田 勉（2014）渋川市有馬寺畑遺跡におけるテフラ分析。渋川市教育委員会編「有馬寺畑遺跡」。p.197-211。  
 山崎正男（1957）男体火山末期の噴火。火山，2，p.63-76。

表1 テフラ検出分析結果(1)

地点名	試料	輝石・スフィア			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
櫻丘平部	2				*	ps(sp)	白	opx, am, cpx
	4				**	ps(sp)	白, 灰白	opx, am, cpx
	6				**	ps(sp)	白, 灰白, 灰	opx, am, cpx
	8				**	ps(sp)	白, 灰白, 灰	opx, am, cpx
	10				*	ps(sp)	灰白	opx, cpx, (am)
	12				*	ps(sp), pm(fs)	白, 灰白, 灰	opx, cpx, (am)
	16							opx, cpx, (am)
	20							opx, cpx, (am)
	22							opx, cpx, (am)
	24							opx, cpx, (am)
温泉神社22号墳 (古墳内溝)	1				*	ps(sp)	白, 灰白, 灰	opx, am, cpx
	3				*	ps(sp), bw, rd	白, 灰白, 灰, 濃緑, 無色透明	opx, am, cpx
	5				*	bw, md	濃緑, 無色透明	opx, cpx, am
	9				*	bw, md	濃緑, 無色透明	(opx, cpx)
	11				*	bw, pm(fs)	濃緑	(opx, cpx)
温泉神社23号墳 (古墳周出)	2				*	ps(sp), bw	白, 灰, 濃緑	opx, am, cpx
	4				*	ps(sp), bw, rd	白, 灰, 濃緑, 無色透明	opx, am, cpx
	8				*	ps(sp), bw	白, 灰白, 濃緑	opx, am, cpx
	12				*	md, bw, pm(fs)	無色透明, 濃緑	opx, cpx, am

\*\*\*\*: とくに多い, \*\*\*: 多い, \*\*: 中程度, \*: 少ない, (\*): とくに少ない, 最大径の単位:  $\mu\text{m}$ .

bw: バブル型, md: 中実型, pm: 粒石型, sp: スポンジ状, fs: 縁縁実状.

重鉱物(鉄鉱物以外)は, ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 碧雲石.

( ): 量が少ないことを示す.

表2 テフラ検出分析結果(2)

地点名	試料	輝石・スフィア			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
SD-11 (11区方形区画溝)	2							opx, cpx, (am)
	4				(*)	pe(sp)	黄(黄化)	opx, cpx, am
	6				(*)	pe(sp), bw	灰白, 濃緑	opx, cpx, am
	10							opx, cpx, am
	12							opx, cpx, bi
	14				(*)	md	無色透明	opx, cpx, am
	16							opx, cpx, am
	18							opx, cpx
	20							(opx, cpx, am)
SD-11 (9区方形区画溝)	1				*	pe(sp), md	白, 無色透明	opx, cpx, am
	3				*	pe(sp)	白	opx, cpx, am
	5				*	pe(sp)	白	opx, cpx, am
	9				**	pe(sp)	灰緑>白	opx, cpx, am
	11				*	md	無色透明	opx, cpx
	15							opx, cpx
	17							opx, cpx, (am)
	18							opx, cpx, am
	19							opx, cpx
	23							opx, cpx, (am)
	27				(*)	bw, pm(fs)	濃緑	opx, cpx
31				(*)	bw	濃緑	opx, cpx, am	

\*\*\*\*: とくに多い, \*\*\*: 多い, \*\*: 中程度, \*: 少ない, (\*): とくに少ない, 最大径の単位:  $\mu\text{m}$ .

bw: バブル型, md: 中実型, pm: 粒石型, sp: スポンジ状, fs: 縁縁実状.

重鉱物(鉄鉱物以外)は, ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 碧雲石.

( ): 量が少ないことを示す.

表3 テフラ検出分析結果(3)

地点名	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		重鉱物
		量	色調	最大径	形態	色調	
S I-44 (型穴式燻炉)	2			(*) pm(sp)	白		opx, cpx, mt
	4						opx, cpx, mt
	6						opx, cpx, mt
	8			(*) md, bw	流孔, 薄層		opx, cpx
S I-47 (型穴式燻炉)	3			* pm(p)	円		opx, cpx, mt
	5			** pm(sp)	円, 灰白, 灰		opx, cpx, mt
	7			** pm(sp)	円, 灰白, 灰		opx, cpx, mt
	9						opx, cpx
	11						opx, cpx
S K-12 (方形区画内 円形穴状)	2			* pm(sp)	円, 灰白		opx, cpx, mt
	6			* pm(p)	円, 灰白, 灰		opx, cpx, mt
	8			* pm(sp)	円, 灰白, 灰		opx, mt, cpx
	14			(*) bw	薄層		opx, cpx, (am)
温泉神社 21 号墳 (龍宮堂大須石溝)	2			* pm(p)	円		opx, cpx, (am)
	6			* pm(sp)	円		opx, cpx, mt
	12						opx, cpx, mt
	16						opx, cpx, mt
	18'			(*) md	無色透明		opx, cpx, mt
18			* md	無色透明, 流孔		opx, cpx, mt	

\*\*\*: とくに多い, \*\*: 多い, \*: 中程度, \*: 少ない, (e): とくに少ない。最大径の単位: cm。

bw: バブル型, md: 中実型, pm: 軽石型, sp: スポンジ状, th: 塊状薄板, opx: 珪酸塩, cpx: 斜方輝石, mt: 黒雲母, am: 葉状石, ol: カンラン石, ool: 斜方輝石, cpx: 斜方輝石, mt: 黒雲母, bi: 黒雲母。

( ): 量が少ないことを示す。

表4 屈折率測定結果

試料・テフラ	火山ガラス		文献
	円柱率 (n)	測定粒子数	
連洗谷部・試料4	1.497-1.502	30	△熊谷
連洗谷部・試料8	1.496-1.503	32	△熊谷
S D-11 (8区方形区画溝)・試料9	1.516-1.520	30	△熊谷
〈標準典拠の代表的な標準テフラ〉			
浅間A (An-A, 1783年)	1.507-1.512		1)
浅間B (An-B, 1109年)	1.524-1.532		1)
権赤二ツ笠伊香保 (He-IP, 6世紀中葉)	1.501-1.505		1)
権赤二ツ笠赤川 (He-FA, 6世紀初葉)	1.500-1.502		1)
	1.498-1.505		3)
浅間C (An-C, 3世紀後半)	1.515-1.520		1)
浅間D群石 (As-D, 約4,500年前 <sup>*)</sup> )	1.513-1.516		1)
沼沢湖 (Na-1, 約5,000年前 <sup>*)</sup> )	1.509-1.505		1)
奥野アホヤ (Ok-Ah, 約1,300年前 <sup>*)</sup> )	1.506-1.513		1)
浅間神社 (As-Sj, 約1.0~1.1万年前 <sup>*)</sup> )	1.501-1.518		4)
群体七本柱・今市 (A1-S, A1-1, 約1.4~1.5万年 <sup>*)</sup> )	1.500-1.503	Nt-S:	1)
浅間草津 (As-K)	1.501-1.503		1)
浅間飯島紫色 (An-YP, 約1.5~1.65万年 <sup>*)</sup> )	1.501-1.505		1)
浅間大塚窪2 (An-Ok2, 約1.6万年 <sup>*)</sup> )	1.502-1.504		1)
浅間大塚窪1 (An-Ok1, 約1.7万年 <sup>*)</sup> )	1.500-1.502		1)
浅間白草 (As-Sr)	1.506-1.510		1)
浅間萩生 (As-Hg, 約1.9万年 <sup>*)</sup> )	1.500-1.502		2)
浅間飯島紫色 (群) (As-IP group)		上部	1.515-1.520
		中部	1.508-1.511
		下部	1.505-1.515
塩釜Tn (AT, 約2.8~3万年 <sup>*)</sup> )	1.499-1.500		1)
赤城惣田 (Ag-TP, 約4.5~5万年 <sup>*)</sup> )	1.504-1.508		1)

1) 町田・新井 (1992, 2003, 2011); 2) 早田 (1990); 3) 早田 (2014); 4) 早田 (未発表)。

本報告: 高度一定屈折率測定装置 (MS10T)・3); 高度変化屈折率測定法 (深根, 1993)。

その他: 高度一定屈折率測定法 (野村, 1972, 1992)。

\*): 放射性炭素 (<sup>14</sup>C) 年代。

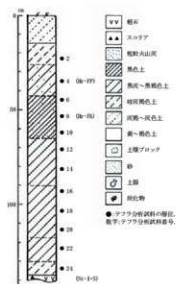


図1 埋没谷部の土層柱状図

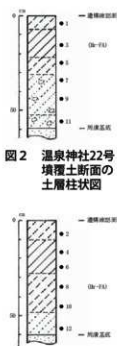


図2 温泉神社22号埋没部断面の土層柱状図

図3 温泉神社23号埋没部断面の土層柱状図

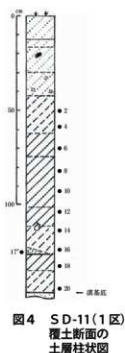


図4 SD-11(1区)埋没部断面の土層柱状図

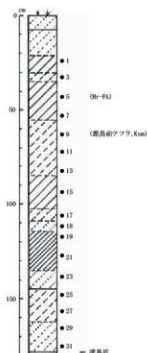


図5 SD-11(8区)埋没部断面の土層柱状図

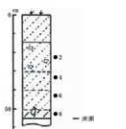


図6 S I-44埋没部断面の土層柱状図

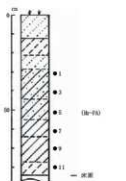


図7 S I-47埋没部断面の土層柱状図

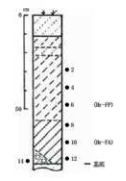


図8 S K-12埋没部断面の土層柱状図

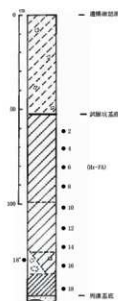


図9 温泉神社21号埋没部断面の土層柱状図

テフラ分析写真図版

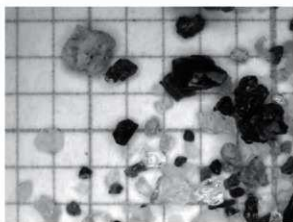


写真1 埋没谷部・試料4（落射光下）

背景：1mmメッシュ。Hr-FPに由来する可能性が高い白色や灰白色の軽石型火山ガラスが含まれている。

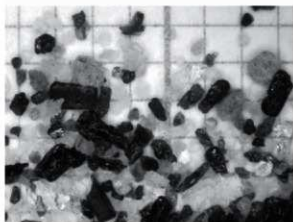


写真2 埋没谷部・試料12（落射光下）

背景：1mmメッシュ。Hr-FAに由来する白色、灰白色、灰色の軽石型火山ガラスが含まれている。

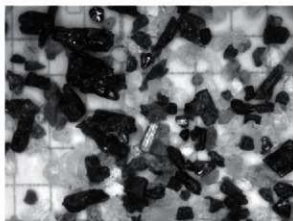


写真3 8区SD-11・試料9（落射光下）

背景：1mmメッシュ。光沢をもつ褐色の軽石型ガラスが認められる（中央）。

# 写真図版



鹿島前遺跡全景（北西から）



1・5・8区 全景（西から）



温泉神社 22・23号墳 全景（西から）



温泉神社 22号墳 全景（南東から）



温泉神社 22号墳 全景（北西から）



温泉神社 22・23号墳 土層（南東から）



温泉神社 22号墳 土層（東から）



温泉神社 23号墳 土層（南東から）



温泉神社 23号墳 土層A（南東から）



温泉神社 22号墳 南西部遺物出土状況（南西から）





温泉神社 21 号墳 周溝南辺 (南から)



温泉神社 21 号墳 周溝南辺 (南東から)



温泉神社 21 号墳 土層 (南東から)



区画溝北辺 (南西から)



5 区 張り出し部 (北西から)



5 区 区画溝西辺 (南西から)



8 区 区画溝南辺 (北北東から)



1 区 SD-11 トレンチ内遺物出土状況 (北東から)

図版四  
遺構  
方形区画遺構



SD-11 全景 (上空から)



1区 区画溝北辺 (南西から)



5区 西辺から張り出し部 (南西から)



8区 区画溝西コーナー (西から)



8区 区画溝西コーナー (南東から)



1区SD-11 上層~中層遺物出土状況 (南東から)



1区SD-11 トレンチ内遺物出土状況 (北から)



5区SD-11 西辺含土の状況 (西から)



5区SD-11 遺物出土状況 (東から)



5区SD-11 南寄り遺物出土状況 (西から)



5区SD-11 北辺壺(33)出土状況 (北西から)



8区SD-11 土層 (南東から)



8区SD-11 南半部土層 (南東から)



8区SD-11 上層～中層遺物出土状況（東から）



8区SD-11 壺(47)出土状況（南東から）



S1-1 全景（南から）



S1-1 A-A'土層（南西から）



S1-1 B-B'土層（南東から）



S1-2 全景（南東から）



S1-2 土層（東から）



S1-6 全景（西から）



S1-6 土層 (北西から)



S1-9 井戸・土坑土層 (南東から)



S1-9 鉄器出土状況 (西から)



S1-10 全景 (北西から)



S1-10 香炉出土状況 (西から)



SD-7 全景 (東から)



SD-7 (1区) 土層 (北東から)



SD-7 (1区) 中層礫出土状況 (北東から)



SK-8 土層 (西から)



SI-16 全景 (北西から)



SI-16 土層 (南西から)



SK-12 全景 (西から)



SK-13 土層 (北西から)



3区 東トレンチ全景 (南から)



SI-21・22 全景 (南から)



SI-21・22 土層 (南西から)



S I - 21・22 土層重複関係 (南から)



S K - 19・20 全景 (北東から)



S K - 19 土層 (東から)



S K - 20 土層 (北東から)



S I - 23・24 全景 (北東から)



S I - 23 土層 (北から)



S I - 23 高坏出土状況 (南から)



S I - 24 全景 (北から)



S I-24 土層 (北東から)



S I-24 東壁際遺物出土状況 (北東から)



S K-25 土層 (南から)



S K-49 全景 (北から)



S K-49 土層 (北東から)



4区 東トレンチ遺構確認状況 (北から)



S I-27 全景 (東から)



S I-28 全景 (東から)





S I - 27・28・55 土層 (南西から)



S I - 27・28 土層重複関係 (西から)



S I - 28・55 土層 (南東から)



S I - 28・55 土層重複関係 (東から)



S I - 27 北部遺物出土状況 (南西から)



S I - 28 壺出土状況 (東から)



S I - 29 全景 (東から)



S I - 29 土層 (南東から)



4区 北トレンチ (東から)



S1-26 全景 (南から)



S1-26 土層 (南東から)



S1-50 全景 (北から)



S1-50 土層 (北東から)



4区 南トレンチ (東から)



S1-30 土層 (西から)



S1-30 遺物出土状況 (北東から)



S I - 31 全景 (東から)



S I - 31 土層 (南東から)



S I - 31 竪 (6) 出土状況 (南西から)



S I - 33 全景 (北から)



S I - 33 土層 (南西から)



S I - 34 全景 (西から)



S I - 34 土層 (北東から)



S I - 34 北西隅遺物出土状況 (南から)



S1-32 全景 (西から)



S1-32 全景 (南から)



S1-32 土層 (東から)



S1-32 遺物出土状況 (北から)



S1-35・36 全景 (南から)



S1-36 全景 (西から)



S1-36 土層 (西から)



S1-38 カマド (北から)



S I - 41 全景 (東から)



S I - 41 土層 (北東から)



S I - 42 全景 (東から)



S I - 42 土層 (北東から)



S I - 42 遺物出土状況 (北東から)



S I - 42 確認面南半部遺物出土状況 (南西から)



S I - 39 土層 (北東から)



S I - 39 遺物出土状況 (東から)



S I - 43 土層 (北東から)



S I - 44 全景 (南から)



S I - 44 土層 (南西から)



S I - 44 遺物出土状況 (南西から)



13区 全景 (北から)



S I - 45 全景 (南東から)



S I - 45 土層 (南東から)



S I - 46 全景 (南から)



S I-46 土層 (北西から)



S I-46 北部土層 (北西から)



S I-46 中央部土層 (北西から)



S I-46 南部土層 (西から)



S I-46 中央部遺物出土状況 (北から)



S I-47 全景 (南から)



S I-47 南部土層 (南東から)



S I-47 中央部土層 (北東から)



SI-47 北部土層 (北東から)



SI-47 北壁際鉢(1) 出土状況 (南から)



SI-48 全景 (北から)



SI-52・53 全景 (北から)



SK-51・SI-52 土層 (東から)



SI-53 全景 (南から)



SI-53 土層 (東から)



SI-54 全景 (南東から)





S I - 54 北部土層 (南西から)



S I - 54 中央部土層 (南西から)



S I - 54 南部土層 (南西から)



S I - 54 遺物出土状況 (南から)



SD-7 (7区) (西から)



SD-7 5区北トレンチ (西から)



14区 北端遺物出土状況 (南東から)



調査区全景 (南から)



低地土層 A-A' (北東から)



低地土層 B-B' (南西から)



低地土層 C-C' (南西から)



低地土層 D-D'西部 (南東から)



低地土層 D-D'中央部 (南東から)



低地土層 D-D'東部 (南東から)



低地土層 D-D'深掘り調査地 (南から)



低地土層 E-E'西部 (南西から)



低地土層 E-E'東部 (南東から)



低地土層 E-E'深掘り調査地 (南から)



低地土層 F-F' (南西から)



低地土層 F-F' (南東から)



低地土層 G-G' (南東から)



低地土層 G-G' (北東から)



低地土層 H-H' (南西から)



低地土層 H-H' (南東から)



低地土層 I-I' (北東から)



低地土層 I-I' 南部 (東から)



低地土層 I-I' 中央部 (東から)



低地土層 I-I' 北部 (東から)



低地土層 K-K' (北東から)



低地土層 J-J' (南東から)



低地土層 M-M' (南東から)



低地土層 M-M' 南部 (東から)



低地土層 M-M' 中央部 (東から)



低地土層 M-M' 北部 (東から)



低地土層 L-L' (北東から)



低地土層 N-N' (北東から)



低地土層 O-O' (北東から)



低地土層 W-W' (南東から)



低地土層 P-P' (南東から)



低地土層 Q-Q' (南西から)



低地土層 R-R' (北西から)



低地土層 T-T' (南東から)



低地土層 U-U' (西から)



低地土層 V-V' (南西から)



低地土層 S-S' (北西から)



低地土層 X-X' (北西から)



低地土層 Y-Y' (北西から)



低地土層 Z-Z' 南部 (南東から)



低地土層 Z-Z' 中央部 (南東から)



低地土層 Z-Z' 北部 (北西から)



温泉神社 22号墳 5



SD-11 9



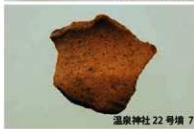
SD-11 23



SD-11 11



SD-11 25



温泉神社 22号墳 7



SD-11 14



SD-11 26



SD-11 1



SD-11 15



SD-11 28



SD-11 16



SD-11 29



SD-11 2



SD-11 18



SD-11 33



SD-11 8



SD-11 20



SD-11 35















遺構外 11 区 3



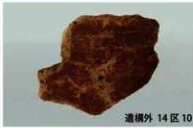
遺構外 14 区 7



遺構外 21 区 1



遺構外 14 区 1



遺構外 14 区 10



遺構外 県教委調査分 1



遺構外 14 区 2



遺構外 14 区 12



遺構外 県教委調査分 2



遺構外 14 区 3



遺構外 14 区 12



遺構外 県教委調査分 4



遺構外 14 区 4



遺構外 17 区 1



遺構外 県教委調査分 7



遺構外 14 区 5



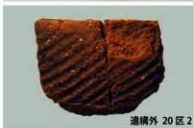
遺構外 20 区 1



遺構外 県教委調査分 8



遺構外 14 区 6



遺構外 20 区 2



遺構外 10 区表探 3

## 報告書抄録

ふりがな	かしままえいせき
書名	鹿島前遺跡
副書名	国指定史跡那須小川古墳群隣接地における栃木県重要遺跡範囲確認調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第377集
編著者名	津野 仁
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2015年9月30日 (平成27年9月30日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かしままえいせき 鹿島前遺跡	那須川町 吉田	09411	1864	36° 44' 34"	140° 08' 20"	20150113~ 20150327	24,897㎡	重要遺跡 範囲確認 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鹿島前遺跡	墳墓・ 集落等	古墳時代	方墳 3基 方形区画遺構 1基 竪穴住居跡 37軒 (古墳前期33軒) 土坑・溝・低地	土師器(壺・甕・器台・小型壺・ 高坏・甗など) 鉄器・鉄滓・銅塊	古墳前期の張り出し部をもつ 方形区画遺構と古墳などを確 認

要約	<p>方形区画遺構は、権津川に面し、低地で画された舌状の台地先端部に造られる。また、方形区画の構築初期には竪穴住居群は方形区画に隣接せず、隔絶している。この区画には溝と土塁が巡り、内部には竪穴住居や井戸が造られた可能性がある。居住者は、那須川流域の小川地区で、駒形大塚古墳に次ぐ那須小川古墳群第二代首長で、前方後方墳温泉神社古墳の被葬者と考えられる。その後、方形区画の周囲には、竪穴住居が増加して、集落群を形成する。鉄器・銅生産もこの周囲で行われている。さらに、方墳群も方形区画の近くに造られるようになる。地域における首長層の方形区画施設と集落、手工業生産と古墳の関係について、その一端が明らかになった。</p> <p>集落群が消える時期に、方形区画の土塁は崩落し、溝も埋まり、廃絶する。この時期に低地を挟んで南側に第三代首長の墓である那須八幡塚古墳が築かれる。</p>
----	---

---

---

栃木県埋蔵文化財調査報告第 377 集

鹿島前遺跡

—国指定史跡那須小川古墳群隣接地における  
栃木県重要遺跡範囲確認調査—

- 発行 栃木県教育委員会  
宇都宮市塩田 1-1-20  
TEL 028 (623) 3425  
公益財団法人とちぎ未来づくり財団  
宇都宮市本町 1-8  
TEL 028 (643) 1011
- 編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団  
埋蔵文化財センター  
下野市紫 474 番地  
TEL 0285 (44) 8441
- 発行日 平成 27 年 9 月 30 日発行  
印刷 下野印刷株式会社
- 
-